

3. 環境指標種解説

維管束植物の環境指標種としては、レッドデータブック掲載種（国リストとして掲載した種を含む）を除く種の中から、よく目立つものであること、識別が比較的容易であることなどの条件を考慮し、100種を選定した。また、ニホンジカの食害が激しい場所で目立つようになる植物として、マツカゼソウについても記述した。種は基本的に全種目録と同順に配列したが、近似種を並べたため、一部逆転している。記述は、レッドデータブック／ブルーデータブック掲載種に準じ、凡例のような方針で行った。執筆は、スズカカンアオイ、ヒメカンアオイ、オオタチヤナギ、エイザンスミレ、ニオイタチツボスミレの5種については村松（一部芹沢が加筆）、他は芹沢が担当した。調査に協力して標本を採集してくださった方の氏名は、引用標本の採集者名として表記した。

なお、レッドデータブック掲載種については重複を避けるため今回の対象種から除外したが、実際には準絶滅危惧種の一部や、国リストとして掲載した種の多くは、今回選定した種と同様に環境指標性が高い。これらの種についても、併せて観察してほしい。

凡 例

【概要】

対象種のおよその特徴、指標種として選定した理由などについて、簡略に記述した。

【形態】

対象種のおよその形態的特徴を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り、愛知県産の材料に基づくものである。

【分布の概要】

対象種の分布状況については、県内・国内・世界での概要を記述した。県内分布は、分布表と同様県内を77区画に分けて示し、区画ごとに代表的な標本1点（一部については2～3点）を引用した。標本は、原則として採集年月日が新しいものを優先して引用したが、標本の状態等を考慮してこの原則によらなかった場合もある。観察の便宜を図るため、その標本のラベルに書かれている産地の大字や山、河川名なども示した（例えば、ラベルに下山村田代と書かれている場合、現在の地名は豊田市下山田代町であるが、「21 田代」と表記してある）。本報告の著者4人と小林元男氏については、採集者氏名のうち名を省略した。他の採集者も、同一人が続く場合は名を省略した。また、愛知みどりの会収蔵標本（分布表ではAと表記）は所在を省略した。愛知みどりの会、なごや生物多様性センター（N、収蔵予定を含む）、豊橋市立自然史博物館（T、収蔵予定を含む）以外に収蔵されている標本については、分布表に収録されているものであっても、今回は引用しなかった。

国内および世界の分布については、各種文献を総合して記述した。

【生育地の環境／現在の生育状況】

対象種の生育環境、愛知県における現在の生育状況等について記述した。また、横に地形、縦におよその水条件（草・岩は草地・岩崖地等の略）をとった区分図に、主要な生育範囲を示した。岩崖地等の樹林を構成する種は森林、草・岩双方をマークし、林内の沢沿い小湿地に生育する種は森林のみ、湿地林の構成種は湿地のみをマークした。

【観察上の留意点】

対象種を観察する上で特に注意すべき事項について記述した。この項は、特に注意すべき事項がな

ければ省略した。

【似た種類】

対象種に近似した種類がある場合は、それからの区別点（またはその区別点）を記述した。ただし、区別点が観察上の留意点に直結する場合は、区別点を前項に記述したことがある。必要な場合は、その近似種の県内分布についても記述した。

【特記事項】

異名、和名の語源など、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

本稿は可能な限り文献によらず、標本と現地観察にもとづいて記述したが、記述中に引用した文献がある場合はその文献を、著者、発行年、表題、雑誌名とその掲載頁（単行本の場合は総ページ数、発行機関、その所在地）の順に示した。

【関連文献】

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、雑誌名とその掲載頁（単行本の場合は総ページ数、発行機関、その所在地）の順に示した。

多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

保シダ：田川基二. 1959. 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社, 大阪.

保草Ⅰ：北村四郎ほか. 1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ. 保育社, 大阪.

保草Ⅱ：北村四郎ほか. 1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ. 保育社, 大阪.

保草Ⅲ：北村四郎ほか. 1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ. 保育社, 大阪.

保木Ⅰ：北村四郎ほか. 1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ. 保育社, 大阪.

保木Ⅱ：北村四郎ほか. 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ. 保育社, 大阪.

学シダⅠ：海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ. 学研プラス, 東京.

学シダⅡ：海老原淳. 2017. 日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研プラス, 東京.

平1：大橋広好ほか. 2015. 改訂新版 日本の野生植物1. 平凡社, 東京.

平2：大橋広好ほか. 2016. 改訂新版 日本の野生植物2. 平凡社, 東京.

平3：大橋広好ほか. 2016. 改訂新版 日本の野生植物3. 平凡社, 東京.

平4：大橋広好ほか. 2017. 改訂新版 日本の野生植物4. 平凡社, 東京.

平5：大橋広好ほか. 2017. 改訂新版 日本の野生植物5. 平凡社, 東京.

RDB なごや 2015：名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課(編). 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや—植物編—. 同課.

フジシダ *Monachosorum maximowiczii* (Baker) Hayata

【概要】

犬山市尾張富士で最初に発見されたことから「フジシダ」の名がつけられた中型のシダ植物。通常は温帯域の空中湿度の高い沢沿い林内岩上に生育し、葉の先端はつる状に伸びて無性芽をつけ、栄養的に繁殖して大きな群落を作る。良好な山地渓谷環境の指標となるが、場所によってはニホンジカの食害を受け、減少している。三河山地には点々と生育しているが、尾張富士のような丘陵地では希少性が高く、尾張、あるいは犬山市のレッドデータブックを作成すれば絶滅危惧種として掲載されるはずである。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 5~12cm、光沢ある褐色でほとんど無毛である。葉身は線状披針形、先端はつる状に伸びて無性芽をつけ、つるの部分を除いて長さ 20~35cm、幅 2.5~4.5cm、単羽状複生、羽片は 30~50 対つき、披針状楕円形で基部前側は耳垂があり、先端は鈍頭、辺縁に深い鈍~円鋸歯がある。胞子のう群は小さく円形、各鋸歯に 1 個ずつつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 茶臼山 (村松 15692)、4 白鳥山 (芹沢 74843)、6 段戸山(村松 25710)、延坂 (村松 24455)。西：5 野入 (塚本威彦 2667)、シシナド洞 (塚本威彦 2579)、19 奥矢作湖 (日比野修 1315)、20 連谷 (塚本威彦 2146)。尾：45 本宮山 (村瀬正成 4639)。

【国内の分布】

本州 (東北地方南部以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種が生育している場所には、他の植物もいろいろ生育していることが多い。林床を踏み荒らさないよう、注意が必要である。

【似た種類】

オオブジシダ *M. nipponicum* Makino は葉身が広披針形で、2 回羽状に切れ込む。フジシダと同じような場所に生育していることが多く、愛知県では東：4 水梨川 (芹沢 90554)、6 延坂 (村松 24448)、8 玖老勢 (小林 60460)、10 愛郷 (小林 49079)、11 荒原 (小林 55925)、12 横川 (小林 55910)、15 石巻中山町 (小林 68594)、西：19 八幡 (芹沢 60405)、尾：37a 岩屋町 (上杉毅, 2012 年)、45 本宮山 (芹沢 36018) などで採集されている。フジシダとオオブジシダの自然雑種と推定されるアイフジシダ *M. × flagellare* (Maxim. ex Makino) Hayata は、東：4 白鳥山 (村松 90-258)、6 段戸山本谷 (芹沢 44645) などで確認されている。ヒメムカゴシダ *M. × arakii* Tagawa は更に大形で、葉は長さ 1m に達し、中軸上に無性芽をつける。オオブジシダと台湾に生育するムカゴシダの雑種と推定される植物で、岐阜県美濃地方北部には生育しているが、愛知県ではまだ確認されていない。

【特記事項】

Ptilopteris 属とされることがある。

【関連文献】

保シダ p.52, 学シダ I p.365.

シシラン *Haplopteris flexuosa* (Fee) E.H.Crane

【概要】

暖地の樹幹または岩上に着生するシダ植物。ただし愛知県ではほとんど岩上に生育している。通常は沢沿いの空中湿度の高い、しかし着生基物自体はそれほど湿っていない場所に生育し、良好な山地渓谷環境の指標になる。ただし愛岐丘陵ではやや乾燥したチャートの岩場などにも生育していて、ヌリトラノオなどとともに良好な岩崖地植生の指標となっている。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短くは、線状で褐色～暗褐色の鱗片を密生する。葉は接近して出て、線形の単葉、長さ 20～45cm、幅 5～8mm、革質で全縁、先端は次第に細くなって長く尖り、基部も次第に細くなって葉柄ははっきりしない。中肋は表面で浅くくぼむ。胞子のう群は葉の上半部（ただし最先端を除く）の葉縁に近い溝に生じ、折れ曲がった葉縁に包まれるように見える。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 佐久間ダム鰻樽沢（村松正雄 14371）、3 明神山（芹沢 62469）、4 白鳥山（芹沢 44569）、6 榎尾谷（村松 22849）、7 田口（芹沢 44596）、8 鳳来湖（芹沢 46018）、9 阿寺七滝（芹沢 45016）、10 下島田～塩瀬（芹沢 38956）、12 小吹川（芹沢 64249）、13 一宮町上長山（小林 40512）、御津町西金野（小林 40757）、15 岩崎町（芹沢 50773）、17 田原町滝頭不動（芹沢 39112）、18 高木～泉福寺山（小林 40523）。西：20 川面（塚本威彦 2115）、22 乙ヶ林（日比野修 2216）、24 玉瀧溪谷（山崎玲子 2029）28 宮崎（芹沢 33923）。尾：37a 下半田川町（日比野修 3210）、45 今井（芹沢 60750）、48 外之原町（日比野修 2018）。

【国内の分布】

本州（東北地方南部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。岩場に生育するが、林内なので右の表では森林にマークしてある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

岩場に生育しているので、観察の際は岩棚に生育している他の植物を踏み荒らさないよう注意が必要である。安全上の注意も必要である。

【似た種類】

ナカミシシラン *V. fudzinoi* Makino（県 VU）は自然度の高い沢沿いの岩場に生育していて、葉はより厚く、表面に 2 本の溝があり、胞子のう群は葉裏葉縁と中肋の中間につく。愛知県では三河山地に生育しているが、稀である。

【特記事項】

和名は、岩場から束生する線形の葉が獅子のたてがみに似ているからという。

【関連文献】

保シダ p.169, 学シダ I p.388.

キヨスミヒメワラビ *Dryopsis maximowicziana* (Miq.) Holtt. et Edwards

【概要】

丘陵地や低山地の湿潤で腐植質の多い林床に生育する大形のシダ植物。低山地の沢沿いには比較的多く見られるが、通常密な群落は作らず、他のシダ類と混生して点在していることが多い。生物多様性に富んだ人工林の指標となる。暖地性の植物なので、三河山地の標高の高い場所には生育していない。

【形態】

地上性のシダ植物。本来は常緑性だが、愛知県では葉は冬にかなり傷むことが多い。根茎は太くて短く斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ20~40cm、はじめ白色で後に褐色となる幅広い開出した鱗片を密生する。葉身は卵状楕円形、長さ40~65cm、幅30~45cm、3回羽状に中~全裂し、黄緑色で草質、羽片や小羽片はほぼ直角に出て、表面に多細胞毛がある。胞子のう群は裂片の辺縁寄りにつき、円腎形の包膜がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 八嶽山 (村松 23901)、2 丸山沢~湯島 (村松正雄 14408)、3 尾篋 (小林 39941)、4 水梨川 (村松 20806)、6 延坂 (村松 24467)、8 川合~宇連ダム (芹沢 46022)、9 炭焼田峠 (芹沢 46045)、10 布里西向 (芹沢 63399)、11 荒原 (芹沢 70536)、12 出沢 (村松 26936)、13 音羽町長沢 (芹沢 42765)、15 嵩山 (芹沢 36336)、16 細谷町 (小林 68215)。西：5 小田木 (塚本威彦 2386)、19 伊熊 (芹沢 76818)、20 川面 (塚本威彦 2110)、21 蘭町 (芹沢 84434)、22 岩倉 (塚本威彦 1225)、23 西市野々 (日比野修 3040)、28 鹿勝川 (福岡義洋 1869)、29 小美町 (芹沢 50888)、30 山綱町 (本多さおり 1009)、36 吉良町津平 (芹沢 39119)、西幡豆大沢 (壁谷重美子 960)。尾：37a 東白坂町 (村松 10031)、44a 野間 (堀田喜久, 1987年)、45 栗栖 (芹沢 53768)、47 大山 (村松 17336)、50 名東区藤巻町 (鳥居ちよ子 2201)。

【国内の分布】

本州 (東北地方南部以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。浅い丘陵地では稀で、名古屋市内では1株しか確認されておらず、希少偶産種扱いのため名古屋市のレッドデータブックには掲載されていない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種が生育している場所には、通常他の多くのシダ植物も生育している。観察の際には林床の踏み荒らしに注意する必要がある。

【似た種類】

葉柄に密生する白色鱗片は特徴的で、他種と混同するおそれは少ない。

【特記事項】

シラガシダとも呼ばれる。生物多様性に富んだ造林地の指標としてはイノデ類の方が適切であるが、イノデ類は似た種類が多く、識別が難しい。なお本種は葉軸表面の溝が不連続で、一般的な図鑑類ではカツモウイノデ属 *Ctenitis* の1種として扱われているが、最近の研究により、カツモウイノデ属よりオシダ属に近縁であることが判明している。

【関連文献】

保シダ p.106, 学シダ II p.364.

オシダ *Dryopteris crassirhizoma* Nakai

【概要】

山地の湿潤で腐植質の多い林床に生育する大形のシダ植物。代表的な温帯林の林床植物であるが、葉を一斉に展開するためニホンジカの食害を受けると影響が大きく、衰退しやすい。丘陵地の造林地の林床にイノデ類などと共に生育することもあり、その場合は生物多様性に富んだ人工林の指標となる。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は太くて短く、斜上して先端に葉を輪状に束生する。葉柄は短く、長さ10～35cm、通常黄褐色、時に黒褐色の大形の鱗片を密生する。葉身は倒披針形、中央より上で最も幅広く、下部に向かって狭くなり、長さ60～110cm、幅20～30cm、2回羽状に深～全裂する。羽片は披針形で30～35対つく。裂片は細長い楕円形で鈍～円頭、辺縁には通常低い鋸歯がある。胞子のう群は葉身上部の裂片の中肋寄りにつき、円腎形の包膜がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 坂宇場（芹沢 46855）、4 白鳥山（芹沢 74844）、7 小松（芹沢 66208）、8 門谷宇連山（小林 19155）、9 上吉田（小林 60456）、11 西田原（芹沢 42098）、13 一宮町本宮山（小林 79212）、14 遠望峰山（小林 54852）。**西**：5 面ノ木峠（芹沢 84356）、20 大多賀町（村松 26905）、21 田折町（芹沢 85882）、22 小原田代町（芹沢 81699）、23 深見町（芹沢 81438）、24 幸海町（芹沢 31842）、25 猿投山（畑佐武司 75）、33 尾崎町（堀田喜久 3363）、36 西幡豆（福原稔 12413）。**尾**：37a 定光寺町（塚本威彦 2400）、広久手町（芹沢 81858）、45 善師野（芹沢 81858）、47 大山（村松 27009）、48 外之原町（芹沢 66910）、50 守山区下志段味（芹沢 84183）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国（中央山地）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。輪状に束生した大形の葉はよく目立つ。新葉展開直後に食害を受けた場合は、後から奇形な葉を1～2枚出すことがある。そのような奇形な葉の有無にも注意が必要である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

束生した葉の中から1枚を採取しても、株の存続に影響を与えるおそれは少ない。確実に存在した証拠が残るよう、新しい自生地等を発見した場合には可能な限り標本作成に努めるべきである。

【似た種類】

ミヤマクマワラビ *D. polylepis* (Franch. et Sav.) C. Chr. は本種によく似ているが、全体にほっそりしていて、鱗片は黒色、中軸鱗片は少ない。太平洋側の山地に分布する種類だが、愛知県ではオシダより少なく、**東**：1 大沼上（芹沢 67318）、2 茶臼山（芹沢 81935）、3 御園（芹沢 81764）、4 面ノ木峠（芹沢 74866）、6 段戸高原（芹沢 70539）、**西**：5 黒田（塚本威彦 2362）、19 駒山（大原準之助、1965年）、20 大多賀（塚本威彦 1992）、21 宇連野（小林 52264）、**尾**：37a 三国山（日比野修 5424）などで確認されている。オシダとミヤマクマワラビの自然雑種と推定されるクマオシダ *D. × tokudae* Sugim. は、**東**：2 坂宇場（芹沢 46857）、**西**：5 井山川（芹沢 49165）、20 大奥山（塚本威彦 2060）、**尾**：37a 猿投山（村松 86-130）などで採集されている。

【特記事項】

赤石山脈や近畿地方北部の場合、以前本種が群生していた林床は、ニホンジカの食害を受けてほとんど無植生になっていることがある。愛知県でも、将来はこのようになる可能性がある。

【関連文献】

保シダ p.95, 学シダ II p.362.

タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis* (Matsum. ex Makino) C. Chr.

【概要】

主として温帯域の湿地に生育する大形のシダ植物。通常は山地の沢沿いの開けた場所や疎林内に群生するが、林内に生育することもある。丘陵地の低湿地的な場所に生育することもある。代表的な湿地性のシダ植物であるが、ニホンジカの食害を受けやすい。名古屋市 NT。

【形態】

夏緑性のシダ植物。根茎は太く直立し、葉を束生する。葉はほとんど直立し、葉柄は長さ 20~30cm、暗褐色~淡褐色で膜質の鱗片を密につける。葉身は倒披針形、単羽状で長さ 1m に達し、下部の羽片は次第に短くなる。羽片は線形~線状披針形、浅裂~深裂、最下裂片は最も大きく耳形となる。胞子のう群は羽片の中肋寄りに 1~2 列に並び、円腎形の包膜がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:1 大沼上 (芹沢 67332)、2 茶臼山 (芹沢 81951)、3 振草 (小林 47378)、4 面ノ木園地 (瀧崎 25691, T)、6 東納庫 (芹沢 77559)、7 田口 (小林 66370)、9 黄柳野 (鳥居栄一, 1999 年)、10 海老 (小林 54946)、11 保永 (芹沢 79806)、12 有海 (小林 61559)、13 音羽町長沢 (小林 79246)、15 石巻金田町 (瀧崎吉伸 7757)。西: 5 中当町 (芹沢 90312)、19 駒山 (芹沢 62063)、20 追分 (芹沢 71048)、21 蕪木町 (芹沢 83075)、22 小原田代町 (芹沢 81709)、23 白川 (日比野修 2959)、25 加納町 (畑佐武司 118)、27 黒笹 (芹沢 69832)、28 千万町町 (芹沢 82050)、30 池金町 (芹沢 52175)。尾: 37a 上半田川町 (芹沢 50867)、37b 平子町東 (村松 19501)、45 栗栖 (芹沢 51894)、48 木附町 (村松 16305)、50 守山区中志段味 (鳥居ちゑ子 2366)。8 鳳来寺で 1953 年に採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に広く分布するが、西南日本では少ない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。全国的にはやや稀少な種類であるが、愛知県では現在のところ比較的多く見ることができる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	△			
草・岩				
湿地	○	△		
水域				

【観察上の留意点】

オシダと同様、束生した葉の中から 1 枚を採取しても、株の存続に影響を与えるおそれは少ない。確実に存在した証拠が残るよう、新しい自生地等を発見した場合には可能な限り標本作成に努めるべきである。むしろ、観察や写真撮影の際に周囲の植物を踏み荒らさないよう、注意が必要である。特に本種が生育するような湿地は観察時に足を取られやすく、著しく踏み荒らしてしまうことが多い。

【似た種類】

オシダ属の中では似たものが少ない、識別の容易な種である。葉の切れ込みだけ見ればイワヘゴ類に似ているが、葉は直立し、葉身の下部は著しく細まり、鱗片は薄い膜質である。

【特記事項】

ミヤマベニシダとの雑種をタニヘゴモドキ *D. × kominatoensis* Tagawa という。タニヘゴモドキは、東: 2 下黒川 (粟田郁男, 1979 年)、6 東納庫 (小林 57629)、西: 22 田代 (塚本威彦 1152) などで採集されている。また、クマワラビとの雑種はミチノククマワラビと呼ばれ、東: 2 茶臼山 (村松 12165)、3 井口 (村松 21856)、11 鴨ヶ谷 (芹沢 79784)、西: 5 黒田 (村松 18719)、20 大多賀峠 (芹沢 79321) などで確認されている。

【関連文献】

保シダ p.94, 学シダ II p.361, RDB なごや 2015 p.221.

ジュウモンジシダ *Polystichum tripterum* (Kunze) C.Presl

【概要】

山地の沢沿い林内に生育するシダ植物。似た種類が多いイノデの仲間であるが、本種は最下羽片が伸びて葉身全体が十字状になり、「シダの中でもこれだけはわかる」という人がいるほど特徴的な種類である。湿潤な沢沿い環境の指標になる。

【形態】

半常緑性のシダ植物。根茎は短く、直立または斜上し、葉を束生する。葉は斜開し、葉柄は長さ10～40cm、褐色の鱗片を密につける。葉身は最下羽片が伸びて十字状になり、最下羽片を除く部分は披針形～広披針形、単羽状で長さ20～50cm、幅4.5～15cm、羽片は20～40対、中央よりやや下のものが最も長く、それより下の羽片は次第に短くなる。羽片は浅裂～中裂、基部前側は耳状になる。最下羽片は長卵形～広披針形、長さ5～15cm、他部分と同様に切れ込む。胞子のう群は羽片のやや中肋寄りにつき、包膜は早落性である。下部2対（またはそれ以上）の羽片が伸びるものをオオシュモクシダ form. *subbipinnatum* H.Ito というが、やや奇形的である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:1 八幡平 (小林 52045)、2 茶臼山 (芹沢 26216)、3 本郷 (瀧崎 8657, T)、4 白鳥山 (石田雄吉 41)、8 門谷 (芹沢 34640)、9 下吉田 (堀田喜久, 1987年)、11 木和田 (小林 51974)、12 富岡 (瀧崎 29434, T)、13 音羽町長沢 (芹沢 29800)、15 石巻町 (瀧崎 15237)、17 滝頭 (伊藤三也, 1992年)。
西: 5 黒田 (塚本威彦 2366)、19 駒山山麓 (芹沢 31480)、20 寧比曾岳 (水野岸子 982)、21 東大沼 (長谷川朋美 526)、22 小 (塚本威彦 1455)、23 西市野々 (塚本 1696)、24 西広瀬町 (芹沢 65372)、25 猿投山 (山崎玲子 848)、28 鹿勝川 (福岡義洋 721)、29 村積山 (芹沢 47829)、蓬生町 (伊奈知子 1061*)、30 山綱町 (本多さおり 1087)、31 深溝 (芹沢 69188*)、36 西幡豆大沢 (壁谷重美子 962)。
尾: 37b 新居 (村松 22413)、41b 佐布里 (村松 28301)、44a 野間 (堀田喜久, 1987年)、44b 山海 (大西博 1050)、45 善師野 (芹沢 65873)、48 外之原町 (太田さち子 273)、50 守山区東谷山 (村松 28250)、同大森北 (芹沢 92747)、51 天白区相生山緑地 (芹沢 88620)。*はオオシュモクシダにあたる。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。南限は屋久島である。奄美大島以南には、よく似たタイワンジュウモンジシダ *P. hancockii* (Hance) Diels が生育している。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部。

【生育地の環境／現在の生育状況】

沢沿いの比較的平坦な場所に多く生育している。山地では普通種であるが、丘陵地では少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

山地ではつい採集せずに通り過ぎてしまうことが多く、県内の分布の項に示した標本は古いものも多い。標本が欠落している区画もある。注意して新しい資料の集積に努める必要がある。

【似た種類】

概要の項で述べたように葉形が極めて特徴的で、他種と混同するおそれは少ない。

【特記事項】

最下羽片が伸びず葉身全体が単羽状であるという特性が安定しているものをヒトツバジュウモンジシダ form. *simplicissimum* (Tagawa) Tagawa というが、確実にこの型と判断されるものは愛知県では確認されていない。

【関連文献】

保シダ p.79, 学シダ II p.413.

オキアガリネズ *Juniperus ×pseudorigida* (Makino) Hatus.

【概要】

ネズミサシ *J. rigida* Sieb. et Zucc. (県 NT) とハイネズ *J. conferta* Parl. (県 VU) の浸透性交雑に由来すると思われる常緑性の針葉樹で、愛知県の丘陵地に広く生育している。形態はハイネズに似たものからネズミサシに似たものまで様々である。雑種性ではあるが、ミカワツツジ、ウンヌケなどと共に、やせた丘陵地の植生を特徴づける植物である。山地の準平原状の場所にも生育している。

【形態】

常緑性の低木または亜高木。幹は斜上して四方に広がることも、直立して高さ 7~8m になることもある。葉は針形状で 3 輪生し、長さ 8~15mm、先はとがって硬く、触れると痛い。表面に深い白色の気孔帯がある。雌雄異株で、花期は 4~5 月、雄花は楕円形で長さ 4~4.5mm である。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径 8~10mm、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 竹ノ輪 (戒田正敏, 1996 年)、12 富岡 (芹沢 67044)、宇利峠北 (瀧崎 12973*)、13 一宮町東上 (芹沢 64723*, 64724)、14 相楽町 (鈴木美恵子 346)、15 石巻萩平町 (芹沢 64458*, 64694)、16 寺沢町 (小林 40887)、17 久美原 (小林 40410)、18 伊良湖 (戒田正敏, 1996 年)。西：19 旭高原 (戒田, 1996 年, 芹沢 71399*)、20 追分 (芹沢 70269*)、22 大洞 (伊藤泰輔 159*)、23 西中山 (日比野修 2872*)、24 西広瀬町 (芹沢 64598)、御船町 (佐藤久美子 53*)、25 太平町 (畑佐 5)、26 水源町 (落合鈴枝 162, 502*)、27 黒笹 (白井里華 127*, 戒田正敏, 1996 年)、28 河原 (松本玲子, 1993 年)、29 箱柳町 (戒田正敏, 1996 年)、30 藤川町 (本多さおり 613)、31 須美 (芹沢 51285)、32a 井ヶ谷町 (戒田正敏, 1996 年)、33 東端町 (堀田喜久 5833)、35 平原町 (堀田 4428)、36 幡豆町鳥羽 (壁谷重美子 737)。尾：37a 西松山町 (戒田正敏, 1996 年)、下半田川町 (日比野修 1267*)、38a 岩作 (村瀬美智子 256)、38b 岩崎 (伊藤恭子 105*)、岩藤新田 (伊藤 110)、39b 沓掛町 (芹沢 65974*, 戒田正敏, 1996 年)、40a 森岡町 (竹田弘光 172)、長根町 (竹田 123*)、40b 石浜 (渡邊麻子 252)、41a 加木屋町 (加藤雅憲 219)、42a 板山 (戒田正敏, 1996 年)、42b 行人町 (芹沢 76676)、42c 武豊二ツ峰 (芹沢 65195*)、43 久米 (梅田零奈 216)、本宮山 (芹沢 65153*)、44a 古布 (戒田正敏, 1996 年)、44b 内海内福寺 (大西博 1335)、45 八曾 (松田ちか子 584)、本宮山 (松田 178*)、47 大草 (芹沢 65861*, 65862)、48 玉野町 (芹沢 66335*, 66336)、50 守山区吉根 (鳥居ちよ子 280*)、千種区平和公園 (戒田正敏, 1996 年)、51 天白区八事裏山 (西川勇夫 16*)、同島田黒石 (武藤靖子 27)、緑区鳴海町笹塚 (渡辺 1175*)、同水広下 (芹沢 58293)。*は幹が直立する型 (標本に「ネズミサシ」と書かれていて、多分直立型と推定されるものを含む) である。

【国内の分布】

本州。四国、九州にも生育している可能性がある。

【世界の分布】

日本固有らしい。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。丘陵地に生育しているものは、海岸に極めて近い場所を除けば、全てオキアガリネズと考えてよい。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	△	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【似た種類】

ネズミサシは愛知県では三河山地の岩場に生育しており、幹は常に直立し、枝も葉もより細く、長く伸びる。21 豊田市下山地区のものもネズミサシらしい。ハイネズは渥美半島や三河湾の海岸に生育しており、幹は匍匐し、枝も葉もより太い。しかし海岸近くの丘陵地などに生育しているものは、ハイネズかオキアガリネズか判断に迷うことがある。

【関連文献】

保木 II p.409.

スズカカンアオイ *Asarum rigescens* F.Maek. var. *brachypodion* T.Sugaw.

【概要】

里山の林内に生育する常緑性の草本。冬期に目立たないが変わった形の花を咲かせる。カンアオイの仲間は移動力が小さく地理的な分化の著しい植物として知られており、日本列島各地にそれぞれ固有の種がある。丘陵地の代表的な絶滅危惧昆虫であるギフチョウの食草としても知られている。愛知県では北西部に分布しており、渥美半島と知多半島南部では本種に代わってよく似たカントウカンアオイ *Asarum nipponicum* F.Maek.が生育している。

【形態】

多年生草本。茎は短く、暗紫色で節が多い。葉は長さ7~20cmの柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、ときに卵形ほこ形、長さ6~10cm、幅4~7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は深い心形、表面は濃緑色で通常不明瞭な白斑がある。花期は1~3月、花は地表に接して落葉に埋まるような状態で咲き、がく筒は筒状鐘形で長さ約1cm、内面は格子状の隆起線がある。がく裂片は開出し、筒部よりもやや長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：20 月原（日比野修 3852）、22 寺平（日比野修 2203）、23 田茂平（日比野修 1018）、24 西広瀬町（佐藤久美子 5）、25 猿投町（山崎玲子 730）。尾：37a 定光寺町（芹沢 86681）、37b 平子町（村松 26322）、38a 長湫（半田多美子 896）、38b 岩崎（伊藤恭子 106）、40 狸狭間（村松 26321）、45 池野（芹沢 86685）、47 大山（村瀬正成 10050）48 廻間町（芹沢 86689）、50 守山区中志段味（鳥居ちよ子 3325）。

【国内の分布】

本州中部（静岡県中西部、愛知県、岐阜県、三重県）に分布する。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。二次林内に生育していることが多いが、造林地にも見られる。沢沿いには限定されないが、あまり乾いた場所には見られない。耐陰性のある植物なので、森林化の影響は他の里山の植物ほど深刻ではない。しかし、あまり暗い場所には生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

花は落ち葉に埋まるような状態で咲いている。観察したら、必ず元の状態に戻しておくべきである。

【似た種類】

カントウカンアオイは、花期が早く10~11月に咲き、葉身上面は脈に沿ってへこまず、がく裂片と筒部は同長である。東：16 杉山町（小林 55572）、17 田原町（芹沢 86672）、18 石神（小林 55665）、尾：44 豊浜（芹沢 60657）に生育している。ただし、スズカカンアオイの中にも、時ながく裂片が筒部と同長程度の個体がある。

【特記事項】

4月には時に葉裏に緑色で直径1mmほどのギフチョウの卵がついていることがある。併せて観察することが望ましい。

【関連文献】

保草Ⅱp.323, 平1 p.69.

ヒメカンアオイ *Asarum takaoi* F.Maek.

【概要】

里山の林内に生育する常緑性の草本。スズカカンアオイと同様、冬期に目立たないが変わった形の花を咲かせる。スズカカンアオイが県の北西部に分布しているのに対し、本種は県中央部から東部に広く分布している。変異の大きい種で、県内でもいくつかの型が区別できる。

【形態】

多年生草本。葉身は長さ5~8cm、幅4~7cmの卵円形~腎円形、先端は鈍頭、基部は心形で表面は光沢がなく、ふつう短毛が密生する。葉柄は暗紫色。花は淡緑色~暗褐色で、がく筒は長さ5~8mm、直径7~12mm、内面には縦18~24、横4~6本の格子状の隆起線がある。花はふつう2月~3月に咲くが、秋に開花する集団があり、アキザキヒメカンアオイと仮称されている。さらに、湿地や小河川の周りのやや湿ったところには、葉がほぼ円形で小型のゼニバサイシ *var.hisauchii* (F.Maek.) F.Maek.と呼ばれる型が生育している。花期は狭義ヒメカンアオイと同様2~3月である。

【分布の概要】

【県内の分布】

ヒメカンアオイ (狭義) **東**: 9 七郷一色 (村松 25757)、11 大和田 (芹沢 79822)、12 一鍬田 (加藤藤次 1153)、13 御津町 (鈴木美恵子 76)、15 石巻町 (小林 50081)。 **西**: 19 小渡 (日比野修 3307)、20 日原 (塚本威彦 1833)、22 樽俣 (日比野修 2735)、24 山中町 (山田初代 3244)、26 水源町 (石川敏 321)、28 額田町 (福岡義洋 100)、30 竜泉寺町 (芹沢 69093)。 **尾**: 37a 曾野町 (塚本威彦 36)。

アキザキヒメカンアオイ **東**: 2 茶臼山 (村松 25482)、3 下田 (村松 25150)、4 折元峠 (村松 25345)、6 東納庫 (芹沢 54672)、7 荒尾 (芹沢 64480)、9 黄柳野 (加藤等次 747)、13 赤坂町 (芹沢 86670)。 **西**: 5 大野瀬 (小林 41857)、20 四ツ松 (日比野修 3832)、21 大林 (長谷川朋美 1066)、23 下川口 (日比野修 3834)、29 切越町 (伊奈知子 1258)、30 竜泉寺町 (芹沢 86668)。 **尾**: 42 武豊町富貴 (村松 26717)、48 内津町 (太田さち子)。

ゼニバサイシン **西**: 20 三つ足 (日比野修 3827)、25 御船町 (畑佐 1709)。 **尾**: 37a 川平町 (日比野修 5236)、37b 新居 (芹沢 86676)、38a 長湫 (半田多美子)、38b 岩崎 (村瀬美智子 87)、45 池野 (芹沢 86684)、48 木附町 (日比野修 2236)、50 名東区平和公園 (鳥居ちよ子 553)、51 天白区八事 (芹沢 77334)、緑区滝の水 (浜島繁隆, 1969年)。

【国内の分布】

本州 (富山県~愛知県、紀伊半島、広島県)、四国 (高知県南東部)。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【生育地の環境/現在の生育状況】

スズカカンアオイと同様、たいていは二次林内に生育しており、現在のところ個体数も比較的多い。

【観察上の留意点】

スズカカンアオイの項参照。

【似た種類】

スズカカンアオイと混生することもあるが、葉は円形に近く長さ4~7cmで小さく、がく筒は長さ5~8mmで短いことなどで区別できる。

【特記事項】

旧宝飯郡を中心とした岡崎市南東部から豊川市にかけては、ヒメカンアオイに似てより大型な植物が生育している。標本としては、**東**: 13 赤坂町 (芹沢 86669)、14 坂元町 (井上美保子 962)、**西**: 30 竜泉寺町 (芹沢 78427) などがある。

【関連文献】

保草II p.200, 平1 p.70.

タムシバ *Magnolia salicifolia* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

【概要】

春早く白色の花をつけ、遠くからでもよく目立つ高木。山地に広く分布している。自然林にもあるが、陽樹であるため多少攪乱された林の方が多く、自然度の高い二次林の指標となる。日本海側に多い樹木であるが、愛知県では近縁のコブシ *M. kobus* DC. は自生せず、本種のみが分布している。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 15m くらいになる。若枝は直径 1~2mm、はじめ緑色だがのち黄褐色になり、ほぼ無毛で、著しい芳香がある。葉は互生し、長さ 1-1.5cm の柄があり、葉身は卵状披針形~長楕円形、長さ 6~12cm、幅 2~5cm、先端は鋭頭、基部は狭いくさび形、全縁、裏面は白色を帯び、ほとんど無毛である。花期は 3 月末~4 月、葉の展開に先立って咲き、直径 10cm 程度、花被片は 9 枚、白色、外側の 3 枚は小さく、内側の 6 枚は大きくて倒長卵形、長さ 4.5~6cm ある。果実は長さ 7~8cm の集合果となり、種子は赤色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 明神山（芹沢 69667）、4 面ノ木峠（鈴木学 2695）、6 西納庫（芹沢 83163）、7 柴石峠~大鈴山（芹沢 63576）、8 鳳来寺山（加藤等次 1119）、9 巢山（芹沢 48126）、11 中河内（堀田喜久 1179）。西：5 面ノ木峠（横井邦子 355）、19 小馬山（大原準之助、1951 年）、20 寧比曾岳（水野岸子 170）、21 東大沼（長谷川朋美 78）、22 大ヶ蔵連（芹沢 66129）、23 白川（日比野修 647）、24 六所山（山崎裕子 1558）、25 猿投山（磯谷彰宏 934）、28 井沢（福岡義洋 133）。尾：37a 西山路町（芹沢 75280）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。日本海側の多雪地帯ではしばしば低木状であるが、太平洋側のもは幹が直立し、高木になる。両者はある程度遺伝的に分化しているらしく、研究成果の発表が期待される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。葉の形態が特徴的なので、標本は葉だけでもよい。花は高い枝先につくので、手にとって観察するのは難しいことが多い。

【似た種類】

花はコブシに似ているが、花の下に葉がない。葉の時期ならば識別は容易である。コブシは愛知県には本来自生していないが、多く植栽されているため、逸出した個体が山野で見られることがある。

【特記事項】

瀬戸市などではシデコブシ *M. stellata* (Sieb. et Zucc.) Maxim. (県 VU) と近接して生育していて、それとの雑種がある。この雑種は、愛知県や岐阜県東濃地方西部ではタムシバからもシデコブシからもある程度区別できるが、東濃地方東部では浸透交雑が起きていて、典型的なシデコブシが見られなくなる。

【関連文献】

保木 II p.221, 平 1 p.73.

カゴノキ *Litsea coreana* H.Lev.

【概要】

代表的な照葉樹の一つ。樹皮の鹿の子模様が特徴的で、その点で他種から容易に識別できる。タブノキなどと異なりやや山地性で、平野部や丘陵地では稀である。成木は自然度の高い山地照葉樹林の指標になるが、幼木は時に二次林内などでも見られる。

【形態】

常緑性の高木。高さ 15m に達する。樹皮は淡灰黒色であるが、円くはげ落ち鹿の子模様となる。葉は互生し、長さ 8~15mm の柄があり、葉身は倒披針形または倒卵状長楕円形、長さ 5~9cm、幅 1.5~4cm、薄い革質で裏面は灰白色になる。花期は 9 月。雌雄異株で、枝の下部から上部にかけて無柄の散形花序を 3~4 個つける。花は黄色、果実は倒卵状球形で長さ 7~8mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。名古屋市 NT。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 丸山沢~湯島 (村松 14438)、3 月 (小林 39496)、6 田峯 (小林 44993)、7 岩古谷山(芹沢 82058)、8 鳳来寺山(芹沢 83359)、12 富岡 (加藤等次 3269)、13 豊川市三上町 (瀧崎 13854)、15 嵩山町 (芹沢 42037)。西：19 市平 (日比野修 1481)、20 月原 (日比野修 3297)、22 川下 (塚本威彦 986)、23 北一色 (日比野修 3187)、24 六所山 (山崎玲子 58)、26 水源町 (落合鈴江 554)、29 蓬生町 (芹沢 65293)、31 長嶺 (金子律子 1500)、33 姫小川町 (堀田喜久 6176)、35 駒場町 (堀田喜久 4055)、36 幡豆町西幡豆 (芹沢 71140)。尾：37a 定光寺町(日比野修 1002)、44b 内海 (瀧崎 30214、T)、47 大草 (村瀬正成 13336)、48 外之原町 (日比野修 1886)、50 守山区上志段味 (日比野修 4530)、52 熱田区高蔵町 (高木順夫 3700)。

【国内の分布】

本州 (関東地方、福井県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が 1 株しかない場合は、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。新しい自生地等を発見した場合は、可能な限り標本作成に努めるべきである。

【特記事項】

常緑性のクスノキ科樹木はカシ・シイ類と共に照葉樹林の代表的な構成種であるが、それぞれ生育環境に特徴がある。今回は本種とタブノキ (226 頁) をとりあげたが、ヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* Sieb. ex Nakai、シロダモ *Neolitsea sericea* (Blume.) Koidz.、イヌガシ *N. aciculata* (Blume.) Koidz.なども、本種と合わせて観察することが望ましい。

【関連文献】

保木 II p.186-187, 平 1 p.85, RDB なごや 2015 p.292.

ヒメクロモジ *Lindera lancea* (Momiya) H.Koyama

【概要】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる落葉性の低木。山地には多いが丘陵地では稀である。枝に芳香があり、次頁のクロモジとともに楊枝の材料となる。東海地方、紀伊半島、四国東部に分布する本地域の準固有種の一つで、その意味でも着目してよい。故鳥居喜一氏によって気づかれた植物で、基準標本産地は三河本宮山である。名古屋市 CR。

【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.4~1cm の柄があり、葉身は菱状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鋭尖頭になる。葉裏は帯白色、若時絹毛が多く、毛は成葉でも残存する。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、3~5 個が散形につく。花柄は長さ 2~3mm で短く、花柄の毛は赤味を帯びることが多い。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 漆島 (小林 43538)、2 古真立 (芹沢 87066)、3 本郷三ツ瀬 (芹沢 86731)、4 白鳥山 (芹沢 74839)、6 段戸山 (芹沢 83181)、7 鹿島山 (芹沢 85912)、8 榎原 (芹沢 83307)、9 巢山 (芹沢 83375)、11 中河内 (中西普佐子 447)、12 牛倉 (芹沢 84814)、13 本宮山 (芹沢 84812)、14 坂本町 (井上美保子 659)、15 中山峠 (瀧崎 15381, T)。西：5 面ノ木峠 (芹沢 84363)、19 駒山 (芹沢 88529)、20 追分 (新井文子 684)、21 下山田代町 (芹沢 83609)、22 大ケ蔵連 (芹沢 66092)、24 六所山 (芹沢 89324)、25 猿投山 (芹沢 86563)、28 石原町 (芹沢 84801)。29 大柳町 (芹沢 86119)。尾：37a 広久手町(村松 24600)、37b 平子町東 (村松正雄 24591)、45 八曾 (松田ちか子 130)、47 大山 (芹沢 87134)、48 木附町 (山田果与乃 1450)、50 守山区上志段味 (鳥居ちえ子 1520)。

【国内の分布】

本州 (静岡県~紀伊半島)、四国 (東部)。

【世界の分布】

日本固有。

生育地の環境／現在の生育状況

クロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。東三河ではクロモジより山地よりの場所に多い。一方西三河や尾張ではクロモジの方が山地よりで、豊田旧市域、岡崎旧市域や尾張のクロモジ類はほとんどが本種である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

クロモジに似ているが、花序が小さく (従って秋期の花芽も細い)、小花柄の毛は赤褐色を帯び、葉柄は短く、葉身先端部は鋭く尖り、葉裏はより白色を帯びて絹毛が多いことで区別できる。ただし、葉だけの標本では識別が難しいこともある。最も確実に識別できるのは早春の開花期で、できればこの時期に観察し、位置を記録するなどして葉の時期にもう一度同じ株を観察するとよい。

【特記事項】

種子が鳥によって散布されるので、幼木は思わぬ所に出現することがある。

【関連文献】

- 保木本 II p.191-192, 平 1p.83, RDB なごや 2015 p.115.
 小山博滋, 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介, 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

クロモジ *Lindera umbellata* Thunb.

【概要】

ヒメクロモジと同様自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる落葉性の低木。山地には多いが丘陵地では稀である。枝に芳香があり、楊枝の材料となる。ヒメクロモジと合わせて観察するとよい。

【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.5~2cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鈍端のことも鋭尖頭のこともある。葉裏にははじめ絹毛があるが成葉では無毛になり、やや白色を帯びる。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、十数個が散形につく。花柄は長さ 4~6mm で、白色の絹毛がある。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 八嶽山 (芹沢 82106)、2 茶白山林道 (芹沢 81940)、3 本郷三ツ瀬 (芹沢 86730)、4 碁盤石山 (芹沢 84377)、6 川向 (芹沢 55945)、7 鹿島山 (芹沢 85911)、8 榎原 (芹沢 83306)、9 巢山 (芹沢 83376)、10 一色 (瀧崎 32381, T)、11 白鳥 (瀧崎 8074, T)、12 富岡 (芹沢 85039)、13 本宮山 (芹沢 84806)、15 石巻西川町 (芹沢 83985)。西：5 面ノ木峠 (芹沢 84350)、19 伊熊 (芹沢 61682)、21 蘭町 (芹沢 85379)、23 折平 (塚本威彦 289)、24 中金町 (山田初代 1018)、25 八草町 (芹沢 85595)、28 本宮山 (芹沢 84802)、29 大柳町 (芹沢 84662)。尾：37a 海上町 (芹沢 85668)、37b 平子町北 (村松 28439)、50 守山区大森北 (村松 28437)、51 天白区上原 (渡辺幸子 2647)。

【国内の分布】

本州 (東北地方南部以西)。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境／現在の生育状況】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。山地には多いが丘陵地では稀である。ヒメクロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。ただし尾張では、ヒメクロモジよりずっと稀である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ヒメクロモジからは、花序が大きく(従って秋期の花芽も丸くふくらむ)、小花柄の毛は白色、葉柄は概して長く、葉身先端部はしばしばあまり尖らず、葉裏は淡緑色で絹毛が少ないことで区別できる。ただし、葉だけの標本では識別が難しいこともある。最も確実に識別できるのは早春の開花期で、できればこの時期に観察し、位置を記録するなどして葉の時期にもう一度同じ株を観察するとよい。ミヤマクロモジ *Lindera sericea* (Sieb. et Zucc.) Blume var. *glabrata* Blume も本種に似ているが、葉が大きくて幅広く、葉脈が表面でへこみ、裏面に隆起することで区別できる。愛知県ではやや標高の高い場所に生育しており、東：2 茶白山 (村松 11724)、3 明神山 (芹沢 84326)、4 面ノ木峠 (芹沢 70593)、7 岩古谷山 (芹沢 61468)、8 明神 (芹沢 83967)、12 本宮山 (小林 64840)、13 本宮山 (芹沢 84808)、西：5 面ノ木峠 (芹沢 84364)、小田木町 (芹沢 92681)、19 駒山 (芹沢 88536)、20 御内蔵連 (日比野修 3390)、28 本宮山 (小林 64843)、尾：37a 上品野町 (塚本威彦 615) などの標本がある。

【特記事項】

種子が鳥によって散布されるので、幼木は思わぬ所に出現することがある。レッドデータブックなごや 2015 では絶滅種として掲載したが、その後守山区で 1 株だけ生育しているのが確認された。

【関連文献】

- 保木本Ⅱ p.191-192, 平 1 p.83, RDB なごや 2015 p.38.
 小山博滋, 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
 芹沢俊介, 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

シロモジ *Lindera triloba* (Sieb. et Zucc.) Blume

【概要】

西日本の山地を特徴付ける樹木。愛知県は分布域の東限に近い。山地では個体数が多く、しばしば低木層の優占種となるが、丘陵地ではほとんど見られない。前 2 種と共に、分布状態を注意して観察するとよい植物である。

【形態】

落葉性の低木。幹は叢生し、高さ数 m になる。葉は互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 7~12cm、幅 6~10cm、3 行脈が目立つ。葉の上部は 3 裂し、裂片は卵形で鋭尖頭となる。葉の基部はくさび形~円形になる。ただし枝の基部に着く小形の葉は卵形で、3 裂しない。葉裏は帯白色で、脈上に毛が多い。花は 4 月に咲き、黄色で直径 5~6mm、4~6 個が散形に密集してつく。果実は大形で球形、直径 10~12mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 茶臼山（加藤等次 2985）、3 御園（瀧崎 30308, T）、6 段戸山（芹沢 86748）、8 鳳来寺山（加藤等次 1122）、11 中河内（芹沢 54494）、13 本宮山（小林 39572）、15 石巻中山町（小林 69246）。西：5 野入町（芹沢 86231）、19 駒山（芹沢 65711）、20 四ツ松（鈴木万里亜 636）、21 平瀬（芹沢 61350）、22 大平（鳥居ちゑ子 265）、23 西市野々（日比野修 450）、24 西広瀬町（佐藤久美子 386）、25 猿投山（芹沢・磯貝 75）、28 閤荊溪谷（瀧崎 20647, T）、30 舞木町（芹沢 71385）。尾：37a 上品野町（日比野修 97）、45 八曾（松田ちか子 155）、47 野口（村瀬正成 10282）、48 木附町（日比野修 2761）。

【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。比較的標高の低い場所で新しい自生地等を発見した場合には、可能な限り標本作成に努めるべきである。

【特記事項】

アブラチャン *L. praecox* (Sieb. et Zucc.) Blume と共に別属 *Parabenzoin* とされることもある。アブラチャンとの雑種であるアブラシロモジは、葉が幅広い単葉または浅く 2~3 裂する。この雑種も注意して探索すると時折観察でき、東：1 大沼上（小林 43550 9）、2 茶臼山林道（芹沢 82112）、4 津具高原牧場付近（芹沢 70669）、6 段戸山裏谷（芹沢 89585）、8 乳岩峡（芹沢 81791）、西：5 野入町（芹沢 86232）、小田木町（芹沢 92682）、25 猿投山（畑佐 4343）、28 閤荊溪谷（瀧崎 17285, T）などの標本がある。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.194, 平 1 p.84.

タブノキ *Machilus thunbergii* Sieb. et Zucc.

【概要】

代表的な照葉樹の一つで、海岸林の主要な構成樹種であるが、内陸では少なく、特に花果をつけるような成木はほとんど見られなくなる。自然度の高い海岸林のよい指標となるだけでなく、内陸部に点在する幼木は、温暖な環境の指標となる。

【形態】

常緑性の高木。葉は互生し、長さ1~2cmの柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、花のつく枝では長さ7~12cm、幅2.5~5cmであるが、下枝や幼木ではより大きく、革質、先端はやや鋭尖頭で鈍端、裏面は灰白色になる。若葉は紅色を帯びる。花期は4~5月、花序は新枝の基部にいくつかつき、長さ3~8cmの柄があり、その先は円錐状に分枝する。花は黄緑色、花被片は深く6裂し、裂片は長楕円形、長さ5~6mm、果実は扁球形で黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 村境~猿ヶ鼻（小林 41329）、7 宇連（小林 53608）、9 黄柳野（加藤等次 753）、13 千両町（芹沢 64735）、14 西浦町（鈴木美恵子 419）、15 嵩山町（芹沢・芳山 258）、16 伊古部町（芹沢 89104）、17 笠山（芹沢 89117）、18 堀切町（芹沢 88254）。西：20 三足（日比野修 3851）、22 樽俣（日比野 2100）、24 六所山（山崎玲子 719）、25 猿投山（村松 377）、26 渡刈町（落合鈴枝 295）、27 福谷（芹沢 69851）、28 鹿勝川（福岡義洋 1356）、29 小美町（伊奈朋子 230）、30 藤川町（本多さおり 306）、31 深溝（金子律子 332）、32a 高津波町（芹沢 70282）、33 西別所町（堀田喜久 3397）、35 西浅井町（芹沢 66267）、36 幡豆町寺部（芹沢 81181）。尾：37a 定光寺町（日比野修 498）、広久手町（芹沢 75719）、41b 佐布里池（村松 28298）、42a 草木（渡邊麻子 897）、44a 河和（瀧崎 2876, T）、44b 山海岩屋（芹沢 89149）、49d 新川町桃栄（芹沢 79186）、50 西区庄内川（鳥居ちよ子 2225）、51 緑区大高町（渡辺幸子 1362）、52 熱田区旗屋（高木順夫 3532）、54 尾西市木曾川（渡辺 1235）、57b 立田村福原（山田茂貴 846）。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本~中国大陸。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林			○	○
草・岩				
湿地				
水域				

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。海岸部ではあちこちに生育しているが、タブノキ林というほどの状態になっている場所は少ない。

【観察上の留意点】

幼木はついつい標本を作成せずに通り過ぎてしまうことが多い。注意して正確な分布情報を集積する必要がある。

【特記事項】

同じクスノキ科のヤブニッケイ *Cinnamomum japonicum* Sieb. ex Nakai も海岸林に多い樹木であるが、こちらはやや内陸の社寺林などにも広く生育しており、東：1 村境~猿ヶ鼻（小林 41327）、2 佐久間湖鰻樽沢（村松 14373）、8 鳳来寺山（加藤等次 129）、10 愛郷（小林 49091）、13 三上町（加藤等次 2500）、14 相楽町（堀田喜久 212）、15 多米町（瀧崎 11431）、16 植田町（瀧崎 11922）、17 長興寺（瀧崎 33121, T）、18 伊良湖古山（芹沢 87631）、西：19 池島（日比野修 2227）、22 日面（日比野 2009）、23 折平（日比野 1286）、25 猿投山（磯貝彰宏 1376）、26 今町（落合鈴枝 553）、28 夏山（福岡義洋 1274）、30 鉢地町（本多さおり 383）、31 荻（金子律子 750）、32a 井ヶ谷町（芹沢 46082）、33 上条町（堀田喜久 507）、34a 春日町（芹沢 69972）、35 駒場町（堀田喜久 4033）、36 西幡豆三ヶ根山（壁谷重美子 618）、尾：37a 北白坂町（塚本威彦 195）、41a 加木屋町（吉鶴靖則 665）、42a 植大（渡邊麻子 460）、43 常滑中椎田~新池（芹沢 66407）、45 栗栖（芹沢 51862）、46a 高雄木曾川（福岡義洋 3158）、48 外之原町（芹沢 66349）、49d 新川町下河原（芹沢 78637）、50 守山区大森（鳥居ちよ子 927）、51 緑区大高町（渡辺幸子 1361）、52 熱田区旗屋（高木順夫 3506）、54 尾西市木曾川（渡辺幸子 1234）、55 片原一色町（水野峰子 304）、56b 馬島（芹沢 92560）、57b 立田村木曾長良背割堤（西尾芳徳 329）などで採集されている。

【関連文献】

保木 II p.197-198, 平 I p.86.

スルガテンナンショウ *Arisaema yamatense* (Nakai) Nakai subsp. *sugimotoi* (Nakai) Ohashi et J.Murata

【概要】

山地の林内に生育する多年生草本。地下に球茎があり、そこから毎年 1 本の地上茎を伸ばして 2 枚の葉と 1 個の仏焰苞に包まれた花序をつける。変わった形態をしているので注意を引きやすく、観察の対象として面白い植物である。適湿で肥沃な山地林の指標となる。名古屋市 VU。テンナンショウの仲間は似た種類が多く、識別が難しいが、本種は花序付属体先端が急にふくらんで前屈し、仏焰苞の内側に微小な乳頭状突起が密生していて、他種から容易に区別することができる。ただし、稀に花序付属体先端があまりふくらまないものがあり、エンシュウテンナンショウと呼ばれている。名古屋市 CR。

【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形で、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は通常 2 個、第 1 葉の葉鞘は長さ 20~50cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 7~11 枚、葉軸はよく発達する。第 2 葉は通常小さく、特に柄部分は短いことが多い。花期は 4~5 月、仏焰苞は葉よりやや早く開き、葉とほぼ同じ高さにつき、通常緑色、筒部は長さ 4~7cm、口辺は狭く開出し、舷部は卵形、長さ 6~11cm、内面に微小な乳頭状突起を密生する。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体先端は急にふくらんで前屈し、幅 5~7mm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 足沢産植栽（芹沢 48147）、2 分地（芹沢 51327）、3 大入溪谷（芹沢 45471）、4 水梨川（芹沢 54702）、6 段戸山（芹沢 29329）、7 岩古谷山（芹沢 61084）、8 池場（芹沢 51299）、9 黄柳野（芹沢 48128）、10 布里（加藤等次 1267）、11 岩波（芹沢 48482）、12 八束穂（芹沢 32446）、13 杣坂峠（芹沢 51219）、14 国坂峠（芹沢 91003）、15 岩崎町（瀧崎吉伸 12876）17 蔵王山（芹沢 54384）、18 和地（芹沢 88262）。西：5 面ノ木峠産植栽（芹沢 27750*）、川手（塚本威彦 2645）、19 伊熊（芹沢 64936）、20 霧山（鈴木万里亜 315）、21 東大沼（芹沢 60992）、22 大草（芹沢 51118）、23 西市野々（日比野修 258）、24 力石町（山崎玲子 2602）、25 猿投山（芹沢 36667）、28 上海津（中西普佐子 358）、29 村積山（芹沢 85432）、30 鉢地町（本多さおり 136）、31 荻（金子律子 189）、36 幡豆町東幡豆（壁谷重美子 241）。尾：37a 北白坂町（日比野修 114）、38b 岩崎町（半田多美子 2258）、45 栗栖（芹沢 40298, 72775*）、48 外之原町（福岡義洋 2462）、50 守山区上志段味（鳥居ちる子 1053）、51 天白区野並（渡辺幸子 5018）。*はエンシュウテンナンショウ型である。

【国内の分布】

本州（静岡県、長野県南部、愛知県、岐阜県）。近畿地方には基準亜種のムロウテンナンショウ subsp. *yamatense* が分布している。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

【生育地の環境／現在の生育状況】

愛知県の低山地では比較的多く見られるが、丘陵地では稀である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種を含むテンナンショウ類は植物体に水分が多く、初心者にはまともな標本が作れない。同定は開花期ならば写真でも十分行えるから、新たな自生地が発見された場合はとりあえず写真で情報提供してほしい。

【似た種類】

本種以外のマムシグサ類は、いずれも花序付属体が円柱状~棍棒状である。愛知県にも数種生育しているが、識別はなかなか難しい。

【関連文献】

保草本Ⅲp.210, 平 1 p.104, RDB なごや 2015 p.117.

ウラシマソウ *Arisaema urashima* H.Hara

【概要】

林内に生育する多年生草本。海岸近くの照葉樹林内に多いが、山地にも見られる。地下に球茎があり、そこから毎年1枚の葉と1個の仏焰苞に包まれた花序を出す。花序の先端は仏焰苞の外に出て釣り糸状に長く伸び、それが浦島太郎の釣り糸のようだというので和名が付けられている。変わった形態をしているので注意を引きやすく、観察の対象として面白い植物である。開発の影響を受けやすい海岸近くに残存する自然の指標となる。名古屋市 NT。

【形態】

多年生草本。地下茎はほぼ球状で、上部から多くの根を出し、多数の子球をつける。葉身のある葉は通常1個、葉鞘は短く、長さ3~10cmである。葉身は鳥足状に分かれ、小葉は11~17枚、互いに接近してつき、葉軸はあまり発達しない。小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁、表面は深緑色で光沢がある。花期は4~5月、仏焰苞は葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ4~6cm、白色で紫条があり、口辺は狭く開出し、舷部は濃紫色で長さ6~12cm、先端は尾状に伸びる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体は下部でふくらみ、平滑、一度曲がって仏焰苞の外に出、再び曲がって直立し、先端は長く伸びて糸状にたれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1大谷(小林42343、3下田(村松25154)、6清崎(小林41902)、8豊岡(小林56426)、10塩瀬(小林56451)、11大和田(小林68871)、12日吉(芹沢58093)、13音羽町赤阪(芹沢81175)、14西浦町(鈴木美恵子356)、15賀茂町(加藤等次4885)、16牟呂町(瀧崎3942)、17蔵王山(54383)、18伊川津(芹沢58213)。西：5押山(小林43100)、19小渡(塚本威彦568)、20大河原(新井文子441)、21下山田代町(芹沢92001)、22日面(日比野修2016)、24中切町(芹沢48267)、25越戸町(畑佐武司1632)、28鳥川(福岡義洋337)、29桑原町(中西普佐子536)、30舞木町(大形昌、1981年)、33和泉町(芹沢48289)、34a芳川町(堀田喜久3998)、36幡豆町寺部(芹沢81183)。尾：37a巡間町(日比野修5117)、41a荒尾町(加藤雅憲1132)、42a萩(渡邊麻子263)、44a野間(芹沢39611)、44b南知多町山海(大西博250、322*)、51緑区大高町(芹沢77176)、52熱田区熱田神宮(大形昌、1981年)。*は仏焰苞が緑色のものである。

【国内の分布】

北海道(南部)、本州、四国、九州(北部)。近畿地方以西には近縁のナンゴクウラシマソウ *A. thunbergii* Blume が分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。海岸近くに多いが、海浜にはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

スルガテンナンショウと同様植物体に水分が多く、初心者にはまともな標本が作れない。本種に限れば同定は写真でも十分行えるから、新たな自生地が発見された場合はとりあえず写真で情報提供してほしい。

【似た種類】

テンナンショウ属の中では極めて特徴的な種類で、少なくとも愛知県では、他種と混同するおそれはない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.200, 平1 p.97, RDBなごや2015 p.294.

コアマモ *Zostera japonica* Asch. et Graebn.

【選定理由】

内湾や河口部の、干潟状の場所に生育する海産種子植物。県内では生育地が限られているが、知多半島西海岸や三河湾の豊川河口には、大きい群落がある。県内の分布は十分に把握されているとは言い難く、注意して探索すれば更に多くの自生地が確認されると思われる。特に多くの人の目で探索したい植物の一つである。

【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は砂泥中をはい、節から根と枝を出す。葉は互生し、糸状、長さ10～40cm、幅1.5～2mm、先端は円頭、辺縁は全縁、3本の脈があり、基部は開いた葉鞘となる。花期は愛知県の資料では5～8月、花序は長さ約2cmで、葉鞘に包まれ、扁平な軸の片面に、雄ずいと雌ずいが交互に並ぶ列が2列つく。種子は楕円形、長さ約2mm、種皮は平滑である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 竹島（瀧崎 28380）、16 神野新田町（芹沢 75536）、18 伊川津（高木順夫 5550）。西：36 一色町生田（中根幸司 1244）、吉良町吉田（芹沢 81372）、同白浜新田（芹沢 81375）。尾：41b 日長長浦（畑佐武司 182）、44a 奥田（芹沢 75416）。生育地点は比較的少ないが、ある場所では多量に生育していることが多い。南知多町大井にもあるという話だが、まだ確認できていない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球の海岸に生育する。

【世界の分布】

東アジアに広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。知多市では、かなり汚染の進んだ水路に群生している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【観察上の注意点】

自生地ではしばしば潮干狩りが行われていて、うっかり立ち入ると叱られることがある。注意が必要である。開花期に関する情報が十分でないので、できれば季節を変えて観察し、いつからいつまで花・果実が見られるかしっかり記録してほしい。

【特記事項】

本種については、過去の情報が不十分でよくわからない部分はあるが、ごく近年に限れば増加傾向にあるように思われる。陸上で強力な除草剤が使用されなくなったことと関係しているかもしれない。その一方で本種の県内の生育状況は、各種開発工事等に伴う環境影響評価のための調査によって解明された部分が多い。この事実は、本種の生育地に対する開発圧力が極めて高いことも示している。

【関連文献】

保草本Ⅲp.403-404, 平 1 p.129.

アマモ *Zostera marina* L.

【選定理由】

内湾性の潮間帯下部～潮下帯に生育する海産種子植物。群落はアマモ場と呼ばれ、稚魚等の生育場所として重要である。散生群落は大潮の時の干潟でも観察できる。海産種子植物は種子植物関係者が調査に行く機会がほとんどない。意識して情報の蓄積に努める必要があるという意味で、前種コアマモと共に、環境指標種として選定することにした。

【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は砂泥中をはい、節から根と枝を出す。葉は2列に互生し、線形、長さ40～80cm、幅3～6mm、先端は円頭、辺縁は全縁、5～7本の脈があり、基部は開いた葉鞘となる。花期は4～5月、花序は長さ5～10cmで、葉鞘に包まれ、扁平な軸の片面に、雄ずいと雌ずいが交互に並ぶ列が2列つく。種子は楕円形、長さ3～4mm、種皮には縦条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 神野新田町（芹沢 75535）、17 赤羽町越戸海岸（小林 74894）。西：36 一色町佐久島（中根幸司 1333）、吉良町吉田（芹沢 81187）、同宮崎（芹沢 81186）、幡豆町東幡豆前島（中根 1830）。尾：43 荻屋町（鳥居ちゆ子 1575）、44a 奥田（芹沢 75415）、44b 篠島（芹沢 81295）。生育地点は比較的少ないが、ある場所では多量に生育していることが多い。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯～寒帯に広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

主たる生育地が潮下帯であるため、直接観察が難しく、正確な分布状態はよく把握されていない。その一方で、各地でアマモ場再生の取り組みが行われており、その中には移入に対する配慮が乏しい例も見受けられる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【観察上の留意点】

干潟に生育するものについては、コアマモと同様、潮干狩りと間違えられないよう注意が必要である。流れ藻状態のものは葉が切れたりして不完全な状態になっていることが多いが、そのようなものでもできれば採集して標本を作成しておいてほしい。

【特記事項】

アマモ場の再生を行うときには、他地域からの移入材料を使わないよう、特に注意が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.402-403, 平 1 p.129, 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.109, 文一総合出版, 東京.

エビモ *Potamogeton crispus* L.

【概要】

平野部の小水路などに生育する沈水性の水草。愛知県のヒルムシロ類の中では似たものがない、識別の容易な種類である。時に止水域にも生育する。愛知県の水草は水質汚濁などの影響を受けて全体的に衰退しており、現在のところあまり減少傾向が認められない種も含めて、注意深く観察する必要がある。今回は山間部の溜池に多い種類としてフトヒルムシロとホソバミズヒキモ、平野部の小水路に多い種類としてナガレミズヒキモ、やや大きい水路に多い種類として本種の計4種をとりあげたが、既にレッドデータブックに掲載されている種類や今回取り上げなかったヤナギモ *P. oxyphyllus* Miq.を含めて、現状をできるだけ正確に記録してほしい。

【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は泥中をはい、1節おきに水中茎を出す。水中茎は長いものでは1m以上になる。葉は互生し、無柄、葉身は広線形～線状楕円形、長さ4～8cm、幅4～8mm、辺縁は細かい鋸歯があり、波状になることもならないこともある。晩春以降に、茎の先端や葉腋から出た短い枝の先に枝軸と葉が肥厚して硬くなった殖芽を形成する。愛知県では花はほとんど咲かないが、僅かな開花標本では花期は5月、茎の上部の葉腋から長さ約4cmの花茎を出し、その先端に長さ約1cmの花穂をつけている。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:8長篠(加藤等次 2158)、11田原(小林 53289)、12豊島(加藤 2361)、13三上町(加藤 2957)、15嵩山町(芹沢 42494)、多米中町(瀧崎吉伸 12123)、17浦町(瀧崎 23090, T)、18中山(芹沢 78366)。西:24扶桑町(山崎玲子 909)、27明知(芹沢 71375)、30宇頭町(芹沢 71251)、31六栗(金子律子 1324)、32a今川町(芹沢 71170)、32b上重原町(白井直子 17)、33西別所町(堀田喜久 950)、34b中田町(芹沢 81127)。尾:38a杵ヶ池(半田多美子 1175)、37b稲葉町(村松 21793)、38b北新田(鈴木淳 20)、39b沓掛町(芹沢 71370)、40b石浜(渡邊麻子 1040)、43b柞池(中井三従美 56)、46a木曾川(芹沢 65805)、46b外坪(福岡義洋 5043)、47新町(福岡 4362)、村中(福岡 4352)、49c師勝町大山川(鈴木幸子 655)、49d新川町西須ヶ口(芹沢 78159)、50中区二の丸(芹沢 78159)、51瑞穂区天白川(渡辺幸子 1012)、52中川区福島(高木順夫 6602)、53北方町(芹沢 70422)、54尾西市木曾川(渡辺 1067)、56b北間島(芹沢 70704)。平野部には広く分布していると思われる。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球(稀)。

【世界の分布】

南米を除く全世界。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。特徴的な種類であるが、ヤナギモなどに比べればやや少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

【観察上の留意点】

水草は一般に識別が難しく、見ただけではわからないことが多い。コウホネ類など一部の種類を除けば多少採集しても個体群の存続に影響を与えるおそれはないから、採集して標本を作成することを心がけるべきである。標本を作成する際は、きれいな水で洗い、水中に拵げて台紙ですくい上げると、特徴がわかりやすくなる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.414, 平1 p.133, 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.126, 文一総合出版, 東京.

フトヒルムシロ *Potamogeton fryeri* A.Benn.

【概要】

山間部や山よりの丘陵地のため池に生育する浮葉性の水草。平野部や浅い丘陵地に多いヒルムシロ *P. distinctus* A.Benn. (県 NT, 名古屋市 EN) によく似ているが、あまり水質汚濁の影響を受けない場所に多く生育しているため、現在のところ減少傾向はそれほど認められない。ヒルムシロと比較しながら観察するとよい植物である。

【形態】

浮葉性の多年生草本。ヒルムシロに似ているが浮水葉は幅広く、基部はより丸味を帯びることが多い。沈水葉は通常倒披針形で、ヒルムシロと異なり柄状の部分がない。殖芽は形成せず、水中茎のまま越冬する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 東山 (芹沢 93118)、6 段戸山岩岳 (小林 38253)、8 長篠 (加藤等次 3926)、10 海老須山 (小林 54944)、11 白鳥 (芹沢 78177)、中河内 (芹沢 55462)。西：5 小田木 (塚本威彦 2628)、20 大多賀 (芹沢 78254)、21 羽布 (村松 23155)、22 田代 (芹沢 78115)、23 深見 (芹沢 54820)、24 坂上町 (山崎玲子 779)、25 広幡町 (奥村富枝 20)、29 小呂町 (芹沢 52173)、30 本宿町 (本多さおり 912)。尾：37a 下半田川町 (芹沢 77898)、曾野町 (日比野修 1782)、海上町 (芹沢 74809)、38a 熊張 (鈴木淳 107)、38b 岩藤新田 (芹沢 71300)、45 池野 (芹沢 78119)、塔野地 (塚本威彦 995)、48 廻間町 (芹沢 73236)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島。

【生育地の環境／現在の生育状況】

ヒルムシロと異なり山間部のため池に多く、丘陵地には少ない。しばしば水面をおおうほどに生育しており、太い花穂がよく目立つ。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

【観察上の留意点】

ヒルムシロとの最も確実な識別点は、水中葉に柄状の部分がないことである。観察の際には、特に水中葉に注意する必要がある。本種やヒルムシロは水草の中では植物体が比較的しっかりしており、水中ですくわなくても標本を作成できる。

【似た種類】

オヒルムシロ *P. natans* L. は山中の深い池に生育しており、水中葉は線形棒状である。愛知県では稀少な植物 (県 VU) で、現在のところ新城市と豊田市の数カ所で確認されているだけである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.410, 平1 p.132, 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.111, 文一総合出版, 東京.

ホソバミズヒキモ *Potamogeton octandrus* Poir.

【概要】

山間部や丘陵地のため池に生育する浮葉性の繊細な水草。小型であり目立たないが水質がある程度よい止水域ならばたいの所に生育しており、その意味でまずは本種を確認するとよい。流水域に生育することは少ない。

【形態】

浮葉性の水草。地下茎は細く、底泥中をほう。水中茎は水深に応じて伸び、よく分枝する。沈水葉は互生し、細い線形、長さ3~6cm、幅は1mm以下、鋭尖頭、浮水葉は長さ5~15mmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ1.5~3cm、幅3~6mm、先端は鋭頭、明るい黄緑色である。花期は7~9月、浮水葉の腋から長さ1~2cmの花茎を伸ばし、その先に数段の花がある長さ7~12mmの花穂をつける。初夏から秋にかけて葉腋に長さ約1cmの細く尖った殖芽をつけ、この殖芽で越冬する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:2 坂宇場(芹沢 80814)、4 能知(小林 39051)、12 川路(小林 39994)、13 一宮町上長山(小林 39624)、15 石巻町(瀧崎 29565, T)、16 駒形町(小林 64417)、17 赤羽根町穴野(瀧崎 25792, T)、18 村松(小林 73074)。西:21 蘭町(芹沢 83072)、22 田代(芹沢 78116)、23 田茂平(日比野修 1833)、24 勘八町(芹沢 83824)、26 畝部東町(畑佐武司 2293)、28 獅子ヶ森(小林 52756)、29 茅原沢町(芹沢 67096)、30 桑谷町(芹沢 78057)、32a 井ヶ谷町(浜島繁隆, 1975 年)、36 西幡豆奥山(芹沢 82007)。尾:37a 定光寺町(日比野修 1783)、海上町(芹沢 74810)、37b 維摩池(鈴木淳 516)、38a 岩作(芹沢 76301)、38b 赤池(半田多美子 1226)、40b 緒川(芹沢 72468)、42b 行人町(芹沢 76164)、43 桧原(中井三従美 54)、45 今井(芹沢 78126)、47 大山(塚本威彦 2594)、48 西尾町(芹沢 78021)、50 守山区上志段味(鈴木淳 309)、名東区猪高町上社(浜島繁隆, 1981 年)、51 天白区荒池(渡辺幸子 1124)、瑞穂区瑞穂グランド(浜島繁隆, 1971 年)、緑区神の倉(中島ひろみ 906)、54 尾西市木曾川(渡辺 4913)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東~東南アジア、オセアニア。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。本種もフトヒルムシロほどではないが比較的水質汚濁の影響を受けにくいため池に多く生育しているため、現在のところ減少傾向はあまり顕著でない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○	○		

【観察上の留意点】

水草は一般に識別が難しく、見ただけではわからないことが多い。コウホネ類など一部の種類を除けば多少採集しても個体群の存続に影響を与えるおそれはなく、採集して標本を作成することを心がけるべきである。標本を作成する際は、きれいな水で洗い、水中に拵げて台紙ですくい上げると、特徴がわかりやすくなる。

【似た種類】

イトモ *P. berchtoldii* Fieber (県 NT) は本種に似ているが、浮水葉を作らず、沈水葉はやや幅が広く、殖芽は枝先について大きい。ナガレミズヒキモとの区別点についてはその項参照。

【特記事項】

本種に似て果実の背稜に著しいトサカ状の突起があるコバノヒルムシロ *P. cristatus* Regel et Maack は、愛知県にも生育している可能性が高いが、現在の所まだ確認されていない。特に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.412, 平 1p.133, 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.118, 文一総合出版, 東京.

ナガレミズヒキモ *Potamogeton* sp.

【概要】

平野部の小水路などの流水中に生育する沈水性の水草。ヤナギモ、アイノコイトモと共に生育していることが多いが、本種は葉が最も細く、鮮緑色でよく目立つ。比較的普通に見られる種類であるが、水質汚濁により減少傾向にあることは明らかである。「春の小川はさらさら行くよ」と歌われるような環境を維持する上で、特に注目してよい植物である。

【形態】

ホソバミズヒキモに似ているが流水域に生じ、通常浮水葉を出さない。枝葉は密に茂り、長さ1m以上になり、流れにたなびく。ごく稀に不完全な浮水葉を出して開花することがあるが、通常は開花することなく、殖芽で栄養的に繁殖する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 15 下条東町 (小林 58150)、16 神野新田町 (芹沢 79250)、17 高松 (小林 71968) 18 伊良湖 (小林 57513)。西: 25 越戸町 (山崎玲子 813)、26 堤本町 (芹沢 71380)、27 明知 (芹沢 71376)、30 宇頭町 (芹沢 71252)、32a 今川町 (芹沢 71172)、33 西別所町 (堀田喜久 952)、34b 中田町 (芹沢 81128)、35 細池町 (芹沢 81111)、36 一色町生田 (芹沢 81121)、吉良町吉田 (芹沢 81116)。尾: 37a 三沢町 (日比野修 1776)、38b 梅森 (村瀬美智子 869)、39b 沓掛町 (芹沢 71373)、40a 北崎町 (芹沢 70292)、40b 石浜 (渡邊麻子 1039)、42c 堀川 (相羽福松 4012)、43 小鈴谷 (芹沢 53666)、46b 外坪 (福岡義洋 5044)、47 三ツ渕 (福岡 4254)、49c(鈴木幸子 855)、49d 西須ヶ口 (芹沢 78161)、50 守山区下志段味 (鳥居ちよ子 447)、名東区引山 (鳥居 1121)、51 天白区井口 (渡辺幸子 1941)、52 中川区下之一色町 (高木順夫 8902)、53 大和町 (渡辺 4813)、54 尾西市木曾川 (渡辺 1245)、55 石橋町 (家田晴俊 314)、56 北間島 (芹沢 70706)、57b 立田村福原(山田茂貴 99)。

【国内の分布】

詳細不明。

【世界の分布】

詳細不明。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域			○	

【観察上の留意点】

水草は一般に識別が難しく、見ただけではわからないことが多い。コウホネ類など一部の種類を除けば多少採集しても個体群の存続に影響を与えるおそれはなく、採集して標本を作成することを心がけるべきである。標本を作成する際は、きれいな水で洗い、水中に拵げて台紙ですくい上げると、特徴がわかりやすくなる。

【似た種類】

ホソバミズヒキモとの区別点については形態の項参照。イトモは止水域に生育しており、葉の幅がやや広く、殖芽が大きい。ツツイトモ *P. pusillus* L.は沿海域の養魚場跡地や流れのほとんどない水路に生育しており、イトモに似るが花が2段に着くことが多く、殖芽は細い。2009年版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、近年増加傾向が著しく移入系統である可能性が高いことから、2015年のレッドリストでは評価の対象外とした。

【関連文献】

角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.118 (ホソバミズヒキモに付記). 文一総合出版, 東京.

クロヤツシロラン *Gastrodea pubilabiata* Y.Sawa

【概要】

葉緑素を持たない腐生のラン科植物。丘陵地の竹林、二次林、スギ造林地内などに生育するが、特に竹林に多い。県内の分布は十分に把握されているとは言い難く、身近な場所で注意して観察すると新たな自生地が発見できる可能性が高い。特に多くの人の目で探索したい植物の一つである。名古屋市 VU。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5~4cm、直径 4~10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 2~5cm、3~4 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9~10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 3~8 個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ 3~6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ約 1cm の鐘状になり、口部は 3 裂し、裂片の内側に小さい 2 個の側花弁がある。唇弁は上面に黄白色の毛が密生する。花柄は花時には長さ約 1cm であるが、花後著しく伸長して 20~40cm に達する。果実は細長い楕円形、長さ 1.8~3cm、直径 5~7mm、黒褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来寺山（加藤等次 4214）、12 市川豊川（小林 49718）、14 豊岡町（小林 55190）、15 嵩山町（芹沢 90882）、16 細谷町（小林 54362）、17 谷熊南部（橋本宣子、2004 年）、蔵王山（小林 49622）。西：24 豊松町王滝溪谷（畑佐武司 6916）、29 東公園（大原準之助、1979 年）、30 生平町（千賀敏之、2011 年）、36 幡豆町寺部（吉見元伸、2006 年）、同西幡豆小野ヶ谷（近藤洋一朗 7900）。尾：37a 広久手町（芹沢 75141）、50 名東区猪高緑地（鳥居ちゆ子 2046）、51 天白区平針黒石（中島ひろみ 375）。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

地表近くに黒褐色の花をつけるため、花期にはほとんど発見できない植物で、通常は果柄の伸長した時期になって初めて気がつく。それでも非常によく目立つというわけではないから、不注意に踏みつけてしまうことも多い。多人数での探索や観察は避けるべきである。

【似た種類】

アキザキヤツシロラン *G. verrucosa* Blume（県 VU）は全体にやや大形で花が淡色、花序の軸はより長く伸長するが、識別はかなり難しい。愛知県では東三河南部と岡崎市で確認されているが、多いものではない。他地域でも発見される可能性はあるので、疑問に思うものがあれば連絡して確認を受けることが望ましい。

【特記事項】

本種の生育地は多くが里山であり、開発圧は高いが、開発されないところでは急速に森林化が進んでいる。竹林の増加も目立つ。竹林の増加は多くの植物にとっては脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合である。そのため本種は近年やや増加傾向にあり、エンシュウムヨウラン（233 頁）と共に里山森林化の指標として有効と思われる。

【関連文献】

平 1 p.203, RDB あいち 2001p.590, RDB なごや 2015 p.167.

ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Blume

【概要】

葉緑素を持たない腐生のラン科植物。愛知県では主として低山地～丘陵地に点在するが、県内の分布は十分に把握されているとは言い難く、注意して観察すると新たな自生地が発見できる可能性が高い。特に多くの人の目で探索したい植物の一つである。名古屋市 EN。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ 5～15cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ 20～50 cm、淡褐色、3～7 個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ 7～15mm、先端は鋭頭である。花期は 5～6 月、花は茎の上部にややまばらに 4～10 個つき、長さ 6～15cm の総状花序となり、淡褐色で平開し、苞は三角形、長さ 3～7mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、倒披針形で長さ 17～25mm、唇弁も倒披針形で長さ 15～20mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 猿ヶ鼻（小林 52092）、2 分地（小林 44004）、8 県民の森（小林 34374）。西：19 八幡（小林 64277）、20 東大見（山崎玲子 556）、21 下山田代町（芹沢 83064）、23 大岩（日比野修 3585）、24 上高町（山崎玲子 2851）、25 広幡町（畑佐 127）、30 池金町（芹沢 79182）。尾：37a 下半田川町（芹沢 76789）、海上町（芹沢 75689）、45 今井（芹沢 79208）、47 石金（日比野修 4792）、48 西尾町（山田果与乃 698）、50 守山区東谷山（飯尾俊介、2003 年）。名古屋市内の自生地は東谷山だけで、丘陵地ではエンシュウムヨウランは多いが、本種は現在のところ確認されていない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本～中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

社寺林などの照葉樹林の林床に出現することが多いが、二次林にも見られる。個体数はどの場所でもあまり多くなく、エンシュウムヨウラン（次頁）のように群生することはない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	△	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

非常によく目立つというわけではないから、不注意に踏みつけてしまうことも多い。多人数での探索や観察は避けるべきである。

【似た種類】

ホクリクムヨウラン *L. hokurikuensis* Masam. (県 VU) は花が平開せず、茎の先端に集まってつく。本種と同じような場所に生育しているが、より稀である。エンシュウムヨウランとウスギムヨウラン *L. kiusiana* Tuyama (県 EN、はじめウスギムヨウランと命名されたが、現在では「ウスギ」と濁ることが多い) はやや小型で根が浅く、花は開かないか斜開する。クロムヨウラン *L. nigricans* Honda (県 VU) は他種に比べ開花期が遅く、8 月に咲く。

【特記事項】

本種を含むムヨウラン類は、緑色の葉を持たない上に開花期が短く、観察しにくい。果実期のもので同定はある程度可能であるが、できれば翌春再訪して開花期の標本を作成することが望ましい。ただしムヨウラン類のような腐生植物は、毎年地上部を出すとは限らない。翌春行ってみたら何もなかったということもある。

【関連文献】

平 1 p.210, RDB なごや 2015 p.169.
芹沢俊介. 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類 5:33-38.

エンシュウムヨウラン *Lecanorchis suginoana* (Tuyama) Seriz.

【概要】

葉緑素を持たない腐生のラン科植物。愛知県の里山二次林を特徴づける植物の一つで、丘陵地の二次林内などに生育する。県内の分布は十分に把握されているとは言い難く、身近な場所で注意して観察すると新たな自生地が発見できる可能性が高い。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は長さ2~7cm、木質で硬く、はじめ下を向き、すぐ反転して屈曲しながらまばらに分枝し、地表近くまで伸びる。地上茎は直立し、高さ15~30cm 淡褐色、3~6個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は長さ5~10mm、先端は鈍頭または鋭頭である。花期は5~6月、花は茎の上部にややまばらに3~7個つき、長さ2~10cmの総状花序となり、淡褐色、筒状でほとんど開かないか斜開し、苞は三角状卵形、長さ2~5mmである。がく片と側花弁はほぼ同形、倒披針形で長さ13~18mm、唇弁も倒披針形で長さ12~15mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 塩津（夏目一平、2009年）、9 巢山（小林 69205）、12 吉川（小林 62552）、13 一宮町東上（小林 49809）、14 遠望峰山（小林 57777）、15 岩崎町（芹沢 79168, 79169*）、16 細谷町（小林 69180）。西：21 下山田代町（芹沢 87616）、24 野見山町（山崎玲子 1672）、28 淡淵（山崎玲子 2705）、29 田口町（芹沢 79184）、30 池金町北山（芹沢 79179）。尾：37a 下半田川町（芹沢 75643）、海上町（芹沢 76751, 76752*）、38a 丁字田（半田多美子 3315）、38b 米野木町（半田多美子 2930）、45 池野（芹沢 79200）、47 石金（日比野修 4784）、48 廻間町（山田果与乃 2202, 2203*）、50 守山区上志段味（芹沢 75656）、51 天白区八事裏山（渡辺幸子 3887）、同野並（伊藤晶子 29）。*は全体黄色のキバナエンシュウムヨウラン form. *flava* Seriz.である。

【国内の分布】

本州（関東~東海地方）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。瀬戸市から名古屋市にかけては、数百株の群落も点々と見られる。しかし、愛知県ですっと植物を観察している人からは、「以前はほとんど見かけなかった」という話を聞く。単に注意されていなかっただけかもしれないが、近年急速に増加している可能性もある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	△	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ムヨウラン類の中では個体数が多く、多人数で観察しても比較的影響が少ない。まずは本種を観察して、それから少人数で他種を探すとよい。

【似た種類】

ウスギムヨウラン（県 EN）は本種に極めてよく似ているが、唇弁に紅色を帯びた毛がある。愛知県では極めて稀な種で、現在のところ瀬戸市、豊川市、豊橋市で確認されているだけだが、24 豊田市東部で確認されたという情報もある。

【特記事項】

本種の生育地は多くが里山であり、開発圧は高いが、開発されないところでは急速に森林化が進んでいる。里山の森林化は多くの植物にとっては脅威であるが、それ自体は自然度の向上である。本種は少なくとも近年は丘陵地のあちこちで見ることができるようになっており、クロヤツシロランと共にこの森林化の指標として有効と思われる。

芹沢 76752 はキバナエンシュウムヨウランの基準標本である。

【関連文献】

平 1 p.210.
芹沢俊介. 2005. 愛知県のムヨウラン類. 分類 5:33-38.

ユウスゲ *Hemerocallis citrina* Beroni var. *vespertina* (H.Hara) M.Hotta

【概要】

日当たりのよい草地に生育するやや大形の多年生草本。淡黄色で夜咲きのよく目立つ花をつける。愛知県では以前は山の草地などに比較的多く生育していたが、草地環境の減少に伴い、次第に少なくなっている。夕方咲くのでユウスゲと呼ばれ、また花が淡黄色なのでキスゲとも呼ばれる。明るい草地を指標する植物として特に重要である。名古屋市 CR。

【形態】

多年生草本。根は多数束生するが、紡錘状にふくらむことはない。葉は2列に束生し、線形、長さ40~100cm、幅は変異が著しく、4mm程度のものから20mmに達するものまである。花期は7~8月、花茎は高さ70~130cm、花序は小型の個体は総状または2叉状であるがよく育ったものは円錐状に分枝し、長さ40cmに達する。花は夕方咲いて翌朝閉じ、芳香があり、淡黄色、花筒は長さ2~5cm、花被片は6枚で長さ6.5~10cmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 上津県（芹沢 26376）、6 川向（芹沢 55914）、9 黄柳野（小林 59821）、12 中宇利（芹沢 56126）、13 一宮町旗頭山（小林 38198）、15 石巻萩平町（芹沢 66817）、17 笠山（芹沢 53024）、赤羽根町赤羽根（芹沢 56322）。西：5 中当（芹沢 55541）、19 伊熊町（芹沢 88545）、20 平沢（芹沢 77510）、21 田代（芹沢 70112）、22 前洞（日比野修 2643）、24 東広瀬町（佐藤久美子 711）、25 猿投町（畑佐 4472）、28 夏山（瀧崎 11581, T）、32a 泉田町（中村裕治 876）。尾：37a 上半田川町（日比野修 537）、39b 沓掛町（守山恭太 6-27）、42c 熊の池（中井三従美 28）、49c 西春町中之郷（鈴木幸子 505）、51 天白区保呂町（渡辺幸子 1120）、緑区鳴海町諸ノ木（芹沢 77629）。45 池野で1932年に採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。北海道にはよく似たエゾキスゲが分布している。

【世界の分布】

狭義のユウスゲは日本固有。種レベルの分類は諸説があってはっきりしないが、今回用いた学名の基準変種 var. *citrina*（ウコンカンゾウ）は中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

夜咲きの植物で、花は朝のうちはある程度残っているが、午後になると閉じてしまう。花茎は高く伸びているから、観察に際してはそのつもりで探索する必要がある。

【特記事項】

キスゲ属はよく目立つ花を付け、園芸化もされているが、花のより大きい園芸系統があるため採取圧はそれほど高くないと思われる。ここではユウスゲ、ノカンゾウ、ハマカンゾウを取り上げたが、それぞれ生育環境に特徴があるから、人里周辺に多いヤブカンゾウ *H. fulva* L. var. *kwanso* Regel、県 EN のゼンテイカ *H. dumortierii* Morr. var. *esculenta* (Koidz.) Kitam.（ニッコウキスゲ）とともに分布状態を確認しておきたい植物である。

【関連文献】

保草Ⅲp.140, 平1 p.238, RDB なごや 2015 p.127.

ノカンゾウ *Hemerocallis fulva* L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

【概要】

山地や丘陵地のやや湿った草地に生育する多年生草本。橙色～暗赤色で昼咲きのよく目立つ花をつける。愛知県では以前は比較的普通に見られたが、草地環境の減少に伴い、次第に少なくなっている。ただし、花が夕方には閉じるためきれいな標本を作りにくく、分布情報は十分蓄積されていない。近縁の他分類群と共に、詳細な県内分布を把握しておきたい植物である。名古屋市 CR。

【形態】

多年生草本。根は多数束生し、一部が紡錘状にふくらむ。葉は2列に束生し、線形、長さ30～65cm、幅は変異が著しく、3mm程度のものから15mmに達するものまでである。花期は通常6～7月だが、愛知県では花が8月に咲く遅咲き系統も見られる。花茎は高さ20～90cm、小型の個体は先端に1個の花をつけるだけであるが、大型の個体は花序が2分し、10個以上の花を順次咲かせる。花は昼咲きで芳香はなく、橙色～暗赤色、花筒は長さ2～3.5cm、花被片は6枚で長さ6～8cmである。通常結実しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 能知（小林 45758）、6 川向（芹沢 55560）、7 荒尾（榑原利修 925）、9 乗本（芹沢 59238）、11 清岳（芹沢 56033）、12 吉川（石川静雄 271）、13 行明町（加藤等次 1548）。西：23 深見（日比野修 526）、24 御船町（佐藤久美子 618）、25 田柵町（芹沢 62219）、26 明和町（落合鈴枝 2）、28 夏山（福岡義洋 1039）、29 秦梨町（伊奈知子 522）、32a 小堤西池（芹沢 41744）。尾：37a 三沢町（日比野修 490）、38b 折戸（半田多美子 384）、39b 杓掛町（浅野守彦 520）、45 栗栖（平嶋敏 801）、48 木附町（日比野修 1846）、50 守山区小幡緑地（芹沢 56215）、51 天白区八事裏山（西川勇夫 190）、緑区鳴海町神ノ倉（渡辺幸子 2692）。

遅咲き系統は、東：7 和市（芹沢 87944）、9 乗本（芹沢 87823）、12 市川（芹沢 60140）、15 嵩山町（芹沢 44672）、西：21 田折町（芹沢 86096）、24 矢並町（芹沢 53430）、29 駒立町（杉田一記 1328）、31 桐山（金子律子 1088）などに生育している。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。基準変種のホンカンゾウ var. *fulva* は中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県ではしばしば湧水湿地周辺部に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

湧水湿地周辺部に生育しているものについては、観察の際周辺の植物を踏み荒らさないよう、注意が必要である。

【似た種類】

別変種のヤブカンゾウは人里周辺に多く、全体にやや大形で、花は八重咲きである。ヤブカンゾウの県内分布は、ハマカンゾウの項に記述した。

【特記事項】

花が暗赤色のものは、ベニカンゾウと呼ばれることがある。愛知県の湿地にはこの型が多い。

【関連文献】

保草Ⅲp.141, 平 1 p.238-239, RDB なごや 2015 p.128.

ハマカンゾウ *Hemerocallis fulva* L. var. *littorea* (Makino) M.Hotta

【概要】

海浜に生育する多年生草本。崖状の草地などに多く、8～9月に橙色のよく目立つ花をつける。海浜のあちこちで見かける植物であるが、本変種も持ち帰ると花が閉じてしまう上に葉も乾きにくく、ノカンゾウ以上にきれいな標本を作りにくい。ノカンゾウと共に、詳細な県内分布を把握しておきたい植物である。

【形態】

多年生草本。根は多数束生し、一部が紡錘状にふくらむ。葉は2列に束生し、線形、長さ30～65cm、幅10～15mm、ノカンゾウより質が厚く、常緑性で、枯れた葉は翌年の花期まで残る。花期は8～9月だが残花は11月末まで見られることがあり、花茎は高さ40～100cm、花序は2～3分することが多いが、時には枝を分けて円錐状になる。花は昼咲きで芳香はなく、濃橙色、花筒は長さ1.5～2.5cm、花被片は6枚で長さ7～9cm、ノカンゾウに比べ幅が広い傾向がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 西浦町（鈴木美恵子 158）、17 姫島（瀧崎 23458, T）、18 和地（芹沢 81161）、日出（芹沢 62481）。西：36 一色町佐久島（芹沢 82271）。尾：44b 師崎（芹沢 62444）、日間賀島（芹沢 83441）、篠島（芹沢 82119）。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、台湾、中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。本来は自然度の高い場所に生育する植物であるが、多少攪乱された場所にも見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

崖状地に生育しているものについては、安全上の配慮が必要である。多くの場合は路傍の傾斜地などにも生育しているから、それほど無理をしなくても観察できる。

【似た種類】

ノカンゾウは丘陵地や山地のやや湿った草地に生育しており、開花期は通常6～7月である。また、本変種はノカンゾウより根茎が長くはうため、面的に広がった群落を作ることが多い。ただしノカンゾウ遅咲き系統は実際には本変種の内陸系統の可能性があり、今後詳細な検討が必要である。

ヤブカンゾウは人里周辺に多く、八重咲きで、開花期はノカンゾウよりやや遅いが、本変種に比べれば早い。愛知県では、東：2 三沢（加藤等次 3468）、4 白鳥山（石田雄吉 491）、7 荒尾（榊原利修 837）、8 門谷（加藤等次 4597）、14 清田町（井上美保子 880）、15 岩崎町（瀧崎 12218）、16 杉山町（芹沢 59139）、18 伊良湖宮下（芹沢 59162）、西：5 川手（塚本 2369）、19 八幡（日比野修 1453）、20 西町（山崎玲子 573）、21 花沢（長谷川朋美 576）、22 日面（伊藤泰輔 223）、23 北一色（日比野修 1431）、24 西広瀬町（佐藤久美子 649）、25 猿投山（山崎玲子 850）、28 鹿勝川（福岡義洋 862）、29 茅原沢町（伊奈知子 544）、30 羽栗町（本多さおり 461）、31 深溝（金子律子 892）、32a 野田町（白井直子 54）、33 西別所町（堀田喜久 3456）、34b 伏見屋外新田（芹沢 66756）、尾：37a 中水野町（日比野修 1472）、38b 梅森（村瀬美智子 190）、41a 加木屋町（吉鶴靖則 866）、42a 草木（渡邊麻子 570）、44b 山海（大西博 759）、45 八曾（松田ちか子 561）、46a 山那木曾川（上島秀郎 344）、47 池之内（日比野修 4875）、48 細野町（竹原芳子 97）、49d 新川町五条川（芹沢 77923）、50 守山区中志段味（鳥居ちよ子 946）、51 天白区中砂町（渡辺幸子 358）、52 中村区日比津町（鶴岡佐知子 493）、54 尾西市木曾川（渡辺幸子 1081）、55 平町（水野峰子 336）、57b 立田村福原（石樽弓彦 453）、58b 弥富野鳥園（竹原芳子 994）などで採集された標本があるが、実際には生育しているのに標本を採取していない区画も少なくない。

【関連文献】

保草Ⅲp.141-142, 平1 p.239.

コウボウムギ *Carex kobomugi* Ohwi

【概要】

代表的な海浜植物。自然度の高い砂浜ではごく普通に見られるが、それ以外の場所には生育していない。自然状態の海浜が減少していることから、特に注目したい植物である。

【形態】

多年生草本。地下茎は砂中を長く匍匐する。茎は砂中の部分を含めて高さ15～30cm、基部の葉鞘は著しく褐色の繊維に分解し、密なひげ状になる。葉は線形、幅5～8mmである。花・果期は4～5月、小穂は無柄で茎の先端部に密集してつき、全体で長さ5～6cm、幅1.5～2.5cmの一つの花穂のようになる。果胞は紡錘状卵形、長さ1～1.3cm、先端は長い嘴になり、両側に狭翼がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：16 細谷町表浜海岸（小林 42620）、17 久美原海岸（瀧崎 13085）、18 立馬崎（瀧崎 23784, T）。西：34b 川口町矢作川（芹沢 64858）、36 東幡豆洲崎（壁谷重美子 143）。尾：43 小林町（鳥居ちゑ子 1541）、新田町（梅田零奈 250）、44b 内海（大西博 302）。

【国内の分布】

北海道（西海岸）、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、ウスリー。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

砂の移動が激しい場所に適応した植物であるため、踏みつけなどにも耐性があり、比較的気遣いしなくてよい植物である。多少ならば、地下部を掘ってみてもよい。海浜の植物がいかに苦勞して厳しい環境に対応しているか、よく理解できる。

【似た種類】

スゲ属にはたくさんの種類があるが、本種は極めて特徴的な種類で、識別に迷うことはない。同属のコウボウシバ *C. pumila* Thunb. も砂浜に生育するが、こちらは本種に比べれば茎も葉も細く、一般的なスゲ類と同じ形状をしている。愛知県では、東：14 西浦町（鈴木美恵子 47）、16 細谷町（小林 42621）、17 久美原海岸（瀧崎 13070）、18 伊良湖岬（芹沢 61117）、西：34b 川口町（芹沢 64855）、35 西奥田町（中村さとこ 277）、36 東幡豆中ノ浜（壁谷重美子 270）、尾：41b 新舞子（鳥居ちゑ子 2677）、42b 板山町（芹沢 65258）、43 新田町（鳥居ちゑ子 1585）、44b 内海（大西博 300）、55 祖父江砂丘（渡辺幸子 3911）、57b 立田村長良川（芹沢 61201）、58b 小島新田（芹沢 58231）などで採集されていて、海岸の砂浜だけでなく木曾川や矢作川の下流部の砂地でも見ることができる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.260, 平1 p.302.

ミカツキグサ *Rhynchospora alba* (L.) Vahl

【概要】

本来は温帯性の植物であるが、愛知県の湧水湿地には広く生育している。良好な湧水湿地ならたいていの場所に生育しており、その一方で他の環境（例えば休耕田のような場所）にはほとんど出現しないから、湧水湿地の指標種として最も重要である。カヤツリグサ科であるが花は白色で比較的目立ち、同属他種からも容易に識別できる。

【形態】

多年生草本。茎は叢生してほぼ直立し、高さ 30～65cm、時に 85cm に達する。葉は細く、幅 1～2mm である。花は 6 月下旬から咲き始め 10 月まで見られるが、目立つのは 8～9 月、梶は茎の先端に 1～3 個集まってつき、その他に離れて 1～2 個つくことが多い。花序は多数の小穂が集まっており、小穂は披針形、長さ 5～6mm、やや赤褐色を帯びた白色である。果実は倒卵形、本体の長さ 1.5mm 程度、刺針状花被片は 12 本前後で果実本体より長く、花柱基部上端付近に達し、基部に斜上する刺状毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 川向（芹沢 56870）、11 長ノ山湿原（芹沢 56526）、13 一宮町大木（芹沢 56110）、15 葦毛湿原（芹沢 53540）、16 野依町（芹沢 56309）、17 黒河（芹沢 53610）、18 伊川津（芹沢 59782）。西：19 八幡牧場（大原準之助、1965 年）、23 深見（日比野修 804）、24 山中町（56059）、25 太平町（畑佐 2181）、27 黒笹（芹沢 81096）、28 獅子ヶ森（小林 52754）、30 池金町（芹沢 52798）、31 須美（芹沢 53260）、32 小堤西池（芹沢 46200）。尾：37a 西山路町（芹沢 76139）、37b 新居（芹沢 53822）、38a 前熊（半田多美子 3115）、38b 赤池（芹沢 62722）、39b 沓掛町（芹沢 59859）、41a 加木屋町（林彰一 659）、42a 板山（芹沢 56604）、42b 行人町（芹沢 76898）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 56629）、43 矢田池南（芹沢 76910）、45 善寺野（芹沢 60248）、48 廻間町（芹沢 56239）、50 守山区小幡緑地（芹沢 56211）、51 天白区八事裏山（芹沢 56192）。

【国内の分布】

北海道から九州南部まで分布するが、本州中部以北に多い。

【世界の分布】

北半球の寒帯から温帯に広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【観察上の留意点】

本種については 1980 年代末から 1990 年代はじめにかけて詳細な分布調査を行ったが、その後の状況は十分確認されていない。それから 30 年近く経つので、このあたりで改めて標本情報を蓄積する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅲp.254, 平 1 p.354.

マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus* Makino

【概要】

大形のカヤツリグサ科植物。平地や浅い丘陵地の湿地に生育する。愛知県では休耕田やため池の周辺などに生育していることが多く、良好な低湿地環境のよい指標となる。名古屋市 EN。

【形態】

多年生草本。茎は束生して直立し、高さ1~1.5mとなり、鈍い3角形、5~7個の節がある。葉は線形、幅4~8mm、葉鞘は長さ3~10cmである。花期は8~10月、散房花序は頂生および側生し、頂生の分花序は大きく、長さ5~10cm、苞は葉状で、花序よりも長く3~5枚つく。小穂は無柄、楕円形で長さ4~6mm、褐色~赤褐色、10~20個がかたまって径1~1.5cmの球状の花序となる。果実は長さ約1mm、淡褐色、刺針状花被片は長さ約5mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：24 東山町（山崎玲子 904）、25 八草町（畑佐 5204）、27 愛知池（岡本沙矢香 538）、29 北野町矢作川（芹沢 67715）、33 村高町矢作川（堀田喜久 3497）。尾：37b 平子町（村松, 1984年）、38a 熊張（半田多美子 3536）、38b 愛知池（半田 3435）、39a 愛知池（半田 3453）、41b 佐布里（鳥居ちゑ子 2611）、42a 宮津（渡邊麻子 735）、43 荻屋（鳥居ちゑ子 2467）、44b 篠島（小林 54521）、48 大泉寺町（芹沢 75097）、49a 北島町（芹沢 70733）、50 守山区上志段味（鳥居ちゑ子 2752）、名東区猪高緑地（芹沢 78209）、53 光明寺木曾川（芹沢 60733）、54 奥町木曾川（芹沢 60213）、55 祖父江町木曾川（山内富士子, 1979年）、57b 立田村福原（芹沢 63468）。尾張では比較的多いが西三河では少なく、東三河ではまだ確認されていない。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

【観察上の留意点】

観察時に水に落ちないように注意すれば、あとはあまり気をつかわなくてもよい植物である。

【似た種類】

コマツカサススキ *S. fuirenoides* Maxim. は本種に比べ全体に小型で、個々の花序は大きい、花序の数はずっと少ない。愛知県では山地や丘陵地のやや貧栄養の湿地に生育しており、東：6 川向（芹沢 52615）、7 田口（小林 67196）、10 海老須山（小林 54938）、11 中河内（芹沢 56013）、13 一宮町東上（小林 29405）、17 赤羽根町高松北（小林 47101）、西：5 大野瀬（小林 39238）、19 旭高原（山崎玲子 939）、20 中立（塚本威彦 2081）、21 蘭町（芹沢 83074）、22 田代（塚本威彦 1247）、23 三箇（日比野修 588）、24 西広瀬町（佐藤久美子 1425）、25 猿投山（磯谷彰宏 1678）、27 黒笹（白井里華 883）、28 牧平（福岡義洋 1041）、29 茅原沢町（伊奈知子 691）、30 市場町（本多さおり 886）、32a 井ヶ谷町（芹沢 46202）、33 村高町（堀田喜久 3490）、尾：37a 海上町（芹沢 74899）、37b 平子町（村松 724）、38a 岩作（芹沢 76312）、38b 岩藤新田（芹沢 64016）、39b 杓掛町（浅野守彦 665）、44a 奥田（芹沢 77604）、45 善師野（芹沢 52639）、48 木附町（芹沢 52661）、50 守山区上志段味（鳥居ちゑ子 478）、51 天白区久方（中島ひろみ 323）、緑区鳴海町水広下（芹沢 57216）などで採集された標本がある。

【特記事項】

同じカヤツリグサ科のウキヤガラ *Bolboshoenus fluviatilis* (Torr.) Sojak subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama も低湿地性の植物で、愛知県では東：17 芦ヶ池（瀧崎 9476）、西：24 御船町矢作川（山崎玲子 1465）、25 伊保町（芹沢 66164）、26 平和町（畑佐 4302）、29 北野町（中西普佐子 825）、32a 泉田町（芹沢 69281）、33 川島町（堀田喜久 1664）、34b 見合町油ヶ淵（堀田 3402）、35 中畑町矢作川（芹沢 64863）、36 吉良町崎山（堀田喜久 240）、尾：39b 栄町（浅野守彦 482）、40b 石浜（渡邊麻子 526）、44a 布土（畑佐 404）、50 守山区上志段味（鳥居ちゑ子 376）、名東区猪高緑地（芹沢 77485）、57b 立田村鶴戸川（芹沢孝子, 2001年）などで確認されている。本種と共に観察するとよい。

【関連文献】

保草Ⅲp.220, 平 1 p.359, RDB なごや 2015 p.183.

セトガヤ *Alopecurus japonicus* Steud.

【概要】

耕起前の水田に生育する 1 年生草本。代表的な水田雑草の一つであるスズメノテッポウ *A. aequalis* Sobol. と同属の植物であるが、それよりずっと少ない。サナエタデ (274 頁) やコオニタピラコ (303 頁) と共に、昔ながらの状態が残されている水田のよい指標となる。

【形態】

1 年生草本。稈は束生して直立し、高さ 20~60cm になる。葉は白緑色、稈基部のものは葉身が長く葉鞘が短い、上部のものは葉鞘が長くなる。茎の中上部の葉の葉身は長さ 3~10cm、幅 3~8mm、葉舌は白色膜質で長さ 2~4mm である。花果期は 4~5 月、花序は円柱形で長さ 4~7cm、幅 5~8mm、小穂は密集してつき、扁平で長さ 5~6mm、1 小花からなり、長い芒がある。葯は白色~黄白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 富岡町 (中西普佐子 3668)、13 一宮町上長山 (芹沢 64730)、14 西浦町 (壁谷重美子 4-3)、15 下条西町 (中西普佐子 3613b)。西：20 下国谷 (鈴木万里亜 411)、22 百月 (芹沢 65918)、25 八草町 (奥村富枝 42)、26 渡刈町 (落合鈴枝 772)、27 福谷 (白井里華 238)、28 鳥川 (福岡義洋 442)、29 秦梨町 (芹沢 65306)、34a 春日町 (瀧崎 33076, T)、30 羽栗町 (芹沢 69099)、31 逆川大坪 (芹沢 69203)、32a 広小路藤池公園 (似吹紀彦 4-9)、36 東幡豆大沢 (芹沢 69212)。尾：37a 曾野町 (日比野修 192)、38b 岩崎 (半田多美子 86)、39a 諸輪 (浜島育子 419)、40b 緒川 (渡邊麻子 201)、41a 太田町 (吉鶴靖則 747)、42a 植大 (渡邊麻子 148)、42b 中午町 (岡本久美子 106)、42c 武豊二ツ峰 (芹沢 55097)、46a 高雄 (福岡義洋 3151)、46c 村久野 (中西文治 363)、48 細野町 (山田果与乃 53)、49b 青山 (村松 28533, N) 49d 新川町五条川 (芹沢 78550)、50 守山区上志段味 (鳥居ちる子 374)、51 天白区植田川 (西川勇夫 19)、52 中村区城屋敷町 (鶴岡佐知子 353)、53 丹陽町伝法寺 (芹沢 71480)、54 尾西市西五城 (芹沢 61374)、55 奥田町 (水野峰子 139)、56a 甚目寺町甚目寺 (芹沢 54510)、56b 長牧 (芹沢 54596)、57b 佐屋町佐屋 (山田茂貴 927)。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本~中国大陸南部。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。どこにでもあるというわけではないが、よく探せばあちこちで見ることができる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【観察上の留意点】

水田に生育する植物なので、土地所有者への配慮が必要である。

【似た種類】

スズメノテッポウからは、小穂が大きく、芒が長く、葯が白いことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.354, 平 2 p.42.

トキワススキ *Miscanthus floridulus* (Labill.) Warb. ex K.Schum. et Lauterb.

【概要】

暖地の草地に生育する大形の多年生草本。初夏に大形で縦に長い穂を出す。イネ科植物は一般に識別が難しいものが多いが、本種はよく目立ち、しかも識別が容易である。県内での分布はほぼ平野部に限られており、詳細な分布域を把握しておきたい植物である。

【形態】

多年生草本。根茎は短くはい、大きな株をつくる。稈は束生して直立し、高さ 1.5~3m、茎葉の葉身は線形、長さ 40~80cm、幅 1.5~3cm、縁はざらつき、葉舌は短い。花期は 6 月下旬~7 月、花序は楕円形で長さ 40~50cm、多数の枝をつける。小穂は柄の長いものと短いものが対になって枝に多数つき、長さ 3~3.5mm、基部に白色で長さ 4~6mm の毛を束生し、1 本の長い芒がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 千両町 (小林 38301)、15 石巻萩平町 (芹沢 66812)、16 杉山町 (芹沢 59136)、17 芦ヶ池付近 (瀧崎 9445)、18 高木 (芹沢 59203)。西：27 黒笹 (芹沢 62213)、31 深溝 (金子律子 920)、32a 中手町 (中村裕治 768)、33 赤松町 (堀田喜久 1764)、34a 春日町 (芹沢 69957)、36 幡豆町東幡豆 (壁谷重美子 635)。尾：38b 野方 (村瀬美智子 183)、40a 大東町 (中村裕治 773)、40b 緒川 (芹沢 69941)、41a 加木屋町 (加藤雅憲 416)、42a 矢高 (渡邊麻子 554)、42b 亀崎新田町 (岡本久美子 489)、43 坂井 (梅田零奈 524)、44b 山海 (大西博 706)、50 守山区上志段味 (鳥居ちる子 2144)、名東区新西香流川 (鳥居 1084)、西区庄内川 (鈴木秀樹 4113)、51 天白区野並 (中島ひろみ 786)、緑区大高緑地 (渡辺幸子 5414)、52 中川区伏屋 (高木順夫 228)。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、東南アジア、太平洋諸島。

【生育地の環境／現在の生育状況】

愛知県では河川の堤防、川岸の土手などに生育していることが多く、大形の株は遠くからでもよく目立つ。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

大形の植物で標本を作りにくい、見てもついついそのまま通り過ぎてしまうことが多い。意識して情報の蓄積に努める必要がある。

【似た種類】

ススキ *M. sinensis* Anderss. は、稀に夏に穂を出すこともあるが通常は秋に咲き、花序の軸は本種のように長く伸びず、花序はやや束状に出て、枝の数も少ない。

【関連文献】

保草Ⅲp.378, 平 2 p.89.

ヌマガヤ *Moliniopsis japonica* (Hack.) Hayata

【概要】

大形の多年生草本。本来は温帯性の植物であるが、愛知県の湧水湿地周辺には広く生育している。良好な湧水湿地ならたいていの場所に生育しており、その一方で他の環境にはほとんど出現しないから、湧水湿地の指標種としてミカヅキグサと共に最も重要である。

【形態】

稈は束生し、高さ 85～180cm になる。葉は稈の下部に集まってつき、葉身は長さ 25～80cm、幅 5～12mm、裏面は白色を帯びる。花・果期は 9～10 月、花序は長さ 17～50cm、幅 8～22cm、枝は通常まばらについて、斜上、時に開出する。小穂は 5～25mm の柄の先につき、長さ 7～12mm、淡緑色～紫褐色で、3～6 小花からなる。花序の枝や小穂の柄は斜開するものが多いが、開花期、果期を通してほとんど開出せず、そのため枝に小枝がなく、小穂も無柄のように見えるものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 川向（芹沢 56843）、7 田口（小林 66928）、11 岩波（芹沢 57416）、13 一宮町上長山（芹沢 60561）、御津町東金野（小林 39884）、15 岩崎町（芹沢 57629）、16 野依町（芹沢 57634）、17 田原町田原（芹沢 57647, 57648*）、赤羽根町若見（芹沢 56687）、18 高木（芹沢 56722, 57931*）。西：20 大河原（塚本威彦 2172）、21 花沢（芹沢 63693）、22 北篠平（芹沢 57548）、23 三箇（日比野修 830）、24 上高町（芹沢 60539, 60540*）、25 大池町（芹沢 53796, 畑佐 844*）、27 黒笹（芹沢 63890, 63891*）、28 檜山（福岡義洋 2066）、30 竜泉寺町（芹沢 60836, 60837*）、31 須美（芹沢 60771, 60772*）、32a 井ヶ谷町（芹沢 56916）、35 平原町（芹沢 53254）、36 吉良町茶白山（芹沢 60793）。尾：37a 吉野町（芹沢 75128, 75129*）、37b 新居（芹沢 53821）、38a 前熊（半田多美子 451）、38b 岩崎（半田 850）、39a 諸輪（芹沢 53073）、39b 杓掛町（芹沢 57197）、41a 加木屋町（芹沢 74331）、42a 板山（渡邊麻子 1044）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 53675）、43 久米（芹沢 60687, 60688*）、44a 布土（芹沢 56658）、44b 大井（芹沢 63634）、45 善師野（芹沢 60743, 60744*）、47 大草（芹沢 57804）、48 廻間町（太田さち子 1165）、50 守山区上志段味（芹沢 53847）、千種区東山（芹沢 56196）、51 天白区天白町八事裏山（芹沢 85242）、緑区鳴海町水広下（芹沢 57212）。*は花序の枝が開出しない型である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布するが、寒冷地に多い。

【世界の分布】

南千島～中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。多少は被陰された場所にも生育しており、現在のところはあまり減少していない。しかし、「本種が消えたら湧水湿地の植物は全滅」という意味で、注目してよい植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【似た種類】

イネ科なので一見似た植物は多いが、日本では同属の他種はなく、よく見れば識別に迷うことはない。

【特記事項】

愛知県では本来貴重な温帯性植物であるが、湧水湿地では多少遷移が進んだ場所に出現し、大形で他の植物を被覆してしまうので、嫌われることがある。

【関連文献】

保草Ⅲp.340, 平 2 p.74.

マコモ *Zizania latifolia* (Griseb.) Turcz. ex Stapf

【概要】

低地の水辺に生育する大形の多年生草本。株の基部は水中にあることが多い。どこにでもあるというわけではないが、生育している場所では通常群生している。本種もイネ科植物の中ではよく目立つ種類で、良好な低湿地環境の指標となる。

【形態】

稈は束生し、高さ 1.5～2.5m になる。茎葉の葉身は長さ 50～100cm、幅 2～3cm、基部は狭くなって葉鞘に続き、葉舌は白色で長さ 7～15mm である。花期は 7～9 月、花序は長さ 40～60cm、各節から 2～5 本の枝を出し、枝の下部に雄性、上部に雌性の小穂をつける。雄性小穂は密について線状楕円形、長さ 8～12mm で赤紫色、雌性小穂はややまばらについて線形、長さ 18～25mm で淡緑色、長い芒がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 野田（芹沢 66969）、13 行明町豊川放水路（小林 47255）、15 下地町豊川（小林 47237）、17 赤羽根町高松（小林 47119）。西：26 今町（落合鈴枝 947）、27 福田境川（臼井里華 701）、28 牧平（芹沢 57128）、32a 小堤西池（芹沢 41752）、33 東端町（堀田喜久 958）、35 米津町（芹沢 66776）。尾：37a 曾野町（日比野修 808）、38a 岩作（半田多美子 1677）、39b 沓掛町（浅野守彦 530）、40a 北崎町境川（芹沢 70293）、49c 西春町九之坪（鈴木幸子 578）、49d 新川町新川（芹沢 78691）、50 守山区中志段味（村松 26203）、中区名古屋城（芹沢 78100）、51 天白区天白川（渡辺幸子 957）、52 中川区吉津（芹沢 78132）、54 尾西市明地（渡辺幸子 1223）、55 稲沢市西町（家田晴俊 267）、56b 浦畑（芹沢 87351）、57b 佐屋町東条（山田茂貴 719）、立田村木曾長良背割堤（西尾芳徳 533）、58b 小島新田（芹沢 63433）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

シベリア東部から東南アジアまで、広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

大形の植物であるが、開発圧力の高い平野部の水辺に生育しているため、改修工事などにより消滅してしまうことも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【観察上の留意点】

小穂は脱落しやすく、不注意に扱うと軸だけになってしまう。自然状態でも少し時期が遅くなると、軸だけのものが多くなる。

【似た種類】

イネ科植物の中では極めて特徴的な種類で、識別に迷うようなものはない。

【関連文献】

保草Ⅲp.343, 平 2 p.39.

キケマン *Corydalis heterocarpa* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Franch. et Sav.) Ohwi

【選定理由】

海岸近くの路傍、林縁などに生育する大形の越年生草本。沿海地のやや攪乱された草地を指標する植物である。平野部に点在するため標本資料の蓄積がやや不十分で、今後詳細な分布を把握しておきたい植物である。

【形態】

越年生草本。茎は太く、中空で赤味を帯び、基部からよく分枝し、高さ 40~60cm になる。葉は互生し、2~3 回 3 出複葉、長さ、幅とも 10~25cm、小葉は深裂し、滅塩に欠刻がある。花期は 4~5 月、枝の先に総状花序を出し、多数の黄色の花をつける。花は長さ 15~20mm、距は短い。果実は線状披針形でくびれがなく、種子は 2 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 一宮町金沢（小林 65932）、14 大塚町（芹沢 79054）、16 伊古部町（小林 40844）、18 土田海岸（小林 40825）。西：26 豊栄町（石川敏 188）、27 打越（芹沢 75313）、30 舞木町（小林 47299）、31 深溝（金子律子 523）、33 和泉町（芹沢 48282）、36 幡豆町寺部（芹沢 81182）。尾：37a 品野町（日比野修 2741）、37b 西の野町（村松 21214）、38b 三本木町（半田多美子 2738）、40b 藤江（中村裕治 284）、41b 日長（加藤雅憲 1125）、42b 亀崎町（岡本久美子 74）、43 久米（梅田零奈 443）、44b 西村（畑佐 1139）、49c 西春町法成寺（鈴木幸子 427）、51 天白区野並（中島ひろみ 607）、緑区大高町常世島（芹沢 77173）、53 妙興寺（粟田郁男 219）、55 法花寺町（水野峰子 408）。

【国内の分布】

本州（宮城県以西）、四国、九州、琉球。基準変種のツクシキケマンは本州（中国地方）、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本のほか朝鮮半島南部にも分布している。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。稀少というほどではないが、どこにでもあるというわけでもない。藪の縁のような場所にも生育しているので、工事等により消失してしまうことも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

やや攪乱された場所に生育する大形の草本なので、観察の際も比較的気を遣わなくてよい植物である。細かく別れた葉が絡みやすいので、標本を作成するときは現地で新聞紙に挟むとよい。注意して観察すれば、まだ標本がないいくつかの区画でも確認されると思われる。

【似た種類】

フウロケマン *C. pallida* (Thunb.) Pers. とその変種ミヤマキケマン var. *tenuis* Yatabe は本種に比べずっと小型で、山地の沢沿いに生育している。

【関連文献】

保草Ⅱp.192-193, 平 2 p.106-107.

ニリンソウ *Anemone flaccida* Fr.Schm.

【概要】

沢沿いの林内や林縁に生育する多年生草本。上層木が葉を展開する前の光を利用する早春植物で、葉は春早く展開し、初夏には枯れてしまう。早春植物が生活できるような沢沿いの明るい林の指標となる。

【形態】

多年生草本。根茎は長さ 5cm 程度で、先端から数枚の根出葉と 1-3 本の花茎を出す。根出葉は長い柄があり、葉身は 3 全裂、側裂片はさらに 2 裂して全体で 5 裂するように見え、幅 5~8cm、各裂片の辺縁には深い欠刻がある。花期は 4-5 月、茎葉は 3 枚が輪生し、無柄、その中央に 1~4 個の花をつける。花は直径 2cm 程度、がく片は 5~7 枚で楕円形、白色、外側はしばしば紅色を帯びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 茶臼山（加藤等次 2986）、3 下栗代（榑原利修 446）、4 白鳥山（石田雄吉 110）、8 棚山山麓（瀧崎 4012, T）、11 保永（芹沢 64774）、12 一鍬田（加藤等次 1157）、13 江島町（瀧崎 25138, T）、15 下条西町豊川（中西普佐子 3516）。西：19 一色（塚本威彦 903）、20 御蔵（塚本 1848）、21 平瀬（長谷川朋美 180）、22 北大野（塚本威彦 894）、23 御作（日比野修 2789）、24 国附町（芹沢 64624）、25 越戸町（畑佐 1650）、28 宮崎（原田勉 236）。尾：37a 定光寺町（塚本威彦 75）、45 八曾（芹沢 51247）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズリー。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

愛知県の早春植物の中では最も普通に見られるものの一つだが、標本の蓄積は不十分である。東三河では他にもかなりの区画に生育している。本種が生育している場所には通常他の植物も多く生育しているから、林床を踏み荒らさないよう注意が必要である。

【特記事項】

花茎に花を 2 個つけることが多いので、ニリンソウと呼ばれる。

【関連文献】

保草 II p.232, 平 2 p.136-137.

ウマノアシガタ *Ranunculus japonicus* Thunb.

【概要】

日当たりのよい草地に生育する多年生草本。春に黄色の花を咲かせる。谷戸田周辺の草地にも生育するが、路傍の土手や果樹園の下などにも生える。ワレモコウやオミナエシに比べて、やや攪乱の多い草地の指標となる。名古屋市 VU。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40-70cm、上部でよく分枝し、中部から下部に開出する長毛を密生する。根出葉は数個あり、長い柄があり、葉身は腎円形、幅 3-7cm、3-5 裂し、各裂片はさらに 2~3 裂する。花期は 4~5 月、花は直径約 2cm、花弁は広倒卵形、長さ 10-12mm、黄色で光沢がある。集合果は球形、そう果は倒卵形、長さ約 2.5mm、残存花柱はごく短い。花が白いものをシロウマノアシガタ form. *coloratus* Tamura という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 2 大入溪谷 (加藤等次 2873)、3 明神山東麓 (瀧崎 6074, T)、4 面ノ木峠天狗棚 (鈴木学 1007)、7 神田下貝津 (榎原利修 190)、8 鳳来寺山 (加藤等次 1225)、9 黄柳野 (芹沢 54979)、10 布里西向 (加藤等次 1268)、12 豊栄 (中西普佐子 380)、13 御油 (瀧崎 13101)、14 神ノ郷町 (鈴木美恵子 15)、15 雲谷町 (名倉智道 42)、17 神戸 (小南藤枝 4)、18 堀切町 (芹沢 88256)。西: 19 八幡 (芹沢 64984)、20 大城 (塚本威彦 1884)、追分 (新井文子 526*)、21 東大沼 (長谷川朋美 151)、22 川下 (塚本威彦 881)、23 御作 (塚本 485)、24 石野町 (佐藤久美子 301)、28 鹿勝川 (福岡義洋 269)、29 秦梨町 (杉田一記 77)、31 深溝一ノ瀬 (金子律子 78)、36 西幡豆小野ヶ谷 (壁谷重美子 282)。尾: 37a 上品野町 (日比野修 244)、38b 梅森 (伊藤恭子 196)、41b 金沢 (加藤雅憲 166)、44a 豊丘 (大西博 228)、44b 山海 (瀧崎 30169, T)、45 栗栖 (佐分康之 387)、48 細野町 (竹原芳子 15)、51 南区大江川緑地 (伊藤泰輔 17)。このほか名古屋市内では、50 守山区志段味で撮影されたという写真が、安原 (1990) に掲載されている。名古屋市南区のものは、移入の可能性が高い。*はシロウマノアシガタである。

【国内の分布】

北海道 (南西部)、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ロシア極東部。

【生育地の環境／現在の生育状況】

やや山よりの場所では普通に見られ、山里の春を飾る代表的な花の一つになっているが、台地や平野部ではほとんど生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

山地では普通なだけに、山麓部でも見過ごしてしまうことが多い。周辺部の分布に関して、特に情報蓄積が必要である。

【特記事項】

科名になっているキンポウゲは本種の八重咲き品であるが、極めて稀で、愛知県ではまだ記録されていない。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.26. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草 II p.244-245, 平 2 p.159, RDB なごや 2015 p.243.

ヤマグルマ *Trochodendron aralioides* Sieb. et Zucc.

【概要】

山地の沢沿いに生育する常緑樹。東アジア特産の1属1種の樹木で、材に導管がなく、その点で裸子植物的な特徴を持つ原始的被子植物の一つである。急崖地を好み、岩壁に生ずることもある。自然度の高い渓谷林の指標となる。

【形態】

常緑性の高木。高さ20mに達する。枝は緑色で直径3-5mmである。葉は枝先に密集して輪生状につき、長さ3-8cmの柄があり、葉身は倒卵形～楕円形、時に細長い楕円形、長さ5-14cm、幅2-8cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、中上部の葉縁に低い鋸歯がある。葉の表面は深緑色で光沢がある。花期は5～6月、花序は枝端につき、長さ6-12cmで、10-20個の花をつける。花は黄緑色で花被片はなく、多くの雄ずいをつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 漆島(小林 45515)、3 明神山(芹沢 69647)、4 水梨川(瀧崎 23598, T)、8 槇原(芹沢 83999)、11 本宮山(小林 51921)、13 本宮山(小林 39588)。西：28 闇荊溪谷(芹沢 75518)。尾：45 栗栖(小林 50365)。6 段戸山で1945年に採集された標本もある。落葉樹林中に生育する常緑樹なので特に冬にはよく目立つが、花や果実のついたものを得にくく、標本の集積はやや不十分である。

【国内の分布】

本州(山形県南部以南)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。岩場にも生育するが基本的に渓谷林の植物なので、マークは山地森林につけてある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が1株しかない場合は、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。新しい自生地等を発見した場合は、可能な限り標本作成に努めるべきである。

【特記事項】

屋久島などでは他樹木に着生し、生長して基物となった木を絞め殺すことがある。フサザクラ *Euptelea polyandra* Sieb. et Zucc. とカツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. ex Hoffm. et Schult. も本種に比較的近縁な樹木で、それぞれフサザクラ科とカツラ科に分類されるが、科の中に1属しかない。本種と合わせて観察するとよい。

【関連文献】

保木 II p.180, 平 2 p.178.

コウヤミズキ *Corylopsis gotoana* Makino

【選定理由】

山地の沢沿いに生育する落葉低木。早春によく目立つ黄色の花をつける。生育している場所は自然林とは限らないが、それでも本種が生育しているような場所には、良好な自然環境が残されていると思われる。

【形態】

落葉性の低木。よく枝分かかれし、高さ2~3mになる。葉は互生し、長さ1~2cmの柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ6~12cm、幅4~8cm、先端は短くとがり、基部は心形、裏面は帯白色、側脈は7~10対で、辺縁には芒状の鋸歯がある。葉の下部はやや左右不対称になる。花期は葉が展開する前の3月下旬~4月、花序は長さ1~3cmの柄があり、花序軸は長さ1.5~3cmで、4~10個の黄色の花を穂状につける。花弁は5枚、狭倒卵形で下部は柄状になり、長さ8~10mm、雄ずいは長さ7~10mmで花弁と同長またはそれより長く、葯は暗赤色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 段戸山（芹沢 83186）、8 川合鳳来寺湖（小林 41103）、9 黄柳野（芹沢 54983）、12 中宇利（瀧崎 22744, T）。西：5 大野瀬町（芹沢 82581）、19 矢作第一ダム（小林 36258）、20 下国谷（鈴木万里重 127）、21 梨野（小林 36233）、22 大ヶ蔵連（小林 36260）、23 木瀬（芹沢 48102）、24 西広瀬町（山崎玲子 997）。尾：37a 定光寺町（芹沢 86776）。

【国内の分布】

本州（中部以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。変種のコウヤミズキ var. *pubescens* (Nakai) Yamaz.は九州、ショウコウミズキ var. *coreana* (Nakai) Yamaz.は朝鮮半島に生育している。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。点々と生育しているが、それほど多いものではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ダンドミズキ（仮称、県 VU）は同じような環境の場所に生えるが、雄ずいが花弁より短く、葯が暗黄色である。設楽西部、豊田市稲武地区、豊田市足助地区などに生育しているが、花がない時期にはコウヤミズキから区別できない。そのため必要な場合には、花時に再訪して雄ずいの特徴を確認する必要がある。

【特記事項】

ミヤマトサミズキとも呼ばれる。

【関連文献】

保木 II p.132, 平 2 p.184.

マルバノキ *Disanthus cercidifolius* Maxim.

【選定理由】

沢沿いの林内に生育する低木。西日本系の樹木で、岐阜県ではあちこちに見られるが、愛知県では生育地が限られている。しかし、ある場所では群生していることが多い。分布に特色があるので、県内の自生地を詳細に確認しておきたい植物である。

【形態】

落葉性の低木。よく枝分かれし、高さ2~3mになる。葉は互生し、長さ3~6cmの柄があり、葉身は円心形、長さ6~10cm、幅7~11cm、先端は短くとがり、基部は心形、全縁、ほとんど無毛、秋に美しく紅葉する。花期は葉が落葉する直前の10~11月、前年の葉腋から出る長さ3~4mmの柄の先に2個の星形の花をつける。花弁は暗赤色で、長さ約6mmである。果実は倒円心形、幅13~15mm、翌年の秋に熟し、種子は数個あって黒色で光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 宇連（小林 40054）、7 清崎（小林 52590）、9 黄柳野（芹沢 54061）。西：20 井ノ口町（芹沢 92804）、22 大ヶ蔵連（芹沢 66118）、23 木瀬（塚本威彦 464）。尾：37a 上半田川町（芹沢 51124）、上品野町（塚本 2）、西山路町（芹沢 73761）。

【国内の分布】

本州(中部地方以西)、四国。

【世界の分布】

基準変種は日本固有。中国大陸中部に別変種がある。

【生育地の環境／現在の生育状況】

東三河では生育地が限られており、稀少な植物である。西三河と尾張では、北部の旧小原村から瀬戸市にかけては点在しており、場所によってはかなり大きい群落となっているが、それ以外の場所では発見されていない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が1株しかない場合は、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。新しい自生地等を発見した場合には可能な限り標本作成に努めるべきである。

【特記事項】

花は晩秋に咲くので、花と前年の果実、それに紅葉を同時に観察できる。

【関連文献】

保木Ⅱp.135-136, 平2 p.185.

ミカワチャルメルソウ *Mitella furusei* Ohwi

【概要】

沢沿いの林内に生育する多年生草本。愛知県と岐阜県南部、長野県西部に固有で、この地域を特徴付ける植物の一つである。生育地は安定した林内に限られていて、良好な沢沿い環境の指標になる。

【形態】

根茎は斜上または短く横にはい、先端に葉を束生する。葉は 5~12cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 2~7cm、幅 1.8~6cm、先端は鋭頭~鈍頭、辺縁にあらゐり重鋸歯があり、両面に毛がある。花期は 4 月~5 月中旬、花茎は高さ 25~40cm になり、上半部に 7~22 個の花をややまばらにつける。花柄は花時に長さ 2~4mm、がく裂片は三角形~卵形、花卉は長さ 2~3mm で、7~11 裂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 瀬戸（芹沢 51333）、2 分地（内藤敬江, 1995 年）、3 大入溪谷（小林 65785）、6 駒ヶ原（瀧崎 21229, T）、8 川合~大島（小林 36366）、9 乗本宇連川（小林 50116）、10 塩瀬（小林 50898）、11 岩波（芹沢 71459）、12 日吉（芹沢 58121）。西：5 押山町（芹沢 82847）、19 八幡（芹沢 64997）、20 上切（日比野修 3335*）、大河原（芹沢 69062）、21 平瀬（芹沢 71464）、22 北大野（塚本威彦 893）、23 三国山（日比野修 130）、24 国附町（芹沢 64627）、25 猿投山（芹沢 71471, 71472*）、28 鳥川（福岡義洋 378）、29 蓬生町（芹沢 64580）、30 生平町（小林 56078）。尾：37a 下半田川町（芹沢 86771）、北白坂町（日比野修 5339*）、45 栗栖（内藤敬江, 1995 年）、47 大山（村瀬正成 10113）、48 外之原町（芹沢 86972）。*は花が緑色のものである。

【国内の分布】

静岡県西部、長野県西部、岐阜県南部、愛知県。変種のチャルメルソウ var. *subramosa* Wakab. は本州西部（福井県、三重県以西）と九州北部に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。ところどころで見かけるが、それほど多いものではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【似た種類】

コチャルメルソウ *M. pauciflora* Rosend. は根茎が長く横にはい、花茎は高さ 10~20cm、1 本の花茎に着く花は 3~10 個である。愛知県では東：2 茶白山（加藤等次 2999）、6 西納庫（塚本威彦 2603）、西：5 面ノ木峠（芹沢 36597）、19 八幡（芹沢 72757）、20 大多賀（塚本威彦 1841）、尾：45 栗栖（小林 50354）などで確認されており、自生地は本種より少ないが、ある場所では群生していることが多い。

【特記事項】

がく片の形状には変異があり、犬山市や春日井市のものは三角形で先が尖るが、庄内川対岸の瀬戸市のものは卵形で先が丸く、地理的な距離は僅かなのに明瞭なギャップが認められる。しかし岐阜県南東部や三河山地で観察すると、がく片の形状は連続してしまう（芹沢ほか 2011）。

【引用文献】

芹沢俊介・渡邊幹男・加藤淳太郎・長谷部光泰. 2011. 見てわかる生物多様性① 植物の多様性を調べる. 24 頁. 愛知教育大学自然科学系生物領域, 刈谷.

【関連文献】

平 2 p.209.

クサボケ *Chaenomeles japonica* (Thunb.) Lindl. ex Spach

【選定理由】

人里近くの土手などに生育する小型の低木。春に朱色の花をつける。火入れに強く、野焼きが広く行われていた時代には各地の土手などに普通に見られたが、大形草本の繁茂によって少なくなっている。かつて普通に見られた植物で、しかも刺のある低木で標本を作りにくいいため、県内の分布は十分把握されていない。多くの人の目で調査し、詳細な分布を確認しておきたい植物の一つである。

【形態】

落葉性の小低木。茎は斜上して分枝し、刺があり、高さ 20~50cm になる。葉は互生し、長さ 5~13mm の柄があり、葉身は倒卵形~倒広卵形、先端は円頭~鈍頭、長さ 2~5cm、幅 1~3.5cm、無毛で辺縁にややまばらな鋸歯がある。花期は 4~5 月、花は葉腋に 3~5 個つき、朱色で直径 2.5~3cm、花弁は 5 枚で円形または広倒卵形、基部は柄状になる。果実はゆがんだ球形で直径 3~4cm、黄緑色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 石巻本町（瀧崎 16314）。西：25 花本町（山崎玲子 738）、27 福谷（白井里華 133）、30 渡町矢作川（芹沢 66293）、中之郷町（中村さとこ 65）、32 野田町（白井直子 173）、33 小川町矢作川（堀田喜久 880）、34b 三角町矢作川（芹沢 64840）、35 田貫町矢作川（芹沢 64896）。尾：37b 上の山町（村松 20440）、38a 熊張（半田多美子 1461）、41b 佐布里（加藤雅憲 1438）、42a 草木（渡邊麻子 1010）、43 矢田（梅田零奈 109）、同坂井（鳥居ちゆ子 1566）、44a 奥田（岡本沙矢香 44）、45 善師野（芹沢 51145）、46a 山那木曾川（上山秀郎 163）、48 岩成台（山田果与乃 294）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 424）、50 守山区上志段味（鳥居 571）、52 中村区日比津町（高木順夫 8929）、中川区富田町供米田（高木 21459）。

【国内の分布】

本州、九州。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。衰退していることは確かだが、その状況は十分モニタリングされていない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

東三河の標本は極めて少ない。東三河で本種を見かけたら、是非とも標本を作成しておいてほしい。

【特記事項】

鮮やかな朱色の花をつけるが、「火事になる」と言われ、一般に栽培はされない。

【関連文献】

保木 II p.29-30, 平 3 p.68.

ミツバツチグリ *Potentilla freyniana* Bornm.

【概要】

春早く黄色の花を咲かせる植物。同じ仲間の植物がいくつかあるが、本種は其中最も普通に見られるものである。それぞれ形態的に特徴があり、生育環境も異なるから、比較しながら観察するとよい。

【形態】

多年生草本。根茎は短くて斜上し、やや肥厚し、先端に根出葉、花茎、走出枝を束生する。花時の葉は大きいもので長さ4~15cmの柄があり、葉身は3小葉に分かれ、頂小葉は無柄または短い柄があり、楕円形~広楕円形、長さ1.5~5cm、幅1~3cm、先端は円頭、辺縁には7~12個の鋸歯がある。小葉の裏面は紫色を帯びることが多い。花期は3月下旬から5月中旬、花茎は長さ10~20cmで途中に2個の葉があり、先端に5~10個の花を二出集散状につける。花は黄色で直径10~15mm、花弁は倒広卵形で先端がへこみ、がく片は卵状披針形~長楕円形、長さ3~4mm、副がく片はそれより小さい。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 茶臼山（加藤等次 3001）、4 面ノ木峠天狗棚（鈴木学 796）、6 駒ヶ原（瀧崎 21200, T）、7 和市（芹沢 61090）、8 鳳来寺山（加藤等次 1226）、12 吉祥山（加藤 2658）、13 音羽町長沢（瀧崎 18459, T）、15 石巻萩平町（芹沢 64710）、16 細谷町（芹沢 54411）、17 衣笠山（芹沢 51270）。西：19 池嶋町（芹沢 81259）、20 月原町（芹沢 81224）、21 東大沼（長谷川朋美 145）、22 北（伊藤泰輔 171）、23 御作（日比野修 1048）、24 東広瀬町（佐藤久美子 155）、25 猿投山（磯谷彰宏 1039）、27 福谷（臼井里華 235）、28 鹿勝川（福岡義洋 158）、29 小丸町（中西普佐子 258）、30 藤川町（本多さおり 117）、31 野場（金子律子 122）、32a 小堤西池（芹沢 41453）。尾：37a 上半田川町（塚本威彦 2934）、38a 熊張（村瀬美智子 933）、39b 栄町（浅野守彦 1224）、42a 草木（渡邊麻子 177）、42b 深谷町（岡本久美子 178）、43 坂井（梅田零奈 168）、44a 奥田（岡本沙也香 38）、45 栗栖（平嶋敏 282）、48 細野町（竹原芳子 20）、49c 師勝町六ツ師（鈴木幸子 421）、50 名東区猪高緑地（鳥居ちる子 853）、51 天白区天白町植田（渡辺幸子 877）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本からアムール、ウスリー、中国大陸北部にかけて分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

日当たりのよい草地や林縁に生育する。山地や丘陵地には多いが、平野部ではほとんど見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【似た種類】

キジムシロ *P. fragarioides* L. var. *major* Maxim. は山地の林縁や明るい林内に生育し、小葉は5~7個が羽状につく。全国的に見れば普通種だが、愛知県ではあまり多くない。オヘビイチゴ *P. anemonifolia* Lehm. は平野部のやや湿った場所に多く、小葉は5個が掌状につく。愛知県ではこの他にも山地の岩場に生育するイワキンバイ（県 VU）、山地の林内に生育するツルキンバイ、川岸の岩場に生育するエチゴツルキジムシロ（県 EN）やテリハキンバイ（県 VU）、河川敷の礫地に生育するカワラサイコ（県 VU）、帰化植物のオキジムシロなどが見られるが、それぞれ形態的に特徴があるから、識別はそれほど難しくない。

【特記事項】

ツチグリ *P. discolor* Bunge は、小葉は5~7個が羽状につき、裏面は白色、匍匐枝を出さない。池田（2016）は「本州（愛知県以西）……に分布」と述べているが、愛知県では確実な記録はない。

【引用文献】

池田博. 2016. キジムシロ属. 改訂新版日本の野生植物 3:33-40. 平凡社, 東京.

【関連文献】

保草II p.135, 平3 p.39.

ヤマザクラ *Prunus jamasakura* Sieb. ex Koidz.

【選定理由】

日本を代表する花木。4月はじめに、新葉と同時に淡紅色の花を開く。日本の春の象徴として、まずは観察しておきたい樹木である。その一方でサクラの仲間は雑種が多く、よく観察するとなかなか奥が深い。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ25m、直径1mに達する。樹皮は紫褐色で横に長い皮目がある。若枝は紫褐色で無毛である。葉は互生し、長さ2~2.5cmの柄があり、葉身は長楕円形~倒卵形、長さ8~12cm、幅3~4.5cm、先端は尾状に伸びた鋭尖頭、基部は円形または広くさび形、辺縁に細かい鋸歯があり、両面無毛、裏面は白色を帯びる。蜜腺は葉柄の上部につく。花期は4月上旬、花は葉と同時に開き、1~3個が散房状につき、直径3~4cm、がく筒は長い鐘形で花柄とともに無毛、花弁は5枚で淡紅色、先端はへこむ。果実は球形で直径9~10mm、黒色に熟し、苦味がある。葉や花柄は通常無毛であるが、時に多少毛があるものがあり、ウスゲヤマザクラ form. *pubescens* (Makino) Ohwi と呼ばれる。二重咲きのもの、八重咲きのものも稀に自生している。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 明神山（芹沢 83965）、門谷県民の森（小林 20537****）、12 吉祥山（加藤等次 2694）、13 一宮町金沢（小林 36557*）、赤坂（瀧崎 19426, T）、14 相楽町（芹沢 79057, 79058**）、15 岩崎町（芹沢 54412）、17 長興寺（瀧崎 33122, T）、18 堀切町（瀧崎 28191, T）。西：5 野入川（芹沢 43672）、20 野林（芹沢 71488）、21 田代（長谷川朋美 127*）、23 三国山（日比野修 2751）、24 西広瀬町（芹沢 64602*）、矢並町（芹沢 58025）、26 豊栄町（石川敏 193）、28 鹿勝川（福岡義洋 87）、29 八ツ木町（芹沢 83857）、30 桑谷町（本多さおり 72）、31 荻（金子律子 19*, 190）、33 西別所町（堀田喜久 3392）、35 西浅井町（芹沢 65514）、36 東幡豆鹿川（芹沢 69228）。尾：37a 広久手町（芹沢 75299）、37b 旭ヶ丘町（芹沢 81238）、38a 岩作（芹沢 77182*）、熊張（芹沢 77801）、39a 春木（芹沢 79173）、39b 香掛町（芹沢 65975）、40a 長根町（竹田弘光 174）、40b 緒川（渡邊麻子 99）、41a 荒尾町（加藤雅憲 81）、42a 板山（渡邊麻子 126）、44a 野間（芹沢 39610）、45 官林（塚本威彦 3033）、尾張富士（松田ちか子 134*）、47 石金（日比野修 4704）、48 大泉寺町（小林彌壽昭 2）、50 守山区上志段味（鳥居ちよ子 1044***）、同中志段味（鳥居 1046*）、小幡緑地（芹沢 88392）、51 天白区天白町平針（渡辺幸子 1988*）、同御幸山（渡辺 4）、緑区鳴海町神ノ倉（渡辺 1996**）、同水広下（芹沢 58286）。*はウスゲヤマザクラ、**は二重咲き、***は八重咲き、****はマルバヤマザクラ（特記事項参照）である。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

サクラの中ではやや暖地性の種で、三河山地の標高が高い場所には生育していない。西三河、東三河南部ではカスミザクラがほとんど分布しておらず、山中に自生するサクラはまず本種である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

花の時期には葉が十分展開しておらず、葉の特徴はよく観察できない。花を観察した個体の位置を記録しておき、後で確実に同じ個体について葉を観察するとよい。名古屋近郊の自生状のサクラは雑種性と思われるものが多く、正確な同定はなかなか難しい。

【似た種類】

カスミザクラとの区別についてはその項参照。

【特記事項】

マルバヤマザクラ var. *dilatata* Nakai は葉先が尾状に伸びないもので、新城市（旧鳳来町）に1株だけ生育している。変わった形状をしているが、もちろん変種の階級で区別できるものではない。

【関連文献】

保木 II p.13-14, 平 3 p.67.

カスミザクラ *Prunus leveilleana* Koehne

【概要】

通常は山地に生育する落葉高木。ヤマザクラより10日ほど遅れて咲き、花も葉も紅色味が少なく、全体にはっきりしない印象を受けることが多い。ヤマザクラと比較しながら観察するとよい。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ20m、直径70cmに達する。樹皮は紫褐色で横に長い皮目がある。若枝は黄褐色である。葉は互生し、長さ1.5~2cmの柄があり、葉身は倒卵形~倒卵状楕円形、長さ7~12cm、幅3~4.5cm、先端は尾状に伸びて鋭尖頭、基部は円形、辺縁に鋸歯があり、両面に毛が散生し、裏面は淡緑色で光沢がある。蜜腺は葉柄の上部につく。花期は4月上~中旬、花は葉と同時に開き、1~3個が散房状につき、直径2.5~3.5cm、がく筒は長い鐘形、花柄には開出毛がある。花弁は5枚でほとんど白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 茶臼山（加藤等次 3006）、3 下田（瀧崎 27425, T）、4 水梨川（芹沢 92701）、6 駒ヶ原（瀧崎 22355, T）、8 亀淵林道（瀧崎 22820, T）、12 市川（芹沢 58151）、15 嵩山町（芹沢 44012）。西：5 黒田町（芹沢 87639）、19 駒山（日比野修 1090）、20 野林（鈴木万里亜 452）、22 荷掛（塚本威彦 931）、23 西市野々（日比野修 1063）、24 西広瀬町（芹沢 64610）、25 猿投山（磯貝彰宏 913）、27 黒笹（芹沢 69835）、28 鳥川（福岡義洋 314）、29 村積山（芹沢 85430）。尾：37a 定光寺町（芹沢 86777）、37b 新居（芹沢 81237）、38b 岩崎（伊藤恭子 162）、39b 沓掛町（浅野守彦 1221）、41a 加木屋町（芹沢 72890）、45 栗栖（芹沢 83881）、47 大山（村瀬正成 10115）、48 外之原町（山田果与乃 125）、50 守山区東谷山（鳥居ちゆ子 1041）。ヤマザクラより標高の高い場所に多いが、尾張では丘陵地にも生育している。東三河の山地には広く生育しているが、開花期に行かなかったり、行っても高くて採集できなかったりして、標本の蓄積は著しく不十分である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本~中国大陸中部。

【生育地の環境/現在の生育状況】

三河山地には広く分布し、個体数も多い。尾張北部の丘陵地にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

サクラ類は雑種を作りやすく、しかもその雑種が稔性を持つので、識別が困難になることが多い。特に知多半島と名古屋近郊にはわけがわからない集団がある。まずは典型的と思われる個体を選んで観察することが重要で、雑種の理解はその次の話である。

【似た種類】

ヤマザクラからは開花期が遅く、葉や花柄に毛が多く、成葉の裏面は緑色で光沢があり、白色を帯びないことで区別できる。

【特記事項】

本種に近縁とされるオオシマザクラは、伊豆半島や伊豆諸島に分布する種で愛知県には自生していないが、薪炭材として植栽されたものが人里近くの林の中に見自生状に生育していることがある。

【関連文献】

保木II 14-15, 平 3 p.67.

エドヒガン *Prunus spachiana* (Leval. ex H.Otto) Kitam. form. *ascendens* (Makino) Kitam.

【概要】

山地の川沿いなどに点在する落葉高木。ヤマザクラよりやや早く、葉が展開する前に、微紅色～淡紅色でやや小さい花を咲かせる。新葉は緑色で紅色を帯びない。ヤマザクラと比較しながら観察するとよい。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 1m に達する。樹皮は暗灰褐色で、横に長い皮目はない。若枝は灰褐色ある。葉は互生し、長さ 2～2.7cm の柄があり、葉身は長楕円形～狭倒卵形、長さ 4～8.5cm、幅 2～4.5cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形、辺縁に細かい鋸歯があり、葉柄と裏面脈上に毛がある。蜜腺は通常葉身の基部につく。花期は 3 月末～4 月上旬、花は葉より先に開き、2～5 個が散房状につき、直径 2～2.5cm、がく筒は短い鐘形で基部がふくらみ、花柄とともに開出毛が多い。花弁は 5 枚で淡紅色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：村境～猿ヶ鼻（小林 41334）、2 石堂（小林 36281）、6 川向（小林 36234）、7 神田（芹沢 61102）、8 大島（芹沢 48125）、9 乗本（小林 66339）、10 只持小松（芹沢 77752）、12 杉山（芹沢 77751）、13 一宮町金沢（芹沢 77759）、15 嵩山町（芳山朋子 321）、17 姫島（芹沢 88565）。西：19 八幡（芹沢 61701）、20 寧比曾岳（水野岸子 186）、22 涼堂（塚本威彦 873）、24 上高町（芹沢 58022）、25 猿投山（磯谷彰宏 852）、26 秋葉町（芹沢 58032）、28 上貝津（中西普佐子 360）。尾：37a 定光寺町（日比野修 107）、45 八曾（松田ちか子 169）、46a 山那木曾川（上山秀郎 244）、48 外之原町（山田果与乃 907）、53 光明寺木曾川（芹沢 58324）。ただし一部のものは植栽起源の可能性がある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島（済州島）、台湾、中国大陸中部。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。点在するがあまり群落を作らず、そのため個体数はそれほど多くない。サクラの中では最も大木になる。岐阜県根尾の薄墨桜など、各地のサクラの老木はたいてい本種である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ヤマザクラと同様、花の時期には葉が十分展開しておらず、葉の特徴はよく観察できない。花を観察した個体の位置を記録しておき、後で確実に同じ個体について葉を観察するとよい。また、本種はしばしば植栽されているので、本来の自生か植栽起源の可能性があるか、特に注意して観察してほしい。

【似た種類】

ヤマザクラからはがく筒の下部がふくらみ、花柄に開出毛が多いことで区別できる。また、樹皮に横長の皮目がなく、サクラ的でないことも本種の特徴である。

【特記事項】

広く栽培されるソメイヨシノ *P. × yedoensis* Matsum. は、本種とオオシマザクラの雑種といわれる。またシダレザクラは、本種の枝が長く伸びる一型である。

【関連文献】

保木 II p.11-12, 平 3 p.63-64.

リンボク *Prunus spinulosa* Sieb. et Zucc.

【概要】

照葉樹林に生育する常緑性の樹木。ヤマザクラなどと同属であるが、花は小さく、多数が長い総状花序につく。これもサクラの仲間だという意味で、バクチノキなどと共に観察の対象として興味をひきやすい樹木である。秋の開花期に咲きそろった状態は、割合目をひく。

【形態】

常緑性の小高木～高木。幹は高さ 10m、直径 30cm に達する。樹皮は黒褐色で皮目が点在する。葉は互生し、倒卵形、長さ 8～10mm の柄があり、葉身は細長い楕円形、長さ 7～9cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形、革質、無毛、辺縁は老木ではほとんど全縁であるが、若木の葉には芒状の鋭い鋸歯がある。花期は 9～10 月、当年枝の葉腋から長さ 5～8cm の穂状の花序を出し、多数の花をつける。花は白色で直径 6～7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：横林（小林 48907）、7 神田（榊原利修 14）、8 鳳来寺山（芹沢 83291）、13 一宮町上長山（小林 40518）、音羽町宮路山（小林 40726）、15 嵩山町（芳山朋子 1403）、18 土田（名倉智道 102）。西：22 日面（日比野修 1909）、23 三箇（日比野 3244）、24 西広瀬町（芹沢 66711）、25 猿投山（芹沢 85228）、27 福谷（芹沢 78181）、28 小久田（原田勉 193）、30 舞木町（芹沢 86338）、31 遠望峰山（芹沢 78230）。尾：37a 定光寺町（芹沢 53468）、48 松本町（日比野修 2997）、50 守山区吉根（芹沢 77648）、51 天白区御幸山（渡辺幸子 1307）。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（沖縄本島）。

【世界の分布】

日本、中国大陸

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。やや山地性の樹木で、花の咲くような成木はそれほど多くないが、幼木はあちこちに見られる。丘陵地では稀である。岩場のような場所では低木状になることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【保全上の留意点】

本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が 1 株しかない場合は、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。新しい自生地等を発見した場合には可能な限り標本作成に努めるべきである。

【特記事項】

成木と幼木の葉の形態に著しい差がある種で、若木の葉には顕著な芒状の鋸歯があり、同種と思えないほどである。ヒイラギガシと呼ばれることもある。

【関連文献】

保木 II p.18, 平 3 p.70-71.

ワレモコウ *Sanguisorba officinalis* L.

【概要】

日当たりのよい草地に生育する多年生草本。秋に紅紫色の楕円形の花穂をつける。スズサイコやオミナエシと共に、代表的な里草地の植物である。分布はオミナエシよりやや広く、平野部の河川の堤防や用水路の土手などにも生育している。

【形態】

多年生草本。茎は上方で分枝し、高さ 50～100cm になる。葉は羽状複葉、根出葉は長い柄があり、小葉は 5～11 個で楕円形、長さ 2.5～5cm、円頭、辺縁には三角形の鋸歯がある。花期は 8～10 月、花序は枝の先に 1 個ずつつき、楕円形で直立し、長さ 1～2cm、花は暗紅色で小さく、密集してつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 本郷（小林 38940）、6 西納庫（石川静雄 281）、9 黄柳野（加藤等次 215489）、12 中宇利（加藤等次 2188）、13 一宮町岡（小林 40092）、14 相楽町（鈴木美恵子 191）、15 石巻馬越（加藤等次 215346）16 神野新田町（瀧崎 15633, T）。西：5 中当（芹沢 56826）、19 一色（日比野修 1670）、20 追分（新井文子 1228）、21 田代（長谷川朋美 820）、22 鍛冶屋敷（芹沢 50606）、23 西市野々（日比野修 683）、24 東広瀬町（佐藤久美子 842）、25 大平町（土場トシ子 144）、26 今町（落合鈴枝 127）、27 福谷（臼井里華 823）、28 夏山（福岡義洋 2069）、29 小美町（伊奈知子 1173）、30 桑谷町（本多さおり 1096）、31 深溝（金子律子 1566）、32a 井ヶ谷町（瀧崎 541, T）、33 木戸町矢作川（堀田喜久 861）、34b 三角町矢作川（中村さとこ 1111）、35 家武町（堀田喜久 4752）、36 幡豆町東幡豆大沢（壁谷重美子 910）。尾：37a 下半田川町（日比野修 772）、38b 米野木町（岡本沙矢香 672）、39a 諸輪（中村裕治 1318）、40b 緒川（渡邊麻子 911）、41a 高横須賀町（加藤雅憲 591）、41b 日長（芹沢 73334）、42a 草木（渡邊麻子 691）、42b 三ツ池町（岡本久美子 772）、42c 富貴（林彰一 871）、43 大谷（芹沢 77034）、44a 浦戸（岡本沙矢香 414）、45 善師野（平嶋敏 1068）、48 細野町（太田さち子 1100）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 193）、49d 新川町下河原（芹沢 77713）、50 守山区上志段味（鳥居ちよ子 483）、西区枇杷島町（鈴木秀樹 3242）、51 天白区植田（渡辺幸子 592）、緑区鳴海町諸ノ木（岡本沙矢香 407）、52 中村区日比津町（高木順夫 8928）、53 光明寺（伊藤静江 1128）、57b 立田村福原（山田茂貴 759）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯域に広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。現在の所まだ普通に見られる植物であるが、それでも平野部では、どこにでもあるというわけではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

秋の花は草丈の割に花が小さく、はっきりわかる写真を撮影しようとして周囲を踏み荒らす例が多い。注意が必要である。

【似た種類】

ミヤマワレモコウ *S. longifolia* Bertol. (県 EN) はやや湿った草地に生育し、花穂が長く、花糸が長く花の外に伸びる。希少種であるが人里近くに生育していることが多い植物なので、観察の際にはこの種でないか、意識して確認する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.125, 平 3 p.56.

コアカソ *Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.

【概要】

山地の沢沿いに生育する半低木状の植物。ニホンジカが好む植物の一つであるが、木本性であるため食痕が残りやすい。食害状況を把握する上で注目するとよい植物である。名古屋市 NT。

【形態】

半低木。茎の基部は木化してよく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は対生し、長さ 8cm に達する柄があり、葉身は卵状ひし形、長さ 7~11cm、幅 3.5~6cm、先端は尾状に伸び、辺縁に深い鋸歯がある。花期は 8~10 月、雌花序は斜開して下垂し、帯紅色、長さ 7~15cm である。葉が小さく半分程度の大きさのものはコバノコアカソ var. *microphylla* Nakai ex Satake と呼ばれ、2 倍体で有性生殖を行うことが知られているが、外形から明確に識別することは困難である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 佐久間湖岸（芹沢 82066）、6 川向（芹沢 56895）、7 川向（芹沢 63131）、10 玖老勢（芹沢 87820）、12 市川（芹沢 60132）、13 一宮町上長山~本宮山（小林 39528）。西：20 中立（芹沢 68140）、21 花沢（長谷川朋美 1011）、22 岩倉（塚本威彦 1224）、23 三箇（塚本 1809）、24 豊松町（芹沢 87462）、25 猿投山（土場トシ子 190）、28 鹿勝川（福岡義洋 1116）、29 茅原沢町（芹沢 67119）、30 鉢地町（芹沢 70185）、31 深溝（金子律子 1072）、36 西幡豆大沢（壁谷重美子 940）。尾：37a 広久手町（芹沢 76183）、45 八曾（芹沢 87856）、48 外之原町（太田さち子 880）、50 守山区小幡北山（太田由美子 44）、51 天白区土原（中島ひろみ 560）、緑区滝ノ水（芹沢 89065）。コバノコアカソと思われるものは、東：2 大入川溪谷（芹沢 87934）、4 水梨川（芹沢 90546）、6 田峰呼間川（芹沢 62994）、7 岩古谷山麓（芹沢 87942）、8 鳳来湖（堀田喜久 2759）、9 乗本（芹沢 87822）、10 玖老勢（芹沢 87821）、12 庭野（芹沢 62403）、14 相楽町（井上美保子 371）、15 嵩山町（芹沢・芳山 143）、西：23 西市野々（日比野修 529）、25 猿投山（芹沢 35800）、尾：45 八曾（芹沢 89065）に生育している。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

ニホンジカによる食害が激しくない場所では、沢沿いの林内や林縁にごく普通に生育している。ただし丘陵地では少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ニホンジカの食害にあうと、枝は短く刈り込まれ、葉がほとんど残っていないような状態になり、この状態が続くと枯死してしまう。食害は林道沿いなどの目立つ場所から始まることが多いので、観察しやすい。

【似た種類】

クサコアカソ *B. gracilis* C.H.Wright は茎が木性にならず、葉がやや大きく、花序が上方を向く。クサコアカソは愛知県にもあることになっているが、実際には愛知県のもの全てはアカソの影響を受けた倍数体系統らしい。2 倍体のクサコアカソは、天竜川東側にはそれらしいものがあるが、愛知県ではまだ確認していない。アカソ *B. silvestrii* (Pamp.) W.T.Wang は葉が更に大きく、先端が 3 裂する。こちらも愛知県のもは、全て多少なりともクサコアカソの影響を受けた倍数体系統らしい。アカソの 2 倍体系統は、本州中部の日本海側に多く生育している。

【特記事項】

同属のナガバヤブマオ *B. sieboldiana* Blume は本種とは逆にニホンジカの嗜好植物の一つで、食害が進むとよく目立つようになる。

【関連文献】

保草 II p.339, 平 2 p.344, RDB なごや 2015 p.306.

ブナ *Fagus crenata* Blume

【概要】

日本の温帯林を代表する樹木。愛知県では設楽町段戸山裏谷と豊田市（旧稲武町）面ノ木峠によく発達した林があり、他にもところどころに小規模な林が残存している。自然度の高い温帯林の指標となる。果実は苦味がなく、多くの動物の冬の食料源となる。本種とミズナラを保全すれば、他の生物に対して個別的な保全策を講じなくても、温帯域の自然はある程度保全できるほどである。

【形態】

落葉性の高木。大きいものは高さ 30m、直径 1.5m に達する。ひこ生えは生じない。樹皮は灰白色～やや暗灰色、平滑で、しばしば多くの地衣類が着生する。枝は暗紫色で、長楕円形の皮目を散生する。葉は互生し、長さ 0.5～1cm の柄があり、葉身は卵形～ひし状卵形、長さ 5～8cm、幅 2.5～4.5cm、先端は鋭頭、基部は広いくさび形、辺縁には波状の鈍鋸歯があり、はじめ両面に長い軟毛があるが、のち無毛になる。側脈は 7～11 対ある。花期は葉の展開と同じ 5 月、雄花序は頭状で下垂し、長さ 1～3cm の柄がある。雌花序は枝の上部に上向きにつく。果実は 3 稜がある長楕円形、総苞の中に 2 個並んでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 日本ヶ塚山（小林 42411）、2 茶臼山（加藤等次 2980）、3 御園（村松 25884）、4 箱淵（芹沢 78756）、6 段戸山裏谷（瀧崎 20816）、8 明神山（芹沢 69664）、11 清岳（小林 57366）。西：5 面ノ木峠（鈴木学 1249）、19 駒山（日比野修 1570）、20 寧比曾岳（芹沢・水野 279）、21 阿蔵（小林 52314）、24 六所山（山崎玲子 1408）。

【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

段戸山裏谷と面の木峠の自然林は保護されているが、林相は歩道からでも充分観察できる。高木のため花は観察しにくい、秋にはしばしば多量の果実を落とす。

【似た種類】

次種イヌブナに比べ、樹皮が白く、幹の基部にひこ生えを生じず、葉はやや小さくて夏には無毛になる。

【特記事項】

愛知県を含む太平洋側のブナは日本海側のものに比べて葉が小さく、時にコハブナと呼ばれることがある。また、太平洋側のブナ林は通常林床にスズタケを伴うが、スズタケは越冬芽の位置が高く、ニホンジカの食害の影響を受けやすい。林床にスズタケがなくなったブナ林は土壌が流出しやすくなり、林床植生がますます荒廃することが多い。段戸山裏谷と面の木峠のブナ林についてもニホンジカによる林床植生の破壊が次第に顕著になっており、後継木も減少していて、注意が必要である。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.282-283, 平 3 p.92.

イヌブナ *Fagus japonica* Maxim.

【概要】

山地に生育する落葉高木。ブナより標高の低い場所に生じ、またブナと異なり林の優占種となることはない。良好な中間温帯林の指標となる。

【形態】

落葉性の～高木。幹は高さ 25m、直径 70cm に達し、基部に多くのひこ生えを生じる。樹皮は灰黒色でブナより暗色、枝は黒紫色で、長楕円形の皮目がある。葉は互生し、長さ 0.3～1cm の柄があり、葉身は長楕円形～卵状楕円形、長さ 6～10cm、幅 2.5～5cm、先端は鋭尖形で鈍端、基部は広くさび形、辺縁には波状の鈍鋸歯があり、裏面に長い宿存性の軟毛がある。側脈は 10～14 対ある。花期は葉の展開と同じ 4～5 月、雄花序は頭状で下垂し、長さ 2.5～4.5cm の柄がある。雌花序は枝の上部につき、長さ 2～3cm の柄がある。果実は長い柄の先について下垂する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 漆島 (小林 43534)、2 茶臼山 (芹沢 82891)、3 明神山 (芹沢 69640)、4 箱淵 (小林 45750)、6 段戸山 (芹沢 83185)、8 明神山 (小林 38762)、14 五井山 (小林 79295)。西：5 面ノ木峠 (横井 邦子 346)、19 駒山 (芹沢 62051)、20 寧比曾岳 (芹沢・水野 224)、22 大ヶ蔵連 (日比野修 1924)、23 三国山 (日比野 2750)、24 六所山 (山崎玲子 431)、25 猿投山 (土場トシ子 918)、30 桑谷山 (小林 59361)。尾：37a 上品野町 (塚本威彦 1434)、47 大山 (日比野修 3865A)、48 廻間町 (山田果与乃 932)。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本～中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。果実はあまりつかず、観察しにくい。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ブナと異なり林の優占種となることはないが、より広い範囲に点在しており、その意味で観察する機会が多い。本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が 1 株しかない場合は、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。新しい自生地等を発見した場合には可能な限り標本作成に努めるべきである。むしろ、観察や写真撮影の際に周囲の植物を踏み荒らさないよう、注意が必要である。

【似た種類】

ブナに比べ、樹皮が暗色で、幹の基部に多くのひこ生えを生じ、葉はやや大きくて軟質、裏面に長軟毛がある。

【特記事項】

イヌブナの名は、ブナに比べて材質が劣るからである。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.283-284, 平 3 p.92-93.

ミズナラ *Quercus crispula* Blume

【概要】

ブナと共に日本の温帯林を代表する樹種。老木は自然度の高い温帯林の指標となるが、ブナより陽性で、若木は二次林にも見られる。果実は苦味が少なく、多くの動物の冬の食料源となる。本種とブナを保全すれば、他の生物に対して個別的な保全策を講じなくても、温帯域の自然はある程度保全できるほどである。

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 30m、直径 1.5m に達する。若枝は太くても直径 3mm 程度、帯紫褐色、ほぼ無毛である。葉は互生し、葉柄はごく短く、葉身は楕円形～倒卵形、長さ 8～16cm、幅 3.5～10cm、先端は短い鋭頭または鈍頭、基部は円形～浅い心形、辺縁の鋸歯は 10～16 対で、鋭頭～やや鈍頭である。花期は 5 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に 1～3 個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 八嶽山（芹沢 82097）、2 新野峠（芹沢 56158）、6 段戸裏谷（村松正雄 16156）、8 鞍掛山（小林 53389）、11 中河内（芹沢 56003）。西：5 黒田町（芹沢 87638）、19 駒山（村松 877）、20 寧比曾岳（水野岸子 652）、21 下山田代町（芹沢 87615）、22 北篠平（芹沢 56576）、23 三国山（日比野修 2851）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン南部、日本、朝鮮半島。中国大陸にはよく似たモンゴリナラが生育しており、その変種とする見解もある。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。通常はブナよりやや乾燥した立地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

標高 800m くらいから上には普通に見られる樹木であるが、それより低い場所では稀である。本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。特にフモトミズナラ var. *mongolicoides* (H.Ohba) Seriz. (県 NT) の分布域である丘陵地との中間でミズナラ類を見た場合には、可能な限り標本作成に努めるべきである。

【似た種類】

里山の代表的な樹種であるコナラに比べ、葉柄が短く、葉が大きく、葉縁の鋸歯も大きい。フモトミズナラについてはレッドデータブックあいち 2009 植物編 521 頁参照。

【特記事項】

日本海側ではカシノナガキクイムシの食害を受けて、広範に枯死が生じている。愛知県ではまだ被害が本種の分布域に及んでいないが、今後注意が必要である。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.265-266, 平 3 p.96.

ハンノキ *Alnus japonica* (Thunb.) Steud.

【概要】

泥質の湿地に生育する高木。全国的には平野部に林として残存していることもあるが、愛知県では通常丘陵地の谷戸田の奥などに生育している。低湿地的環境を指標する代表的な樹木である。

【形態】

落葉性の高木。高さ 15~20m になる。枝は褐色または帯紫褐色である。葉は互生し、長さ 1~3.5cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 5~13cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、辺縁には浅い鋸歯がある。側脈は 7~9 対あって下面に隆起する。葉は乾くと暗褐色になる。雌雄同株で、花期は葉が展開する前の 2~3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 2~5 個下垂し、雌花序はその下方に 1~5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5~2cm、果実は扁平で、長さ約 4mm である。若枝と若葉に赤褐色の毛が多いものをケハンノキ form. *koreana* (Callier) H.Ohba という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 田口 (小林 66371)、9 吉川峠 (小林 52128)、11 鴨ヶ谷 (小林 64554*)、13 市田町 (瀧崎 15017, T)、15 石巻萩平町 (芹沢 64151)、岩崎町 (小林 63900*)、16 杉山町 (芹沢 59141)、17 野田 (芹沢 55010)、18 伊川津 (芹沢 59773)。西：20 四ツ松 (新井文子 787)、22 田代 (日比野修 2317)、23 北一色 (日比野 2124)、25 太平町 (芹沢 61905)、27 黒笹 (芹沢 64042)、29 箱柳町 (中西普佐子 223)、30 羽栗町 (芹沢 70962)、31 坂崎 (金子律子 1608)、32a 小堤西池 (芹沢 45547)、34a 春日町大山公園 (芹沢 69965)。尾：37a 吉野町 (芹沢 75910)、37b 新居 (芹沢 88189)、38a 前熊 (半田多美子 604)、38b 藤島 (芹沢 64198)、39b 二村山 (芹沢 65984)、41a 加木屋町 (芹沢 55067)、42a 草木 (渡邊麻子 899)、42b 行人町 (岡本久美子 520)、43 金山 (梅田零奈 841)、44a 布土 (芹沢 55121)、45 本宮山 (芹沢・松田 146)、48 外之原町 (芹沢 66373)、50 千種区田代町 (芹沢 55335)、51 天白区天白町平針 (渡辺幸子 1439)、緑区鳴海町水広下 (芹沢 57208)。*はケハンノキである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ウスリー。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。陽樹なので放棄された谷戸田に侵入して林を作ることも多く、若木の林はあちこちにあるが、太い木は少ない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【観察上の留意点】

本種が生育する低湿地は観察也写真撮影時に足を取られやすく、著しく踏み荒らしてしまうことが多い。注意が必要である。

【似た種類】

サクラバハンノキ *A. trabeculosa* Hand.-Mazz. (県国リスト) は葉の基部が丸味を帯び、側脈が多い。

【特記事項】

翅に緑色の金属光沢があるミドリシジミは、本種が食樹である。初夏には併せて観察することが望ましい。

【関連文献】

保木 II p.286-287, 平 3 p.109.

カワラハンノキ *Alnus serrulatoides* Call.

【概要】

増水時には流水に洗われるような川岸の岩場に生育する低木または小高木。愛知県では山間部の川岸に比較的多く生育しているが、護岸工事や河川改修による影響を受けやすい。良好な溪流沿い環境の指標となる。名古屋市 VU。

【形態】

落葉性の低木または小高木。枝は無毛で、暗褐色または暗紫褐色を帯びる。葉は長さ 5~10mm の柄があり、葉身は広倒卵形、長さ 5~10cm、幅 3~7cm、先端は円頭または微凹頭、ときに微凸頭、基部は広いくさび形、辺縁には浅い細鋸歯があり、側脈は 7~9 対、下面の脈上や脈腋に多少毛がある。花期は 2~3 月、雄花序は枝先に 2~5 個、雌花序はその下の葉腋に 1~5 個つく。果徳は卵状楕円形、長さ 15~20mm である。枝に毛があり、葉裏の毛も多いものをケカワラハンノキ form. *katoana* (Yanagita) H.Ohba という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 上黒川（芹沢 70630）、6 田峰寒狭川（芹沢 66169）、9 乗本（芹沢 81597）、10 玖老勢（芹沢 65646）、布里（小林 46265*）、12 市川（芹沢 58127）、13 三上町（加藤等次 2468）。西：5 中当（芹沢 55542）、19 時瀬（芹沢 62001）、20 四ツ松（芹沢 71508）、21 黒岩（芹沢 61974）。立岩（芹沢 65915*）、22 百月（芹沢 65914, 65915*）、23 上川口（日比野修 978）、24 西広瀬町（芹沢 66677）、平井町（畑佐 4257*）、25 平戸橋町（芹沢 65889）、28 細光（福岡義洋 1155）、29 秦梨町（芹沢 65305）、35 西浅井町（芹沢 65504）。尾：37a 下半田川町（芹沢 54782）、38a 熊張（村松 26531）、45 栗栖（芹沢 88235）、46a 山那（芹沢 65789）、48 外之原町（日比野修 1983）、50 守山区下志段味（鳥居ちゑ子 551）、54 木曾川町玉ノ井（芹沢 66042）、55 祖父江町木曾川（山内富士子, 1979 年）。*はケカワラハンノキである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。川岸以外の場所には生育しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種が生育している場所の周辺には、多くの場合小形の溪流沿い植物が生育している。観察や写真撮影の際には、それらを踏み荒らさないよう注意が必要である。岩場に生育しているので、安全上の注意も必要である。

【似た種類】

愛知県に自生する種の中で本種に多少似ているのはケヤマハンノキ *A. hirsuta* (Spach) Turcz. ex Rupr. だが、幹は直立して高木になり、葉に欠刻状の浅い切れ込みがあるので、容易に識別できる。

【特記事項】

川岸の岩場に生育する植物としては、本種と後述するサツキのほか、ヤンヤゼンマイなども観察するとよい。

【関連文献】

保木 II p.287, 平 3 p.110, RDB なごや 2015 p.252.

ゴキヅル *Actinostemma lobatum* Maxim. ex Franch. et Sav.

【概要】

低湿地に生育するつる性の1年生草本。濃尾平野では比較的多く、多少富栄養化した水辺にも生育していることがあるが、他の場所では少ない。サデクサとともに、低湿地的な環境を指標する植物である。名古屋市 VU。

【形態】

一年生草本。茎は細く、長さ1~2mになる。葉は互生し、長さ1~6cmの柄があり、葉身は三角状長卵形、長さ4~13cm、幅2~7cm、先端は鋭尖頭、下部は耳状になり、時に3~5浅裂し、基部は深い心形、辺縁にはまばらに不明瞭な突起がある。巻きひげは葉と対生して出て、他物にからみつく。花期は8~10月、雄花は上部の葉腋から出る総状花序につき、直径約1cmで黄緑色、花冠もがく片も星形で深く5裂し、先端は長く伸びる。雌花は雄花序の基部に単生する。果実は下垂し、卵形、長さ1.8~2m、緑色で熟すと上下に2裂し、中に黒色の大形の種子が2個ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2分地天竜川（小林 53111）、13 正岡町（小林 65288）、15 下条東町（小林 65287）、16 杉山町（小林 65418）、17 赤羽根（芹沢 56705）、18 中山（小林 53129）。西：24 室町矢作川（山崎玲子 1515）、26 平和町（畑佐 4897）、29 八帖町矢作川（中村さとこ 1141）、32a 泉田町（中村裕治 957）、33 東端町（堀田喜久 960）、34a 芳川町（芹沢 71364）、34b 川口町矢作川（中村さとこ 595）、35 上町（中根幸司 41）。尾：39b 香掛町（浅野守彦 703）、40a 横根町（中村裕治 1122）、40b 生路（中村裕治 1058）、42c 武豊緑地（浅野守彦 2067）、44a 布土（畑佐武司 798）、奥田（近藤洋一朗 5916）、47 池之内（日比野修 4981）、49d 新川町五条川（芹沢 77915）、50 中区二の丸（芹沢 78099）、西区庄内緑地公園（芹沢 80103）、52 中川区福島（高木順夫 136）、港区寺前町（芹沢 83569）、54 木曾川町里小牧木曾川（芹沢 60227）、尾西市祐久木曾川（芹沢 73413）、55 祖父江町祖父江木曾川（芹沢 77716）、島町（佐藤徳次 25）、56a 甚目寺町庄内川（芹沢 81099）、56b 北間島（芹沢 77563）、57b 佐屋町大野（山田茂貴 599）、58b 小島新田木曾川（芹沢 63449）、弥富野鳥園（芹沢 70311）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア。

【生育地の環境／現在の生育状況】

全国的にはやや稀少な植物で、レッドリストに掲載している県もあるが、濃尾平野では普通種である。しかしあちこちにありすぎて大切にされないから、水路の改修等で生育地が失われることも多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【観察上の留意点】

よく繁茂する植物で、ある場所では通常個体数も多く、多少採集しても個体群の存続に影響を与えることはない。本種のような平野部の植物はいつの間にか消えてしまうことが多いので、意識して標本資料の蓄積に努めるべきである。

【特記事項】

和名は合器蔓で、上下2つに割れる果実の形状に基づく。

【関連文献】

保草 I p.99, 平 3 p.121, RDB なごや 2015 p.253.

オオタチヤナギ *Salix pierotii* Miq.

【概要】

河川敷などに生育する大型のヤナギ。平野部の低湿地を特徴づける種で、県内の主要河川の中流域から下流域の川岸や水辺に見られ、カワヤナギやコゴメヤナギ、ジャヤナギなどとともにヤナギ林を形成している。なお、愛知県の本種のうち西三河平野部や尾張のものは、一般的にオオタチヤナギとされているものと比較して葉の幅が広い。本地域を特徴づける植物である可能性があり、今後の詳細な検討が必要である。

【形態】

高木。枝は分枝点がもろく折れやすい。枝端の若葉は密に絹毛でおおわれるが、成葉は両面とも無毛で裏面はロウ質の粉白を帯びる。葉身は線状楕円形で長鋭尖頭、長さ 9~12cm、幅 1~3cm。雄花穂は長さ 3~5cm、雄花は 3~5mm、苞は淡黄緑色、雄蕊は 2 個で基部で合着し毛があり、葯は紅色で、背腺体、腹腺体がある。雌花穂は楕円形で長さ 9~20mm、雌花は腹腺体のみがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 下黒川（村松 25285）、13 御津町赤根（小林 40259）、17 赤羽根町越戸（小林 41465）、18 堀切町大沢（芹沢 88255）。西：5 中当（村松 17854♂）、26 畝部東町（村松 17687）、27 西一色境川（芹沢 76426*）、29 北野町矢作川（村松 17676、17677♂）、30 合歡木町矢作川（芹沢 65560）、31 幸田町逆川（芹沢 69205*）、32a 井ヶ谷町（芹沢 76639*）、32b 西町逢妻川（芹沢 65952*）、33 木戸町（芹沢 65474）、34b 川口町矢作川（芹沢 64852*）、35 田貫町（芹沢 64886*）、36 佐久島（芹沢 86888*）。尾：37b 新居町（村松 17628*）、38b 岩崎町（半田多美子 3062*）、39a 平池（村松 17856*）、39b 阿野町（浅野守彦 1886*）、40a 北崎町（中村裕治 1326*）、44a 豊丘（大西浩 547）、45 田口洞（塚本威彦 902*）、46a 山那（芹沢 65757*）、47 野口（村松 17155*）、48 高蔵寺町（芹沢 80525*）、49a 北島町（芹沢 70718*）、49d 新川町西須ヶ口（芹沢 78551*）、50 守山区吉根（村松 17670*）、西区堀越町（村松 17484*）、51 天白区植田南天白川（渡辺幸子 1053）、52 中村区稲葉地町（芹沢 64639*）、中川区富田町（芹沢 77267*）、54 尾西市東加賀野井（村松 17078*）、55 船橋町（水野峰子 210）、56a 甚目寺町下萱津新川（芹沢 78499*）、57b 立田村立田木曾川（村松 17709*、17710*♂）*は葉の幅が広いもの、♂と明記していないものは、雌株か葉だけの標本である。

【国内の分布】

北海道南西部、本州（北陸の一部、近畿～中国地方の一部）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○	○	
水域				

【生育地の環境／現在の生育状況】

県内の主要河川の中流域から下流域の川岸や水辺に見られ、3 月末には 2cm ほどの短い花穂が目立ち、その後葉が展開する。

【観察上の留意点】

葉の形状はジャヤナギ *S. eriocarpa* Franch. et Sav. に酷似しているため、葉の時期に見た場合は同じ株にテープなどで印をつけておき、翌春花を観察する必要がある。特に雌花は腹腺体のみであることが、本種の重要な特徴である。

【似た種類】

ジャヤナギは、雌花に合体した腹腺体と背腺体がある。

【特記事項】

ほとんどが雌株で、雄株は稲武町で 1 株、岡崎市で 3 株、立田村で 1 株見ているだけである。概要でも述べたように、県内のオオタチヤナギは葉幅がかなり広く、調査が進めば何らかの形で区別できる可能性がある。主要図鑑には愛知県の分布は記載されていない。

【関連文献】

平 3 p.195.

エイザンスミレ *Viola eizanensis* (Makino) Makino

【概要】

三河山間部の沢沿い林内に生育するスミレ。山地性の種類で、自然度の高い場所でしか見られない。日本で葉が切れ込むスミレは本種とヒゴスミレだけなので、識別も容易である。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。葉は長さ 6~10cm の柄があり、葉身は複葉で 3 全裂し、長さ 5~9cm、側裂片は長さ 3~7cm で、各裂片はさらに切れ込む。花期は 4 月で、花は白色~淡紅紫色、花弁は波状縁となり、側弁の基部は有毛で距は太く短い。開花後葉は大型となり、葉柄は長さ 20cm、葉身は長さ 10~15cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 坂宇場（村松 15183）、3 西菌目（芹沢 45479）、4 木地山（梅田昌江、1993 年）、6 川向（小林 41889）、7 鹿島山（芹沢 86752）。西：5 富永（日比野修 4581）、20 寧比曾岳（水野岸子 168）、22 北大野（日比野修 2303）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

奥三河を中心とした山地の沢沿いの、夏緑樹林の林内や林縁のやや湿り気の多い場所に生育する。個体数はあまり多くない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

小型の植物なので、踏みつけには弱い。観察する際は周辺を踏みつけないように注意する必要がある。

【似た種類】

ヒゴスミレ *V. chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino は全体にやや小型で、葉はほぼ基部から 5 裂し、より深く切れ込み、花は白色である。エイザンスミレとは異なり、山地の尾根などの明るい落葉樹林内や草地に生えることが多い。愛知県では、東：2 坂宇場（村松 15177）、4 面ノ木峠（芹沢 54659）、7 平山（榎原利修 271）、西：19 伊熊（芹沢 61689）、20 切山（大原準之助、1966 年）、23 西市野々（日比野修 1051）、尾：37a 上半田川町（日比野 127）などに生育している。ただしヒゴスミレはしばしば栽培されていて、逸出らしいものは東：14 清田町（鈴木美恵子 373）、西：32a 井ヶ谷町（芹沢 60943）、尾：38b 岩崎町（半田多美子 2483）、49c 師勝町鹿田（鈴木幸子 301）などでも採集されている。

【特記事項】

スミレ類は、他から容易に識別できるよくまとまった植物群である。日本では約 50 種が生育しており、愛知県でもグリーンリストに示したようにかなりの種類が生育している。今回はその中から本種とニオイタチツボスミレの 2 種を取り上げたが、他の種も少し慣れれば比較的簡単に見分けることができる。それぞれ生育環境にも特徴があるから、まとめて観察すると面白い。

【関連文献】

保草Ⅱp.200, 平 3 p.216.

ニオイタチツボスミレ *Viola obtusa* Makino

【概要】

愛知県の丘陵地では最も目立つスミレで、里山などの夏緑樹林の明るい林床や林縁に生育し、早春一番先に青紫色の花を咲かせる。里山環境の指標として重要である。

【形態】

多年生草本。地下茎は短い。地上茎は花期には短い、開花後に伸長して長さ 40cm ほどになる。根生葉は長さ 2~4cm の柄があり、葉身は円心形~円形、長さ 1~3cm、先端は鈍頭、基部は心形、両面ともまばらに短毛があるか無毛。花は青紫色で中心部は白色、よい香りがあるのが名前の由来である。通常花柄に白い短毛が多いが、ないものもあり、ケナシニオイタチツボスミレ *form. nuda* (Ohwi) F.Maek. と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 面ノ木峠天狗棚（芹沢 43685, 54662*）、7 荒尾（榊原利修 235*, 340）、8 鳳来寺山（加藤等次 1232, 1232B*）、12 豊栄（芹沢 60950）、吉祥山（加藤等次 2698*）、13 一宮上新切（小林 41367）、14 御堂山（村松 10041, 10054*）、15 嵩山町（芹沢 39679*）、牛川町（龍川良克・郁子 161）、17 笠山（芹沢 54371*）、18 堀切町（瀧崎 28189）。西：20 追分（芹沢 69047）、切山~菅田（村松 16698*, 16700）、21 田代（長谷川 111, 113*）、22 田代（芹沢 48489, 48489B*）、23 田茂平（芹沢 64585）、西市野々（日比野修 211*）、24 西広瀬町（佐藤久美子 136）、上高町（山田初代 208*）、25 猿投山西の宮（村松 10111）、26 渡刈町（落合鈴枝 499）、27 打越（臼井里華 67）、福谷（臼井 105*）、28 夏山（福岡義洋 72）、29 小美町（芹沢 64567）、小丸町（中西普佐子 269*）、30 本宿町（本多さおり 84）、31 須美（金子律子 30*, 163）、32a 井ヶ谷町（鈴木学 556, 556B*）、36 鳥羽姫山（芹沢 58171*）、東幡豆大沢（壁谷重美子 248）。尾：37a 海上町（芹沢 75293, 75294*）、37b 桜ヶ丘町（村松 12583）、38a 岩作（半田多美子 44*）、38b 岩崎（半田 129, 伊藤恭子 163*）、39a 諸輪（浜島育子 630）、39b 杓掛町（浅野守彦 1180）、栄町（中村裕治 199*）、40a 追分町（竹田弘光 179*）、40b 緒川（芹沢 71434）、石浜（渡邊麻子 91*）、41b 新知（加藤雅憲 122）、42a 阿久比（渡邊麻子 42）、42b 桐ヶ丘（岡本久美子 98）、43 常滑中椎田~新池（芹沢 65124）、44a 奥田（岡本久美子 31）、野間（芹沢 39615*）、44b 内海（大西博 278）、45 善師野（芹沢 51150, 51150B*）、46a 柏森（竹原芳子 1126）、47 大山（村松 785*, 786）、48 玉野町（村松 805, 796*）、50 守山区小幡北山（太田由美子 1*）、名東区猪高町高針（鳥居ちえ子 2471*）、51 昭和区八事本町（花岡昭 42）、天白区土原（中島ひろみ 137*）。*はケナシニオイタチツボスミレである。

【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。丘陵地や山地の夏緑樹林内の遊歩道脇などの明るい林縁部に多い。愛知県の丘陵地では最も多いスミレの一つであるが、近年草地などの手入れがされず被陰が進行しており、本種も消失しているところがある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

エイザンスミレの項参照。

【似た種類】

スミレの仲間は花後葉形が変わるものが多く、見間違えることがある。このニオイタチツボスミレも、花時の葉はハート形に近いが、後に出てくる葉は長卵形になり、しばしばナガバノタチツボスミレ *V. ovato-oblonga* (Miq.) Makino と混同される。しかしナガバノタチツボスミレの花後の葉は更に長く伸び、上部の葉縁はやや内側に湾入する。タチツボスミレ *V. grypoceras* A.Gray にも似ているが、花卉が幅広く、濃紫色で色が濃い。通常花柄に白い短毛があることも区別点の一つである。

【関連文献】

保草Ⅱ p.200, 平 3 p.225.

チドリノキ *Acer carpinifolium* Sieb. et Zucc.

【概要】

山地の沢沿いに生育する樹木。カエデの仲間であるが葉は細長い単葉で掌状に切れ込まず、その点で興味をひきやすい。プロペラ状の果実は、手の届く高さでも観察できることが多い。良好な山地渓谷林の指標となる。

【形態】

落葉性の小高木～高木。高さ 8～12m になる。葉は対生し、有花枝に 1 対、無花枝に 1～5 対つき、長さ 0.5～2cm の柄がある。葉身は長楕円形、長さ 8～13cm、幅 2.5～5.5cm、単葉で切れ込まず、先端は鋭尖頭、基部は円形または浅い心形、辺縁には鋭い重鋸歯がある。側脈は 18～25 対ある。花期は 5 月、花序は総状で長さ 5～10cm、雄株では 13～17 個の雄花、雌株では 3～7 個の雌花をつける。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ 2.5～3cm、翼はほぼ直角に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 漆島 (小林 42252)、2 茶臼山 (加藤等次 3010)、大入溪谷 (加藤等次 3684)、3 西菌目 (芹沢 84976)、4 水梨川 (芹沢 92703)、7 神田 (芹沢 61491)、8 池場 (村松 25742)、12 本宮山 (小林 40187)、13 本宮山 (小林 42694)、15 石巻中山町 (小林 57182)。西：5 野入 (塚本威彦 2213)、19 杉本 (日比野修 1160)、20 寧比曾岳 (塚本威彦 1874)、24 六所山 (小林 62164)、25 猿投山 (山崎玲子 1434)、28 闇荻溪谷 (芹沢 75521)。尾：37a 定光寺町 (日比野修 581)。

【国内の分布】

本州 (岩手県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。山地の沢沿いには多いが、浅い山では少なく、丘陵地には生育していない

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

よく見ると葉の最下側脈は下側に枝分かれしており、葉の基本的な特徴は他のカエデ類と同じであることがわかる。

【特記事項】

ヤマシバカエデとも呼ばれる。カエデ類は種類が多く、愛知県でも約 20 種が自生している。今回はチドリノキだけを取り上げたが、イタヤカエデ類以外は識別もそれほど難しくないから、観察の対象として面白いグループである。

【関連文献】

保木 1 p.289, 平 3 p.293.

ハタザオ *Turritis glabra* L.

【概要】

人里近くの草地に生育する越年生草本。特に河川の堤防に多い。茎は葉と共に帯白色で、直立して分枝しない。本種が多く生育しているような堤防は、草刈りが継続されるため、他にも多くの草地性植物が生育していることが多い。名古屋市 EN。

【形態】

越年生草本。茎は直立し、通常分枝せず、高さ 60~120cm になる。根出葉は倒披針形、長さ 5~10cm、先端は鈍頭、中下部に 3~6 の欠刻状鋸歯があり、両面に 2 分した毛と星状毛がある。茎葉は披針形、長さ 3~9cm で上のものほど小さくなり、上向きにつき、基部は矢じり形で茎を抱き、全縁、無毛である。花期は 5~8 月、花弁は倒卵形、長さ 5~7mm、淡黄白色、果実は直立して中軸に接し、線形、長さ 4~8cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 振草 (小林 63956)。西：12 浅谷 (小林 59278)、24 川田町 (山崎玲子 1376)、25 猿投山 (磯谷彰宏 1106)、26 畷部東町 (芹沢 86944)、29 渡町 (芹沢 65583)、30 合歡木町 (芹沢 65546)、33 小川町 (堀田喜久 408)、34b 伏見屋外新田 (芹沢 65444)。尾：37a 柳ヶ坪町 (日比野修 294)、38b 赤池町 (渡辺幸子 5327)、46a 山那 (上山秀雄郎 261)、50 千種区香流橋 (鳥居ちよ子 2086)、51 天白区井口 (渡辺幸子 5328)、54 木曾川町里小牧 (鈴木秀樹 1953)、55 祖父江町神明津 (芹沢 61147)、57b 森川 (石樽弓恵 322)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布し、北アメリカやオーストラリアに帰化している。

【生育地の環境／現在の生育状況】

矢作川と木曾川の堤防には多いが、他では少ない。ただし他河川における分布状況は十分調べられておらず、注意して探索すれば新しい産地が発見される可能性は高い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩			○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

身近な河川の堤防に生育していることから普通種と思われるがちだが、実際にはかなり希少種で、堤防の草刈りがなければ絶滅危惧種のリストに入っていると思われる。そのため、観察に際しても一定の配慮が必要である。

【似た種類】

あえて似た種類をあげるならばヤマハタザオ *Arabis hirsuta* (L.) Scop.だが、山地の林縁などに生育し(ただしハタザオも、ごく稀にそのような場所に生えることがある。例えば岐阜県美濃市片知溪谷 720m、芹沢 90121)、植物体は毛が多く白色を帯びないから、混同するおそれはないと思われる。ヤマハタザオは、愛知県では東：2 大入溪谷 (加藤等次 2877)、3 明神山 (瀧崎 6099, T)、6 駒ヶ原 (瀧崎 22341, T)、7 神田 (榊原利修 421)、9 竹ノ輪 (芹沢 58527)、10 玖老勢 (芹沢 65634)、15 嵩山町 (芳山朋子 541)、西：5 林道月ヶ平線 (鈴木学 1328)、19 松根 (塚本威彦 533)、20 上国谷 (鈴木万里亜 482)、21 梶 (長谷川朋美 330)、22 千洗 (伊藤泰輔 202)、23 西市野々 (塚本威彦 103)、24 国附町 (佐藤久美子 448)、25 猿投山 (土場トシ子 320)、28 鳥川 (福岡義洋 456)、30 上青野町 (小林 63778)、尾：37a 広久手町 (芹沢 75759)、42a 草木 (渡邊麻子 395)、44b 山海 (大西博 397) などで採集されている。

【特記事項】

和名は旗竿で、直立する茎の形状による。

【関連文献】

保草 II p.181-182, 平 4 p.71, RDB なごや 2015 p.197.

サナエタデ *Persicaria lapathifolia* (L.) Delarbre var. *incana* (Roth) H.Hara

【概要】

耕起前の水田に生育する 1 年生草本。それほど少ない植物ではないが、どこにでもあるというわけではない。セトガヤ (244 頁)、コオニタビラコ (303 頁) などと共に、昔ながらの状態が残されている水田のよい指標となる。

【形態】

1 年生草本。茎は直立して枝を分け、高さ 30~70cm になる。葉は互生し、3~15mm の柄があり、葉身は長楕円形~広披針形、長さ 4~12cm、幅 1~3cm、先端は鋭頭鈍端または鈍頭、表面の中央部に暗色斑がある。葉鞘は長さ 5~15mm であるがややくずれやすく、縁毛はない。花期は通常 5 月だが、稲刈り後の 10 月にもしばしば開花する。花穂は多少なりとも帯紅色、長さ 1~4cm、果時に幅 5~10mm、果実は扁平な円形で、長さ、幅とも約 2mm である。花の白いものをシロバナサナエタデ、葉裏に綿毛が密生して白くなるものをウラジロサナエタデというが、花がごく僅かに帯紅色のもの、葉裏がやや帯白色のものもあって、品種として区別できるかどうか、やや微妙である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 国府町 (小林 37245**), 行明町 (瀧崎 22005, T)、15 石巻萩平町 (芹沢 68843, 68844*)、16 伊古部町 (瀧崎 14762, T)、17 谷熊町 (芹沢 80447)、18 初立ダム (小林 44450**)。西：20 戸中 (山崎玲子 572*)、22 樽俣 (日比野修 2198)、25 西新町 (芹沢 68830)、落合町 (山崎玲子 1544*)、26 幸町 (石川敏 262**), 田代町 (中村裕治 705***)、29 奥山田町 (杉田一記 1852)、筒針町 (中西普佐子 64***)、30 市場町 (本多さおり 1109*)、31 逆川 (芹沢 69198)、深溝 (金子律子 903**), 萩 (金子 1431***)、32a 東境町 (芹沢 92645**), 32b 西中町 (白井直子 53*)、上重原町 (白井 171**), 33 西別所町 (堀田喜久 184***, 4082**), 新田町 (石川公三 4-12*), 34b 油渕町 (堀田 3878**), 35 針曾根町 (芹沢 85632**), 36 一色町対米 (芹沢 81502**), 吉良町八幡新田 (芹沢 85629**)。尾：37b 旭ヶ丘町 (芹沢 88180, 88181*)、38a 長湫 (芹沢 74373)、前熊 (半田多美子 287**), 39b 新田町 (浅野守彦 1289)、杏掛町 (浅野 487*)、40b 藤江 (渡邊麻子 466**), 41a 加木屋町 (岡島錦也 57**), 41b 佐布里 (村松 28421*), 42a 板山 (渡邊麻子 337)、42b 池田町 (岡田久美子 367**), 42c 富貴 (芹沢 85136, 85137*)、43 大曾町 (鳥居ちゑ子 2044*)、44a 古布 (芹沢 64351)、44b 大井 (芹沢 61607**), 45 栗栖 (芹沢 73418*)、入鹿池 (芹沢 88156)、楽田 (芹沢 69550**), 46b 下小口 (佐分康之 8-5**), 48 廻間町 (芹沢 68531)、49a 野寄町 (鈴木幸子 642**), 北島町 (芹沢 70720***)、49d 新川町西須ヶ口 (79190, 79191***)、同西堀江 (芹沢 78676*)、50 守山区上志段味 (福岡義洋 1975)、中志段味 (鳥居ちゑ子 1166*)、51 天白区植田天白川 (西川勇夫 160**), 52 中村区稻上町 (鶴岡佐知子 351**), 港区南陽町 (芹沢 79158*, 79164)、54 尾西市玉野 (渡辺幸子 2219)、同開明 (渡辺 3850*)、同東五城 (渡辺 4243**), 55 祖父江町西寺内 (渡辺 3940*)、南麻績町 (芹沢 65437**, 69428, 69429***)、56b 長牧 (芹沢 66049*, 66727)、57b 佐織町草平新田 (芹沢 61134**), 佐屋町西保 (石榑弓恵 164)、58a 本町 (永田晴美 584*)。*はシロバナサナエタデ、**はウラジロサナエタデ、***は白花で葉裏も白いものである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。開花期が 5 月なので、水引きの早い水田には生育できない。

【似た種類】

基準変種のオオイヌタデ var. *lapathifolia* は、大きなものは高さ 1.5m 以上になり、花期は夏~秋、葉鞘は宿存性、節上の茎はふくらむが、夏のサナエタデほどではない。ハルタデ *P. vulgaris* Webb. et Moq. はサナエタデと同じような場所に生育し、全体の形状もよく似ているが、葉鞘に短い縁毛がある。

【特記事項】

通常は夏に消失するが、稀に残ったものは茎も葉も伸びて大きく横に広がり、茎の節の上の部分は著しく紡錘状に肥大する。

【関連文献】

保草 II p.310, 平 4 p.99.

サデクサ *Persicaria maackiana* (Regel) Nakai

【概要】

低湿地に生育する 1 年生草本。茎や葉に鋭い逆刺があり、からむと痛い。濃尾平野では比較的多く、多少富栄養化した水辺にも生育していることがあるが、他の場所では少ない。ゴキヅルとともに、低湿地的な環境を指標する植物である。

【形態】

1 年生草本。茎は他物に寄りかかりながら立ち上がり、下向きの刺があり、よく分枝する。葉は互生し、長さ 2~6cm の柄があり、葉身は披針状楕円形、長さ 4~8cm、基部に横に開いた耳片があり、全体としてほこ形になる。托葉鞘は上部が葉状になる。花期は 7~10 月、3~5 個の花が密集してつく。がくははじめ白色であるが、果時には紅色を帯びる。そう果は 3 稜形、褐色で光沢があり、長さ 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川河川敷（加藤等次 3617）、15 佐藤町（瀧崎 9551）。西：26 今町（落合鈴枝 976）、32a 一ツ木町（中村裕治 1190）、33 東端町油ヶ渕（芹沢 77046）、35 鷯ヶ池町（芹沢 68679）、36 一色町坂田新田（中根幸司 1701）。尾：37b 旭ヶ丘町（村松 21443）、39b 杓掛町（浅野守彦 641）、40a 横根町（中村裕治 1101）、40b 藤江（渡邊麻子 549）、42b 亀崎町（岩本誠 10-2）、43 矢田（梅田零奈 717）、49c 西春町宇福寺（鈴木幸子 404）、49d 新川町五条川（芹沢 78158）、50 北区玄馬町（鳥居ちよ子 1416）、西区名塚町（鳥居 2227）、51 緑区大高町川添（渡辺幸子 4502）、52 中川区西伏屋（芹沢 83557）、54 尾西市東加賀野井（渡辺幸子 1326）、55 祖父江町祖父江（渡辺 4965）、56a 甚目寺町上萱津（鈴木秀樹 3373）、56b 北間島（芹沢 77562）、57b 立田村四会（石樽弓恵 824）、58b 弥富野鳥園（竹原芳子 1056）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズリ。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【観察上の留意点】

よく繁茂する植物で、ある場所では通常個体数も多く、多少採集しても個体群の存続に影響を与えることはない。本種のような平野部の植物はいつの間にか消えてしまうことが多いので、意識して標本資料の蓄積に努めるべきである。

【似た種類】

多少似ているのはミゾソバ *P. thunbergii* (Sieb. et Zucc.) H. Gross であるが、ミゾソバはとげが本種ほど著しくなく、托葉鞘に通常葉状の部分がなく、葉も幅広い。

【特記事項】

とにかくとげだらけで、触ると痛く、どちらかと言えば嫌われ者の植物である。このような植物でも生物多様性保全上注目するとよいという意味で、特に取り上げることにした。

【関連文献】

保草 II p.305, 平 4 p.92.

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L.

【概要】

食虫植物。本来は温帯性の植物であるが、愛知県では丘陵地に広く分布している。路傍の水のしみ出す崖地などにも見られるが、主要な生育地は湧水湿地である。貧栄養の場所に生育する代表的な植物として、注目すべきものである。名古屋市 NT。

【形態】

食虫性の多年生草本。葉は根生し、長さ 3~8cm の柄があり、葉身は倒卵状円形、長さ 7~10mm、基部は柄に流れ、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための腺毛がある。花期は 6~8 月、高さ 10~30cm の花茎の上部に総状花序をつけ、花序の先端は渦巻き状に巻く。花は 5~20 個が花序の片側につき、花弁は長さ 4~6mm、通常白色であるが、稀に淡紅色のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:1 大沼上 (芹沢 72231)、4 箱淵 (芹沢 67404)、6 段戸高原岩岳 (芹沢 57041)、8 川合乳岩 (加藤等次 1697)、10 愛郷 (小林 49096)、11 岩波 (芹沢 55873)、12 中宇利 (芹沢 55640)、13 一宮町大木 (芹沢 56106)、15 岩崎町 (芹沢 55655)、16 天伯町 (芹沢 55663)、17 野田 (芹沢 55668)、18 高木 (芹沢 59195)。西:5 中当 (芹沢 50234)、19 八幡牧場 (芹沢 55891)、20 追分 (芹沢 55966)、21 下山田代町林洞 (芹沢 87729)、22 大平 (芹沢 52139)、23 白川 (日比野修 1463)、24 琴平町 (芹沢 75861)、25 大池町 (芹沢 55577, 55578*)、27 筋生 (芹沢 61888)、28 細光 (福岡義洋 888)、29 小呂町 (斉藤道也, 1989 年)、30 池金町 (芹沢 52180*)、竜泉寺町 (本多さおり 415)、31 須美 (金子律子 878)、36 東幡豆大沢 (壁谷重美子 662)。尾:37a 海上町 (芹沢 75877)、38a 前熊 (半田多美子 1156)、38b 岩藤新田 (芹沢 55599)、39b 沓掛町 (芹沢 59012)、41a 加木屋町 (加藤雅憲 1280)、42a 板山 (芹沢 59030)、42b 奥町 (林彰一 178)、42c 武豊二ツ峰 (芹沢 59041)、43 矢田 (芹沢 76796)、44a 奥田 (岡本沙矢香 354)、45 池野 (芹沢・松田 113, 114*)、47 大山 (村瀬正成 11028)、48 玉野町 (福岡義洋 2625)、50 守山区上志段味 (鳥居ちゑ子 407)、千種区田代町 (鳥居 2132)、51 天白区土原 (中島ひろみ 134)、緑区大高町 (渡辺幸子 5104)。*は花が淡紅色のものである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の亜寒帯~温帯に広く分布する。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。湧水湿地の中では、次種トウカイコモウセンゴケに比べて、より水位の高い場所に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【観察上の留意点】

湧水湿地には、本種の他にも多くの貴重な植物が生育している。観察の際にはそれらを踏み荒らさないよう、特に注意してほしい。

【似た種類】

トウカイコモウセンゴケは葉柄が短く、花は淡紅色である。

【関連文献】

保草 II p.168, 平 4 p.106, RDB なごや 2015 p.311.

トウカイコモウセンゴケ *Drosera tokaiensis* (Komiya et C.Shibata) T.Nakam. et K.Ueda

【選定理由】

湧水湿地のやや乾いた場所に生育する食虫植物。温帯系のモウセンゴケと熱帯系のコモウセンゴケとの交雑に由来する 6 倍体種で、東海地方から近畿地方にかけての固有種であり、本地域の湿地を特徴付ける植物の一つでもある。丘陵地の湿地には広く見られるが、山地では見られなくなる。

【形態】

多年生草本。葉は根出し、直径 2.5~5.5cm のロゼット状になる。各葉はさじ形で、葉柄と葉身がある程度区別できる。葉身は倒卵形、長さ 5-10mm、表面と辺縁に昆虫類を捕らえる帯紅色の腺毛がある。花茎は長さ 8-30cm、若時ぜんまい状に巻き、上部に淡紅色の花をつける。花は 5 月中旬頃から咲き始めるが、花期が長く、残花は秋まで見られる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 豊栄（小林 58058）、13 一宮町上長山（芹沢 61754）、15 岩崎町（芹沢 55156）、16 野依町（芹沢 58590）、17 野田（芹沢 58601）、18 伊良湖町初立池（瀧崎 29615）。西：21 花沢（芹沢 63681）、23 深見（芹沢 48629）、24 矢並町（芹沢 55501）、25 太平町（芹沢 61889）、26 本町（落合鈴枝 493）、27 黒笹（臼井里華 478）、28 樫山（福岡義洋 2065）、29 茅原沢町（芹沢 68063）、30 桑谷町（芹沢 70170）、32a 井ヶ谷町（奥岡啓子 234）、36 東幡豆大沢（芹沢 70189）。尾：37a 海上町（芹沢 75878）、38a 青少年公園（芹沢 75994）、38b 赤池（芹沢 61274）、39a 春木（芹沢 79171）、39b 沓掛町（渡邊幹男, 2013 年）、40a 野々宮（林彰一 229）、40b 緒川（渡邊麻子 697）、41a 加木屋町（加藤雅憲 1262）、42a 板山（渡邊麻子 634）、42b 三ツ池町（岡本久美子 333）、42c 富貴カル田（芹沢 59053）、43 矢田（梅田零奈 425）、44a 奥田（岡本沙矢香 292）、45 池野（芹沢・松田 112）、47 野口（村瀬正成 10952）、48 細野町（太田さち子 1083）、50 守山区小幡緑地（芹沢 55329）、千種区田代町（鳥居ちよ子 2134）、51 天白区天白町八事（渡辺幸子 2866）、緑区大高町（渡辺 5105）。31 六栗～桐山で 1960 年に採集された標本もある。

【国内の分布】

本州（東海地方、近畿地方）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。モウセンゴケが湿地の中央部の湿った部分に多いのに対し、本種はやや乾いた場所に生育している。水がしみ出す土手や崖地に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【観察上の留意点】

湧水湿地には、本種の他にも多くの貴重な植物が生育している。本種はたいてい湿地の外縁部に生育しているから、周辺部からでも十分観察できる。

【似た種類】

コモウセンゴケ *Drosera spathulata* Labill.（ここでは一般的な見解に従ったが、それと異なるという説もある）は本種の片親と推定される 4 倍体種で、葉はへら形、葉柄と葉身の区別がはっきりせず、最基部以外は長腺毛があり、花茎に腺毛が多く、花序が長く、花柄が短い。県内の分布は現在のところ知多半島と豊明市に限られており、尾：39b 沓掛町（浅野守彦 317）、42b 奥町（林彰一 81）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 55103）、43 樽水（芹沢 65178）、44a 布土（林彰一 265）などで採集されているが、多いものではない。本種より乾いた場所に生育しており、湧水湿地以外の場所に見られることが多い。

【特記事項】

愛知県の湧水湿地では普通に見られる植物であるが、岐阜県東濃地方では産地も少なく、個体数もあまり多くない。確認できた産地の中で標高の最も高いところは、岐阜県瑞浪市の約 440m である。

【関連文献】

平 4 p.106.

ミミナグサ *Cerastium fontanum* Baumg. subsp. *vulgare* (Hartm.) Greuter et Burdet
var. *angustifolium* (Franch.) H.Hara

【概要】

山地や丘陵地の路傍などに生育する 1 年生草本。一般的な図鑑類には「田畑や道端に普通」と書かれているが、少なくとも現在の愛知県ではヨーロッパ原産の帰化植物であるオランダミミナグサ *C. glomeratum* Thuill. に圧迫されて、平野部ではなかなか見ることができなくなっている。オランダミミナグサと組み合わせて、分布状態を記録しておきたい植物である。

【形態】

冬型 1 年生草本。茎ははじめ倒伏して基部で分枝し、先は立ち上がって高さ 15~30cm になり、通常黒紫色を帯びる。葉は対生し、無柄、葉身は卵形~長楕円状披針形、長さ 1.5~4cm、幅 4~10mm、先端は鈍頭~鋭頭である。花期は 3 月末~5 月中旬、花序は 2 出集散型で 2~数回分岐し、花柄は長さ 5~15mm で花より長い。花弁は白色、がく片とほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 瀬戸 (芹沢 51332)、2 茶臼山林道 (村松 24417)、4 白鳥山 (石田雄吉 100)、6 三都橋竜頭山 (小林 41687)、7 和中市 (芹沢 61088)、8 長篠 (加藤等次 4456)、9 大野トクボ (芹沢 88293)、10 布里 (瀧崎 32647, T)、11 中河内 (堀田喜久 1175)、12 豊栄 (中西普佐子 367)、13 財賀寺 (瀧崎 11353)、14 蒲郡町 (井上美保子 773)、15 嵩山町 (芹沢 43558)。**西**：5 小田木 (塚本威彦 2754)、19 伊熊 (芹沢 64909)、20 上国谷 (鈴木万里重 535)、21 平瀬 (芹沢 61001)、22 上仁木 (日比野修 1902)、23 上川口 (日比野 200)、24 西広瀬町 (芹沢 64604)、25 猿投山 (土場トシ子 451)、26 長興寺 (落合鈴枝 207)、27 福谷 (臼井里華 237)、28 下衣文 (福岡義洋 279)、29 小丸町 (杉田一記 467)、30 桑谷町 (本多さおり 16)、31 桐山 (金子律子 223)、32a 井ヶ谷町 (芹沢 51190)、36 東幡豆鹿川~こどもの国 (壁谷重美子 231)。**尾**：37a 海上町 (芹沢 75324)、37b 上の山町 (村松 21147)、38a 愛知青少年公園 (芹沢 77804)、38b 北新田 (伊藤恭子 190)、39a 諸輪 (浜島育子 197)、39b 杓掛町 (浅野守彦 1241)、40b 緒川 (渡邊麻子 135)、41b 阿原 (加藤雅憲 11)、42b 東大矢知町 (岡本久美子 241)、43 千代ヶ丘 (芹沢 65089)、44b 山海岩屋 (大西博 468)、45 善師野 (村瀬正成 A145)、47 大草 (村瀬 930228)、48 細野町 (竹原芳子 30)、49c 西春町徳重 (鈴木幸子 412)、50 守山区上志段味 (鳥居ちる子 602)、51 天白区塩釜 (渡辺幸子 4629)、54 富田木曾川 (渡辺 1568)、55 祖父江町二俣 (渡辺 2979)、57b 立田村山路 (飯田雅史 4-3)。ただし標本の多くは 1990 年代に採集されたものなので、現在もあるかどうか、確認が必要である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアからインドにかけて分布する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	△	
湿地				
水域				

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。

【観察上の留意点】

平野部ではほとんど見られないが、思わぬところに残存していることがある。よく注意して探索する必要がある。

【似た種類】

基準変種のオオミミナグサ var. *vulgare* はアジア (北海道を含む)、ヨーロッパ、北アフリカに広く分布し、多年生草本で、全体に大形である。愛知県では移入と思われるものが、9 下吉田 (瀧崎 32526) で採集されている。オランダミミナグサは人里周辺にごく普通に見られる帰化植物で、植物体に腺毛が多く、花は密集してつき、花柄はがくより短いと同長程度である。

【特記事項】

同じナデシコ科のハコベ (ミドリハコベ *Stellaria neglecta* Weihe + コバコベ *S. media* (L.) Villars) とイヌコハコベ *S. pallida* (Dumort.) Crep. も、在来種または古い帰化種と新しい帰化種の相互関係を見る上で好適な材料である。

【関連文献】

保草 II p.269, 平 4 p.111.

カワラナデシコ *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams

【概要】

日当りのよい草地に生育する多年生草本。夏～初秋に、淡紅色の花を咲かせる。秋の七草の一つで、里草地の代表的な植物でもある。名古屋市 NT。

【形態】

多年生草本。茎は基部で分枝して直立し、高さ 50～80cm、上部でも枝を分ける。葉は対生し、線形～披針形、長さ 3-9cm、粉白色を帯び、基部は茎を抱く。花期は 7～9 月、花は枝先に数個がまばらにつき、苞は 3～4 対、がくは円筒形で、長さ 3～4cm である。花弁は淡紅色、基部は深裂し、下部に深紅紫色のひげ状の毛がある。種子は円形で扁平、黒色、直径約 2mm である。花の白いものはシロバナカワラナデシコ form. *niveus* Yonek. という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 熊打 (小林 45532)、2 茶臼山 (芹沢 62904)、4 白鳥山 (石田雄吉 102)、6 東納庫大久保 (芹沢 52576)、9 竹ノ輪 (芹沢 59254)、15 嵩山町 (芹沢・芳山 171)、16 小島町 (小林 46474)、17 姫島 (瀧崎 24299)、18 伊良湖宮下 (芹沢 59185)。西：5 押山 (横井邦子 313)、19 坪崎 (塚本威彦 699)、20 北小田 (芹沢 70699)、21 宇連野 (芹沢 62400)、22 三の久保 (日比野修 3071)、23 西市野々 (塚本威彦 325)、24 中金町 (佐藤久美子 819)、25 田初町 (芹沢 62217)、26 畝部東町 (石川敏 103)、28 夏山 (福岡義洋 1029)、29 日名本町 (杉田一記 918, 2009*)、30 羽栗町 (本多さおり 807)、31 永野 (金子律子 944)、32b 西中町 (白井直子 36)、33 川島町 (堀田喜久 889)、34b 三角町 (中村さとし 933)、35 新渡場町 (芹沢 68468)、36 佐久島 (瀧崎 3855, T)。尾：37a 十軒町 (日比野修 4863A)、37b 新居 (村松 20647)、38a 岩作 (村瀬美智子 266)、39b 栄町 (浅野守彦 592)、40a 北崎町 (中村裕治 786)、40b 緒川 (渡邊麻子 582)、41b 八幡 (加藤雅憲 944)、42a 草木 (渡邊麻子 572)、43 大谷 (梅田零奈 611)、広目 (鳥居ちよ子 1659*)、44a 浦戸 (岡本沙矢香 376)、奥田 (岡本 424*)、44b 大井 (芹沢 62111)、48 神領町 (鈴木秀樹 4276)、49d 西枇杷島町下新町 (鈴木幸子 729)、50 守山区上志段味 (芹沢 76848)、51 緑区鳴海町諸ノ木 (岡本沙矢香 406)、52 中村区宿跡町 (鶴岡佐知子 38)、57b 立田村葛木 (伊藤静江 926)。*はシロバナカワラナデシコである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。あちこちで見かけるが、どの場所でも個体数はそれほど多いものではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種は 1990 年代初めに集中的に県内全域の分布が調査されているが、その後の状況は十分把握されていない。草地環境は次第に減少しているため、上記自生地についてもできるだけ現況を確認する必要がある。

【特記事項】

カワラナデシコというが、河原の礫地に生育することはない。秋の七草の一つであるが、実際にはむしろ夏の花である。

【関連文献】

保草 II p.255, 平 4 p.112, RDB なごや 2015 p.312.

ハマナデシコ *Dianthus japonicus* Thunb.

【概要】

海岸の崖地や林縁に生育する多年生草本。夏～秋に紅紫色の美しい花を咲かせる。代表的な海浜植物の一つで、時に多少攪乱された場所にも見られるが、通常は自然度の高い場所に生育している。海浜のあちこちで見かける植物であるが、植物体が立体的で、きれいな標本を作りにくい。そのため分布情報は十分蓄積されていない。ハマカンゾウと共に、詳細な県内分布を把握しておきたい植物の一つである。

【形態】

多年生草本。茎は基部が木質化して斜上し、上部は直立して高さ 25～50cm になる。根出葉はロゼット状になる。茎葉は対生し、下部のものは柄があり、葉身は楕円形～長楕円形、長さ 4～9cm、幅 1～3cm、先端は鋭頭～円頭、質は厚く光沢があり、中上部のものは無柄、上に行くほど小さくなる。花期は 7～10 月、花は茎の先端に集まってつき、苞は 3 対、がくは円筒形で、長さ 1.5-2cm である。花弁は紅紫色、舷部は倒三角形で長さ 6-7mm、上縁に歯状の欠刻がある。花の白いものはシロバナハマナデシコ form. *albiflorus* Ohara ex Nakanishi という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 西浦町（鈴木美恵子 111）、16 船渡町（瀧崎 15650, T）、17 仁崎（瀧崎 21285*, T）、赤羽根町一色（名倉智道 145）、18 和地（小林 40708*）、伊良湖岬（芹沢 52342）。西：36 東幡豆鳥帽子ヶ丘（壁谷重美子 815）、尾：43 坂井（梅田零奈 519）、44b 鳶ヶ崎（鳥居ちえ子 2720*）、師崎（大西博 870）、46a 小淵木曾川（佐分利康之 692）、52 中川区中須町（高木順夫 19654）、55 桜木町（家田晴俊 394）。*はシロバナハマナデシコである。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。海浜植物であるが、コウボウムギやハマヒルガオと異なり、通常砂浜には生育しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

観察時にあまり負荷を与えなくてすむ植物であるが、崖状地に生育しているものについては、安全上の配慮が必要である。多くの場合は路傍の傾斜地などにも生育していて、それほど無理をしなくても観察できる。また、本種は時に栽培されていて、それが逸出していることがある。市街地などで見られた場合は、逸出の可能性がないか疑ってみる必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.256, 平 4 p.113.

オカトラノオ *Lysimachia clethroides* Duby

【概要】

草地や林縁に生育する多年生草本。初夏に横に傾いた花序をつけ、白い花を咲かせるが、花の少ない季節なのでよく目立つ。ヌマトラノオとは生育環境が異なるので、比較しながら観察するとよい。

【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は直立し、分枝せず、高さ 60~90cm になる。葉は互生し、葉身は長楕円形、長さ 8~12cm、幅 3~5cm、先端は鋭頭、基部は狭まって短い柄がある。葉柄部は赤味を帯びる。花期は 6~7 月、茎の先端に上部が傾いた総状花序を伸ばし、上側に多数の花をつける。花は長さ 6~10mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、直径 8~12mm、裂片は長楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 大入溪谷（加藤等次 3249）、3 東菌目（山崎玲子 144）、4 白鳥山（石田雄吉 297）、6 川向（芹沢 55936）、7 川合宇連（芹沢 52514）、8 鳳来寺山（加藤等次 1496）、13 御津町御幸浜（瀧崎 29503, T）、11 中河内（伊藤昭康 315）、12 中宇利（加藤等次 1483）、14 水竹町（井上美保子 308）、15 雲谷町（芹沢 81663）、17 赤羽根町越戸（瀧崎 8667, T）。西：5 小田木（横井邦子 302）、19 牛地前林（芹沢 62020）、20 平沢（芹沢 76872）、21 東大沼（芹沢 61941）、22 李（伊藤泰輔 222）、23 西市野々（日比野修 446）、24 西広瀬町（佐藤久美子 531）、25 猿投町（磯谷彰宏 23）、26 渡刈町（中村さとこ 556）、27 黒笹（芹沢 62223）、28 鳥川（福岡義洋 796）、29 奥山田町（杉田一記 958）、30 桑谷町（本多さおり 400）、31 萩（金子律子 755）、36 東幡豆三ヶ根山（壁谷重美子 699）。尾：37a 海上町（日比野修 419）、37b 新居（村松 25919）、38a 熊張（半田多美子 306）、38b 岩崎（伊藤恭子 360）、41b 佐布里（鳥居ちゑ子 2631）、42c 下山ノ田（岡本久美子 423）、43 大谷（梅田零奈 420）、44a 鶴の山（田中郁子 143）、44b 豊浜（大西博 754）、45 善師野（平嶋敏 686）、48 細野町（山田果与乃 585）、49c 西春町中之郷（鈴木幸子 506）、50 守山区小幡緑地（鳥居ちゑ子 644）、51 緑区鳴海町大清水（岡本沙矢香 321）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【生育地の環境／現在の生育状況】

この仲間では最も普通に見られる種で、現在のところ個体数もかなり多いが、平野部では見られない。

【観察上の留意点】

観察時の負荷が少ない植物であるが、それでも周辺の踏み荒らし等は避けるべきである。

【似た種類】

ノジトラノオ *L. barystachys* Bunge（県 CR）は茎に毛が多く、葉が細く、葉柄部は赤くならない。全国的にも愛知県でも極めて稀な種で、県内では 3 カ所に自生していたが、そのうち安城市では現存が確認できない。

ヌマトラノオ（次頁）は本種と異なり湿地に生育する植物で、葉は小さくて多数つき、花序は直立して花もややまばらにつく。本種とヌマトラノオの雑種はイヌヌマトラノオ *L. × pilophora* (Honda) Honda と呼ばれ、愛知県では東：4 大桑（小林 45480）、6 段戸高原（芹沢 59081）、7 田口（小林 66588）、11 菅沼（芹沢 56041）、13 千両町（小林 38295）、18 和地（小林 45608）、西：5 平～河上瀬（小林 38498）、20 田之土里（小林 61655）、21 黒坂（芹沢 52440）、22 荷掛（日比野修 1598）、24 矢並町（吉鶴靖則 89）、28 雨山（小林 45632）、29 奥山田町（杉田一記 1994）、30 桑谷町（芹沢 70172）、31 高力（金子律子 980）、32a 井ヶ谷町（芹沢 61923）、33 和泉町（堀田喜久 5822）、34a 春日町（芹沢 69978）、34b 大坪町（芹沢 76845）、36 西幡豆小野ヶ谷（壁谷重美子 634）、尾：37a 広久手町（芹沢 87153）、37b 新居町（村松 25923）、39b 沓掛町（浅野守彦 501）、40b 緒川（渡邊麻子 607）、41b 佐布里（鳥居ちゑ子 2576）、42a 植大（渡邊 591）、43 大谷（芹沢 76808）、44a 布土（芹沢 59057）、45 善師野（芹沢 81870）、48 廻間町（山田果与乃 1383）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 489）、50 守山区上志段味（芹沢 77471）、名東区猪高緑地（鳥居ちゑ子 1973）、51 天白区天白川（渡辺幸子 370）、緑区大高町（渡辺 6582） 54 尾西市開明（渡辺 2268）などで確認されている。

【関連文献】

保草 I p.229, 平 4 p.195.

ヌマトラノオ *Lysimachia fortunei* Maxim.

【概要】

湿った草地に生育する多年生草本。花序は直立し、花はまばらにつく。愛知県では湧水湿地の周辺部に多いが、時には平野部の水田の周辺のような低湿地的環境が残存した場所にも生育している。ただし大河川の河川敷には生育していない。トウカイコモウセンゴケなどが生える湧水湿地と、マツカサススキやマコモが生える低湿地の中間的な環境を指標する植物である。

【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は直立し、高さ 50~100cm、分枝しないか上部で短い枝を出す。葉は多数が互生し、葉身は線状楕円形~倒披針形、長さ 4~7cm、幅 1~2cm、先端は鈍頭~鋭頭、基部は狭まってほとんど無柄である。花期は 6 月下旬~8 月上旬、花序は長さ 10~20cm で直立し、花をややまばらにつける。花は長さ 3~6mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、直径 5~9mm、裂片は倒卵形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 白鳥山（石田雄吉 298）、6 西納庫大久保（芹沢 52583）、8 長篠（加藤等次 2142）、9 黄柳野（芹沢 52494）、10 布里（小林 53564）、11 中河内（芹沢 56018）、13 一宮町上長山（59211）、15 大岩町（芹沢 76846）、16 東赤沢町（瀧崎 22194, T）、17 芦ヶ池（瀧崎 9460）、18 堀切町初立池（芹沢 87174）。西：20 平沢（芹沢 76873）、21 花沢（芹沢 62342）、22 大平（芹沢 52713）、23 西中山（芹沢 52775）、24 東広瀬町（佐藤久美子 708）、25 篠原町（芹沢 59325）、26 渡刈町（石川敏 124）、27 福谷（芹沢 62236）、28 鹿勝川（福岡義洋 860）、29 桑原町（杉田一記 2056）、30 羽栗町（本多さおり 501）、31 大草（金子律子 987）、32a 井ヶ谷町（芹沢 56910）、33 西別所町（堀田喜久 3457）、36 佐久島（中根幸司 1477）。尾：37a 海上町（芹沢 76019）、37b 新居町（村松 25924）、38a 岩作（半田多美子 3670）、38b 赤池（半田 368）、39b 杓掛町（芹沢 59852）、40b 石浜（渡邊麻子 519）、41a 加木屋町（林彰一 582）、41b 佐布里（鳥居ちる子 2576）、42a 植大（渡邊麻子 657）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 59044）、43 常滑高坂（梅田零奈 540）、44a 豊丘（大西博 861）、44b 大井（芹沢 62106）、45 池野（芹沢 56245）、48 内津町（山田果与乃 374）、49a 北島町（芹沢 70727）、50 守山区大森北（芹沢 92730）、名東区猪高緑地（芹沢 77482）、51 天白区島田黒石（中島ひろみ 174）、52 中村区日比津町川東（鶴岡佐知子 617）、54 尾西市三条（渡辺幸子 2254）、55 陸田町（佐藤徳次 5）、56b 三本木（若山恵巳子 8・5）、57b 立田福原（西尾芳徳 627）。53 旧葉栗村で 1932 年に採集された標本もある。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、インドシナ。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県では山地の一部から丘陵地にかけて比較的多く見られるが、平野部では稀である。本種の生育するような湧水湿地中心部でも典型的な低湿地でもない場所は、保全の対象になりやすく、開発圧力が高い。本種も将来的に減少する可能性が高く、注意してモニタリングする必要がある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	△	○	△	
水域				

【観察上の留意点】

湧水湿地の周辺部は、本種以外にも多くの植物が生育しており、本種を観察すれば必然的に他の植物を踏み荒らしてしまうことが多い。できる限り周辺の植物に影響を与えないよう注意すべきである。また、平野部の自生地は散在しているため、情報蓄積が不十分である。平野部以外も、1990 年代前半に集中的に調査されているが、その後の状況は十分把握されていない。既知の産地についても、できるだけ近況の確認が必要である。

【特記事項】

ノジトラノオとの雑種と推定されるものが、安城市と碧南市で確認されている。

【関連文献】

保草 1 p.229, 平 4 p.195.

クロミノニシゴリ *Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.

【概要】

東海地方から近畿地方にかけての比較的狭い範囲だけに分布する落葉性の低木。湧水湿地の周辺部や湧水のあるため池の周辺に生育し、枝いっぱい白い花をつけるため、開花期にはよく目立つ。本地域の準固有種として、注意して観察したい植物である。名古屋市 NT。

【形態】

落葉性の低木。高さ 5m くらいになり、若枝は紫褐色を帯び、2 年枝は灰白色になる。葉は互生し、4~10mm の柄があり、葉身は楕円形~長楕円形、長さ 3~9cm、先端は鋭尖頭から鈍頭まで変異があり、両面ともにほとんど無毛、表面は鮮緑色でやや光沢がある。葉縁の鋸歯は低く、時にはほとんど全縁に見える。花期は 5~6 月。新枝の先の円錐花序に多数の花をつける。花は白色、直径 8~10mm、花冠は 5 裂して平開する。果実は卵球形、長さ 6~7mm、黒熟する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 田原（芹沢 79776）、12 川田（小林 61422）、13 一宮町上長山（芹沢 58489）、15 岩崎町（芹沢 54995）、16 東細谷町（名倉智道 58）、17 野田（芹沢 58602）、18 伊川津（芹沢 58622）。西：23 西中山（芹沢 48628）、24 山中町（芹沢 58664）、25 大池町（土場トシ子 344）、26 堤本町（土場 315）、27 福谷（芹沢 61325）、30 竜泉寺町（本多さおり 715）、32a 井ヶ谷町（芹沢 58586）、33 赤松町（堀田喜久 1584）。尾：37a 広久手町（芹沢 75726）、37b 新居町（村松 24212）、38b 藤島（伊藤恭子 329）、39a 春木（芹沢 79175）、39b 杵掛町（芹沢 65986）、42a 板山（55077）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 55099）、43 金山（梅田零奈 354）、44a 奥田（芹沢 59066）、45 八曾山（芹沢 55287）、47 大草（芹沢 58633）、48 木附町~玉野町（福岡義洋 2526）、50 守山区小幡北山（太田由美子 105）、名東区牧野ヶ池緑地（鳥居ちる子 2105）、51 天白区菅田（伊藤晶子 131）、昭和区八事本町（渡辺幸子 5347）、緑区大高町（芹沢 89063）。

【国内の分布】

本州（東海地方、近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。現在のところはまだ個体数も多く、レッドデータブックに掲載されるほどの状態にはなっていない。しかし本地域に準固有の、しかも木本植物なので、まとまった数が見られる場所は是非とも保全しておきたい。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【似た種類】

サワフタギ *S. sawafutagi* Nagam. に似るが、葉縁の鋸歯が低く表面にやや光沢があること、花つきがよいことなどで区別できる。サワフタギは、愛知県では東：6 田峰呼間（芹沢 88348）、10 玖老勢（芹沢 65647）、12 稲木（芹沢 65031）、13 音羽町長沢（芹沢 81245）、14 形原町（鈴木美恵子 424）、15 牛川町（龍川良克・郁子 49）、16 杉山町（小林 66318）、17 高松町（芹沢 89971）、西：5 河上瀬谷（小林 37636）、19 八幡（芹沢 65678）、20 寧比曾岳（塚本威彦 1911）、21 梶（長谷川朋美 326）、22 川下（塚本威彦 1096）、23 田茂平（塚本 548）、24 西広瀬町（芹沢 65376）、25 猿投山（磯貝彰宏 1131）、26 豊栄町（石川敏、1993 年）、27 黒笹（中村裕治 475）、28 細光（福岡義洋 430）、29 才栗町（芹沢 65323）、30 鉢地町（本多さおり 253）、31 大草（金子律子 360）、32a 井ヶ谷町（瀧崎 1948, T）、33 別郷町（堀田喜久 395）、36 幡豆町鳥羽（壁谷重美子 715）、尾：37a 東白坂町（村松 24220）、37b 城山町（村松 24214）、38a 熊張（半田多美子 302）、38b 岩崎（半田 123）、39a 春木（鬼頭弘 277）、39b 杵掛町（浅野守彦 306）、40b 石浜（渡邊麻子 279）、41b 八幡（加藤雅憲 193）、42a 阿久比高校付近（渡邊麻子 348）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 65199）、43 久米（梅田零奈 447）、44a 鶴の山（田中郁子 100）、45 今井（芹沢 58355）、47 野口（村瀬正成 930245）、48 細野町（山田果与乃 43）、50 守山区小幡北山（太田由美子 83）、51 天白区相生山（芹沢 88627）、緑区鳴海町水広下（芹沢 58289）、53 光明寺木曾川（芹沢 58325）で採集されている。千種区覚王山で 1934 年に採集された標本もある。三河山地には、葉縁の鋸歯が鋭くて果実が藍黒色に熟すタンナサワフタギ *S. coreana* (H.Lev.) Ohwi も生育している。

【関連文献】

保木 I p.96, 平 4 p.209, RDB なごや 2015 p.315.

クロバイ *Symplocos prunifolia* Sieb. et Zucc..

【概要】

山地に生育する常緑性の小高木。照葉樹林の構成種であるが、岩場や風障地など、やや森林の発達が悪い場所にも生育している。4～5月に枝いっぱい白い花をつけ、よく目立つ。幼木は林の下層木としてあちこちに生育しており、その増加は都市近郊の温暖化傾向の指標となる可能性がある。

【形態】

常緑性の樹木。林内では小高木になるが、岩場などでは低木状のこともある。葉は互生し、長さ1cm程度の紫褐色を帯びる柄があり、葉身は長楕円形、長さ4～8cm、幅1.5～2.5cm、先端は鋭尖頭で鈍端、基部はくさび形、革質で表面に光沢があり、辺縁には低い鋸歯がある。側脈は目立たない。花期は4月下旬～5月中旬、花序は前年枝上部の葉腋につき、長さ2.5～7cm、花は長さ1～5mmの柄があり、花冠は5裂して白色、直径8～12mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7宇連（小林 53644）、8鳳来寺山（加藤等次 873）、12大海（瀧崎 29134, T）、13一宮町上長山（芹沢 64734）、豊川市千両町（小林 36551）、14西浦町（鈴木美恵子 417）、15石巻萩平町（芹沢 64695）、16高師本郷町（瀧崎吉伸 12999）、17野田（芹沢 55016）、18高木（芹沢 58209）。西：24千鳥町（山崎玲子 527）、28鳥川（小林 50201）、30桑谷町（本多さおり 166）、31須美（金子律子 299）。尾：37a三沢町（日比野修 1074）、37b新居町（村松 26754）、38b岩崎（伊藤恭子 158）、40b石浜（渡邊麻子 245）、41b佐布里（鳥居ちゑ子 2684）、42a矢高（渡邊麻子 242）、42b行人町（芹沢 76675）、42c武豊二ツ峰（林彰一 21）、43久米（芹沢 76662）、48玉野町（竹原芳子 406）、50守山区上志段味（鳥居ちゑ子 314）、同大森北（芹沢 92749）。花期にはよく目立つ植物であるが、標本資料はやや不十分である。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種の場合、開花するような成木の分布と幼木の分布は分けて考える必要がある。成木は、残存する照葉樹林的要素として重要である。幼木については最近増加が目立つが、十分な調査は行われていない。今後注意して情報を蓄積する必要がある。

【似た種類】

シロバイ *S. lancifolia* Sieb. et Zucc. (県 EN) は林の下層木で、秋に開花する。愛知県は分布域の東限に当たるが、極めて稀で、岡崎市（旧額田町）に1カ所自生地があるだけである。

【関連文献】

保木 I p.97, 平 4 p.212.

ギンリョウソウ *Monotropastrum humile* (D. Don) H. Hara

【概要】

腐生の多年生草本。葉緑素を持たない白色の姿は種子植物としては異様で、ユウレイタケとも呼ばれる。山地の腐植質に富んだ林内に生育し、自然林やよく発達した二次林の指標となる。標本資料の蓄積はやや不十分で、今後詳細な県内分布を把握しておきたい植物の一つである。名古屋市 EX。

【形態】

多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は1~数本が束生し、高さ8~20cmになる。葉は鱗片状で多数つき、下部のものは披針形で鈍頭、上部のものは倒披針形で円頭、長さ7~15mmである。花期は4月下旬~6月、茎の先端に1個の花を下向きにつけ、がく片は1~3枚、長楕円形、花弁は3~5枚で長楕円状くさび形、長さ1.5~2cm、基部はややふくらんで内側に白毛がある。花柱は太く短く、上端はやや広がって辺縁が青色の柱頭となる。果実は卵球形、液質で裂開しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 新野峠（加藤等次 3130）、4 面ノ木峠天狗棚（鈴木学 1009）、6 段戸山（加藤等次、1967年）、7 神田（榎原利修 597）、8 鳳来寺山（加藤等次 1291、加藤貞享、1994年*）、13 財賀寺（村松正雄 376）、15 雲谷町（名倉智道 36）。西：5 シシナド（日比野修 4508）、19 沢尻（塚本威彦 563）、20 大多賀（塚本 1919）、22 上仁木（日比野修 2128）、23 上川口（塚本威彦 504）、24 山中町（山田初代 438）、25 猿投山（落合鈴枝 26）、28 鳥川（福岡義洋 363）。尾：37a 海上町（芹沢 75411）、48 廻間町（山田果与乃 2119）。*は花が帯紅色の型である。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

千島列島、サハリンからヒマラヤにかけて分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。山地では特に稀少と言うほどではないが、どこにもあるというわけでもない。丘陵地ではほとんど見られない。名古屋市内で見たという報告もあるが、確実な資料はない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

自然度の高い林床に生育しているため、観察の際には踏み荒らしに注意する必要がある。腐生植物が生育しているのは多くの場合安定した環境の場所であるから、継続的なモニタリングをしてもよい。

【似た種類】

アキノギンリョウソウとの区別についてはその項参照。

【関連文献】

保草 I p.235, 平 4 p.226, RDB なごや 2015 p.85.

アキノギンリョウソウ *Monotropa uniflora* L.

【概要】

葉緑素を持たない腐生の多年生草本。山地の腐植質に富んだ林内に生育し、ギンリョウソウと共に自然林やよく発達した二次林の指標となる。本種も標本資料の蓄積はやや不十分で、今後詳細な県内分布を把握しておきたい植物の一つである。名古屋市 VU。

【形態】

多年生草本。全体に白色だが、乾くと黒くなる。茎は1~数本が束生し、高さ10~30cmになる。葉は鱗片状で互生し、卵状長楕円形、上部に不規則な歯牙がある。花期は8~9月、茎の先端に1個の花を下向きにつけ、がく片は3~5枚、卵状長楕円形、花弁も3~5枚で長楕円形、長さ1.5~2cm、内側に白毛があり、外側に短毛が密生する。花柱は太く短く、上端は広がって黄褐色の柱頭となる。果実はさく果で上向きにつき、球形または球状楕円形、長さ1~1.5cmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1日本ヶ塚山（小林 48060）、2坂宇場（村松 25836）、3振草（芹沢 63563）、7岩古谷山（榑原利修 1368）、8鳳来寺山（加藤等次 1987）、13財賀寺（小林 64120）。西：19伊熊（小林 64276）、20伊勢神峠（塚本威彦 2151）、23愛知県緑化センター（岡田兼光 2）、24焙烙山（山崎玲子 2046）、25御船町（山崎玲子 2106）、30池金町（小林 58252）。尾：37a上半田川町（塚本威彦 802）、37b新居（村松 22009）、48廻間町（山田果与乃 180）、50守山区吉根（鳥居ちゑ子 2037）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

ギンリョウソウよりはやや少ない植物である。ただし丘陵地では、稀であるが、ギンリョウソウに比べれば見る機会が多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

自然度の高い林床に生育しているため、観察の際には踏み荒らしに注意する必要がある。腐生植物が生育しているのは多くの場合安定した環境の場所であるから、継続的なモニタリングをしてもよい。

【似た種類】

ギンリョウソウによく似ているが、秋に開花し、果実は蒴果である。ギンリョウソウモドキとも呼ばれる。同属のシャクジョウソウ *M. hypopitys* L.（県 NT）は植物体が淡黄褐色で、花は茎の先端に4~8個つく。

【関連文献】

保草 I p.235、平 4 p.226、RDB なごや 2015 p.266。

サツキ *Rhododendron indicum* (L.) Sweet

【概要】

増水時には流水に洗われるような川岸の岩場に生育する低木。初夏によく目立つ赤い花を咲かせる。愛知県では山間部の川岸に点在しているが、護岸工事や河川改修による影響を受けやすい。良好な溪流沿い環境の指標となる。川岸以外には生育していない。

【形態】

半常緑性の低木。よく分枝し、高さ0.5～1mになる。若枝や葉柄には、赤褐色の毛状鱗片が多い。葉は短い柄があり、葉身は長楕円形～線状楕円形、大きいもので長さ2.5～4cm、幅7～12mm、先端は短くとがり、基部は狭いくさび形、辺縁は全縁、葉縁や両面に赤褐色の毛がある。花期は5月下旬～7月中旬、花冠は朱色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で5中裂し、直径4～6cmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 西薊目 (小林 43997)、4 蓋野島 (小林 46084)、6 田峯 (芹沢 66172)、7 神田 (芹沢 66244)、9 黄柳野 (芹沢 54974)、10 玖老勢 (芹沢 65646)、11 大和田 (小林 51992)、12 日吉 (芹沢 59223)。西：5 押山 (小林 44529)、19 時瀬 (芹沢 62002)、20 御内蔵連 (芹沢 55500)、21 大林 (芹沢 61988)、22 百月 (日比野修 2219)、24 矢並町 (山崎玲子 1942)、28 明見 (小林 51885)。尾：37a 蛇ヶ洞川 (日比野修 1265)、45 栗栖 (芹沢 69592)、48 外之原町 (日比野修 2246)。

【国内の分布】

本州 (東北地方南部以西)、九州。ただし九州本土では稀である。南限は屋久島。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県ではもちろん普通種ではないが、現在のところはまだあちこちに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【保全上の留意点】

カワラハンノキ (267 頁) などに比べれば小型の樹木で生長も遅いから、不必要に枝を折らないよう注意が必要である。危険な岩場に生育していることも多く、安全上の配慮も必要である。

【特記事項】

庭木として広く栽培され、多数の園芸品種がある。また、愛知県には本種と同じような場所に生え、植物体の形状も本種に似ているが、開花期が4月下旬から5月中旬でサツキより1ヶ月ほど早い植物がある。ヤマツツジの溪岸型と思われるが、詳細な検討が必要である。

【関連文献】

保木 1 p.162-163, 平 4 p.243.

ミカワツツジ *Rhododendron kaempferi* Planch. var. *mikawanum* (Makino) Makino

【概要】

愛知県とその周辺のやせた丘陵地に固有のヤマツツジの一型。この地域を特徴づける植物の一つとして、注意して観察しておきたい。

【形態】

一部常緑性の低木。よく分枝し、高さ0.5~1mになる。若枝や葉柄には、赤褐色の毛状鱗片が多い。葉は長さ1~5mmの柄があり、葉身は長楕円形、大きいもので長さ2~4cm、幅8~15mm、先端は鈍頭、基部も同形、辺縁は全縁、葉縁や両面に赤褐色の毛がある。花期は4~5月、花冠は漏斗形で5中裂し、直径2.5~4cm、色は変異があるが基本的に紅紫色系で、上側内面に濃色の斑点がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 黄柳野（瀧崎 30853）、12 中宇利（芹沢 55641）、13 一宮町東上（芹沢 64719）、14 相楽町（井上美保子 134）、15 多米町（龍川良克・郁子 138）、16 原町（小林元男 65890）、17 衣笠山（51267）、赤羽根町高松北（小林 41402）、18 堀切町城山（芹沢 89112）。西：19 小渡（芹沢 64954）、20 野林（新井文子 265）、21 花沢（長谷川朋美 134）、23 御作（芹沢 54925）、24 国附町（芹沢 64619）、25 猿投山（土場トシ子 435）、26 水源町（落合鈴枝 783）、27 筋生（芹沢 60980）、29 桑原町（中西普佐子 539）、30 桑谷町（本多さおり 190）、31 深溝（金子律子 278）、32a 井ヶ谷町（芹沢 45486）、33 赤松町（堀田喜久 1263）、36 東幡豆三ヶ根山（壁谷重美子 330）。尾：37a 海上町（芹沢 75443）、37b 新居町（村松 26795）、38a 熊張（半田多美子 2734）、38b 岩崎（半田多美子 130）、39b 沓掛町（浅野守彦 1248）、40b 石浜（渡邊麻子 250）、41a 加木屋町（加藤雅憲 222）、41b 佐布里（芹沢 72888）、42a 板山（渡邊麻子 155）、42b 行人町（芹沢 76678）、42c 武豊二ツ峰（芹沢 65198）、43 大谷（芹沢 76655）、44a 布土（林彰一 72）、44b 豊浜小佐（大西博 384）、45 善師野（芹沢 51154）、48 玉野町（山田果与乃 1091）、50 守山区吉根（鳥居ちる子 1746）、名東区平和公園（鳥居 297）、51 天白区相生山緑地（渡辺幸子 5019）、緑区鳴海町水広下（芹沢 58288）。

【国内の分布】

愛知県のほか、岐阜県東濃地方の一部、三重県桑名市に生育している。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

【生育地の環境／現在の生育状況】

愛知県の丘陵地（東三河西部を除く）には基準変種のヤマツツジ var. *kaempferi* がほとんど分布しておらず、生育しているものは大部分がミカワツツジと考えられる。現在のところは個体数もかなり多いが、里山の森林化に伴い、次第に減少している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

花の色は、標本ではわからなくなってしまう。写真を撮影するなど副次的な方法を用いて、花色を記録しておくことが望ましい。

【似た種類】

ヤマツツジに比べ植物体は小さく、葉も花も小型で、花は紅紫色（ヤマツツジは朱色）である。しかし分布域の周辺部ではヤマツツジとの差が次第に不明瞭になり、花色以外の点では明確な違いが認められないものが出てくる。こうなると、ヤマツツジの紅紫色花品種であるムラサキヤマツツジとの関係がよくわからなくなる。

【関連文献】

平 4 p.244.

アオキ *Aucuba japonica* Thunb.

【概要】

山地の林内に生育する常緑性の低木。ごく普通に見られる種類だが、ニホンジカが好んで食べるため、食害にあうと最初に消える植物の一つである。被害状況をモニタリングする上で、特に注目しておきたい植物である。

【形態】

常緑性で雌雄異株の低木。高さ2~3mになる。枝は太く、緑色で無毛である。葉は対生し、長さ1~4cmの柄があり、葉身は楕円形、長さ8~20cm、幅2.5~8cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形、革質、無毛、表面は濃緑色で光沢があるが標本では黒変し、上部の辺縁にあらわな鋸歯がある。花期は3~4月、枝先に円錐花序をつけ、花は直径8~10mm、花弁は4枚で通常紫褐色である。果実は楕円形、長さ1.2~2cmで赤く熟す。花弁が緑色のものはアオバナアオキ *form. viridiflora* Makino という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 大谷 (小林 41348)、4 白鳥山 (石田雄吉 273)、6 田峯 (石川静雄 74)、7 神田 (榑原利修 159)、8 鳳来寺山 (加藤等次 1139)、9 乗本 (小林 49302)、12 市庭野 (加藤等次 2674)、13 一宮町勝川 (瀧崎吉伸 12912)、豊川市豊川河川敷 (加藤等次 2446)、14 相楽町 (井上美保子 91)、15 多米町 (瀧崎吉伸 10879)。西：5 大野瀬町 (瀧崎 23296, T)、19 伊熊 (芹沢 64919)、20 上佐切 (鈴木万里重 149)、21 東大沼 (長谷川朋美 100)、22 道慈 (塚本威彦 992)、23 折平 (日比野修 1282)、24 国附町 (佐藤久美子 166)、六所山 (山崎玲子 43)、25 猿投山 (芹沢 48467)、26 豊栄町 (石川敏 180)、27 福谷 (臼井里華 159)、28 夏山 (福岡義洋 74)、29 矢作町 (中西普佐子 302)、30 鉢地町 (本多さおり 135)、31 須美 (金子律子 150)、33 別郷町 (堀田喜久 3282)、35 西浅井町 (芹沢 66253)、36 幡豆町三ヶ根山 (壁谷重美子 327)。尾：37a 上半田川町 (塚本威彦 50)、38b 赤池 (村瀬美智子 921)、41b 新知 (加藤雅憲 110)、42a 萩 (渡邊麻子 215)、42b 雁宿町 (岡本久美子 69)、43 運内 (梅田零奈 180)、44a 富岡 (芹沢 83867*)、44b 内海 (大西博 258)、45 善師野 (芹沢 51139)、46a 高雄 (福岡義洋 3161)、47 大山 (村瀬正成 930083)、48 外之原町 (山田果与乃 20)、49a 鈴井町 (鈴木幸子 906)、49d 土器野新田 (芹沢 78644)、50 守山区小幡緑地公園 (鳥居ちよ子 258)、千種区城山町 (広部栄 137)、西区枇杷島町庄内川 (鈴木秀樹 1694)、51 天白区音聞山 (渡辺幸子 807)、54 尾西市富田木曾川 (渡辺幸子 849)、55 祖父江町祖父江木曾川 (鈴木秀樹 1592)、片原一色町 (水野峰子 306)、56 甚目寺町上萱津五条川 (鈴木秀樹 1590)、57 立田村下古川 (山田茂貴 448)、58 弥富野鳥園 (竹原芳子 652)。*はアオバナアオキである。

【国内の分布】

本州 (日本海側および中国地方を除く)、四国東部。北海道と本州日本海側には変種のヒメアオキ *var. borealis* Miyabe et Kudo、本州中国地方~琉球には変種のナンゴクアオキ *var. ovoidea* Koidz. が分布する。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、朝鮮半島南部、台湾に分布する。

【生育地の環境/現在の生育状況】

概要の項参照。しばしば庭木として植栽される。時に平野部の社寺林や河川敷の林などに生育していることもあるが、それらは栽培個体からの逸出である可能性が高い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	△		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

たくさんあったものが消失する過程を正確に観察するのは意外に難しい。できるだけ多くの現在食害がない場所で、林床の景観がわかるような写真を撮影しておくといよい。通常の個体写真は、このような場合役に立たない。

【関連文献】

保木 1 p.195-196, 平 4 p.265.

カワラマツバ *Galium verum* L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T.Yamaz.

【概要】

日当たりのよい草地ややや荒れ地状の場所に生育する多年生草本。特に河川の堤防に多く見られる。ワレモコウ、スズサイコ、オミナエシなどに比べて、やや攪乱のある草地を指標する植物である。

【形態】

多年生草本。茎は直立して高さ 50~100cm になり花時にはあまり枝を出さないが、夏から秋にはよく枝を分ける。葉は 8~10 枚輪生し、無柄、葉身は線形で長さ 1.5~4cm、幅 1~3mm、先端には短い刺があり、葉縁はやや裏側に巻く。花期は 5 月下旬から 7 月だが、残花は 8~9 月にも見られ、茎の先端や上部の葉腋から花序を出して多数の小さい花をつける。花色には変異があり、白色のものをカワラマツバ (狭義) form. *lacteum* (Maxim.) Nakai、淡黄色のものをウスイロカワラマツバ form. *luteorum* Makino という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:12 中宇利 (瀧崎 22410, T)、13 麻生田町 (加藤等次 1462)、向河原町 (小林 37575*)、15 石巻本町 (芹沢 71742, 71743*)、16 横須賀町 (小林 66307)、17 笠山 (芹沢 52212)。西: 20 追分 (新井文子 737)、21 平瀬 (長谷川朋美 862)、24 国附町 (佐藤久美子 567)、川田町 (山崎玲子 1446*)、25 田初町 (芹沢 62218)、26 畝部東町 (芹沢 66311, 中村さとし 457*)、29 渡町 (芹沢 66296, 66297*)、30 山綱町 (本多さおり 500)、合歓木町 (芹沢 66284*)、32a 野田町 (白井直子 25)、33 村高町矢作川 (堀田喜久 1662)、34b 三角町 (中村さとし 474)、35 西浅井町 (芹沢 66246, 66247*)。尾: 37b 柏井町 (村松 20696)、38b 三本木 (半田多美子 1169)、40b 森岡 (渡邊麻子 578)、41b 八幡 (加藤雅憲 330)、42a 草木 (渡邊麻子 479)、42b 中午町 (岡本久美子 469)、43 大谷 (芹沢 76810)、45 善師野 (平嶋敏 1499)、46a 小淵 (芹沢 65822)、46b 草井 (芹沢 65840*, 67505)、47 大山 (大谷敏和 61)、48 松河戸町 (山田果与乃 1581)、50 守山区吉根 (芹沢 84192)、52 中川区下之一色町 (鈴木秀樹 2468)、53 光明寺 (芹沢 71759, 71760*)、54 木曾川町里小牧 (芹沢 53027)、55 祖父江町木曾川 (鈴木秀樹 3932)、同川原 (芹沢 48769*)、56b 庄内川 (芹沢 92200*)、57 立田村木曾長良背割堤 (西尾芳徳 386)、福原 (山田茂貴 595*)。無印はカワラマツバ (狭義)、*はウスイロカワラマツバである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。種としてはユーラシア大陸北部に広く分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

愛知県の堤防の草地では最もよく目につく植物の一つである。北日本にも広く分布する植物であるが、愛知県の場合三河山間部にはほとんど生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【特記事項】

学名上の基準品種 form. *asiaticum* は花が黄色のもので、キバナノカワラマツバという。愛知県では、ウスイロカワラマツバはしばしばカワラマツバと混生して生育しているが、確実なキバナノカワラマツバはまだ確認されていない。

【関連文献】

保草 I p.110, 平 4 p.273-274.

カギカズラ *Uncaria rhynchophylla* (Miq.) Miq.

【概要】

暖地の常緑樹林内に生育する大形のつる植物。湾曲した刺があり、他木の梢にまで達する。県内に生育する代表的な暖地性植物の一つであるが、山が乾燥しているためか、渥美半島には生育していない。

【形態】

常緑性のつる植物。高さ 7~15m になる。根は細長い数珠状に肥厚する。葉は対生し、短い柄があり、葉身は長楕円状披針形~狭楕円形、長さ 7~13cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、両面無毛である。葉の基部には短い刺があることが多いが、ないこともある。花期は 4~5 月、花は枝先または葉腋に出る短い花序に 2 個ずつつき、下向きに咲く。花冠は白色、筒部は長さ約 9mm、先は 4 裂し、裂片は 3 角状卵形で先端がややとがり、長さ約 2mm である。果実は液果で球形、直径 3~5mm、赤熟する。葉裏の主脈、側脈上に毛があるものをアラゲカギカズラ form. *hispidula* (Kitam.) という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 古真立（芹沢 87912）、8 鳳来寺山（加藤等次 243）、10 布里椎平（小林 49784*）、12 横川（小林 50055*）、13 一宮町勝川（小林 50079*）、音羽町長沢（瀧崎 19348, T）、14 相楽町（小林 40241）、15 嵩山町（小林 49939）。西：28 鳥川町（千賀敏之, 2009 年）、29 村積山（芹沢 86323*）、31 遠望峰山（小林 59355*）、36 西幡豆八幡（小林 58957）。尾：37 広久手町（芹沢 74641）。ただしこれらの中で花や果実がついているのは、2 古真立の標本だけである。*はアラゲカギカズラにあたる型である。

【国内の分布】

本州（関東地方南部以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有だが、中国大陸南部に別変種がある。

【生育地の環境／現在の生育状況】

豊川の谷には比較的多いが、他では稀である。湖西丘陵では、静岡県側には多いが、愛知県側では少ない。尾張では、瀬戸市で 2m ほどに生育した 1 株が確認されているだけである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

開花結実する個体もあるが、高い場所のため、なかなか標本を採取できない。手の届くところで花や果実を見た場合には、必ず採取して標本を作成してほしい。本種のような樹木は、よほどの幼株でなければ、小枝を採取しても個体の存続に影響を与えることはない。幼株が 1 株しかない場合でも、安定した生育地でないことは明らかであるから、「確かにそこにあった」という確実な証拠を残す方が重要である。

【特記事項】

幼木の葉は表面に青紫色の光沢がある。

【関連文献】

保木 I p.63-64, 平 4 p.292-293.

リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

【概要】

晩秋に青紫色の花をつける多年生草本。一般的には山地や丘陵地の明るい林内や林縁に生育するが、湿地に生育することもある。湿地に生育するものは葉が細く、ホソバリンドウ form. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi と呼ばれる。名古屋市 EN。

【形態】

多年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 30～100cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は線状披針形～広披針形、長さ 4～10cm、先端は長く尖り、基部は円形、3 脈が目立ち、辺縁には微小な突起がある。花期は 10～11 月、花は茎の先端と葉腋につき、花冠は紫色で、内面に褐色の斑点があり、長さ 4～5cm、先端は 5 裂し、裂片の間に小形の副裂片がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

リンドウ (狭義) 東：1 大沼上 (小林 48882)、4 白鳥山 (石田雄吉 307)、6 段戸山 (芹沢 78242)、7 鹿島山 (芹沢 64492)、8 鳳来寺山 (芹沢 83837)、11 長ノ山湿原 (芹沢 50668)、12 大原調整池 (瀧崎 18231, T)、13 一宮町吉祥山 (小林 40445)、御油 (瀧崎 13959)、15 嵩山町 (芳山朋子 1355)、17 仁崎 (小林 55555)。西：5 中当て (芹沢 57867)、19 駒山 (芹沢 64311)、20 上国谷 (鈴木万里亜 1133)、21 下山田代町 (芹沢 83599)、22 荷掛 (鳥居ちゑ子 218)、24 押沢町 (芹沢 68880)、25 猿投山 (磯貝彰宏 1909)、27 三好ヶ丘 (芹沢 78417)、28 鳥川 (福岡義洋 1806)、29 切越町 (伊奈知子 1256)、30 桑谷町 (本多さおり 1111)。尾：37a 西山路町 (芹沢 74415)、37b 新居 (芹沢 53818)、45 善師野 (芹沢 54108)、47 大山 (日比野修 5066)。

ホソバリンドウ 東：6 川向 (芹沢 57874)、9 黄柳野 (芹沢 54063)、11 清岳 (芹沢 57888)、12 中宇利 (芹沢 54050)、13 千両町 (小林 40215)、15 岩崎町 (芹沢 57623)、16 細谷町 (芹沢 54097)、17 野田 (芹沢 54082)、赤羽根町高松 (小林 49414)、18 高木 (小林 49533)。西：20 則定 (芹沢 60853)、21 田代 (芹沢 64428)、23 西中山 (芹沢 50870)、24 山中町 (芹沢 57838)、25 太平町 (芹沢 60916)、27 黒笹 (臼井里華 1045)、30 竜泉寺町 (芹沢 71381)、32a 小堤西池 (芹沢 40924)。尾：37a 西山路町 (芹沢 74414)、37b 新居 (芹沢 53807)、38a 前熊 (半田多美子 1400)、38b 岩藤新田 (半田 1779)、42c 武豊二ツ峰 (林彰一 864)、43 久米 (芹沢 60686)、44a 布土 (芹沢 53661)、44b 大井 (大西博 1255)、45 池野 (芹沢・松田 308)、48 玉野町 (福岡義洋 2941)、50 守山区小幡緑地 (芹沢 54030)。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球 (奄美諸島)。

【世界の分布】

日本固有。基準変種 var. *scabra* は朝鮮半島、中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。愛知県では普通のリンドウの型はあまり多くなく、むしろホソバリンドウの型をよく見かける。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地		○		
水域				

【観察上の留意点】

ホソバリンドウについては、湿地を踏み荒らさないよう、注意が必要である。

【似た種類】

中部山岳地帯まで行けばエゾリンドウ、オヤマリンドウなどやや識別の難しい種があるが、愛知県では似た植物はない。

【特記事項】

ホソバリンドウは、ウメバチソウやヤマラッキョウとともに、湿地で最も遅く咲く花の一つである。

【関連文献】

保草 I p.221, 平 4 p.297-298, RDB なごや 2015 p.200.

ハルリンドウ *Gentiana thunbergii* (G. Don) Griseb.

【概要】

日当たりのよい湿地に生育する小型の植物。春早く青紫色の花を咲かせる。全国的にはやや稀少な植物であるが、本地域では湧水湿地の春を飾る代表的な花となっており、ほとんどの湿地にも見られ、個体数も多い。山間の水田のあぜ道ややや湿った草地等にも生育している。

【形態】

越年生草本。茎は高さ 5-23cm、やせた個体ではほとんど分枝しないが、よく発育した個体では基部で分岐して叢生する。茎の基部数対の葉は比較的大型で、節間がつまってロゼット状になり、広卵形～広披針形、長さ 4.5cm、幅 2cm に達する。花は低地では 3 月末から咲き始め、山間部では 5 月中旬まで見られる。花冠は長さ、直径とも 2-3cm、5 裂して、各裂片の間にも小さい突起があり、通常青紫色であるが、白いもの（シロバナハルリンドウ form. *albiflora* Akasawa）や淡紅紫色のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 黄柳野（芹沢 54715）、11 中河内（芹沢 55049）、12 吉川（芹沢 64559）、13 音羽町長沢（芹沢 30865）、15 石巻萩平町（芹沢 64696）、17 野田（芹沢 54398, 54399**）、18 高木（芹沢 58210）。西：20 追分（芹沢 69049）、21 黒坂（芹沢 54492, 小林 50621*）、22 北篠平（芹沢 58071）、23 北一色（日比野修 1032, 芹沢 48090*）、24 西広瀬町（芹沢 64589）、上高町（山崎玲子 2136*, 2135**）、25 大平町（土場トシ子 414）、27 黒笹（白井里華 129**, 187）、28 大代（芹沢 64746）、29 切越町（伊奈知子 28）、30 竜泉寺町（芹沢 69089）、31 須見（芹沢 51289）、36 幡豆町東幡豆大沢（壁谷重美子 196）。尾：37a 瀬戸市定光寺町（日比野修 1077）、広久手町（芹沢 75323）、38a 岩作（芹沢 77179）、38b 岩藤新田（芹沢 54331）39b 杓掛町（芹沢 58281）、41b 岡田（竹内早一 2）、42a 植大（林彰一 1）、42c 富貴（林彰一 12）、43 運内（梅田零奈 291）、44a 布土（林彰一 5）、45 前原（福岡義洋 3036）、47 石金（大谷敏和 2）、48 廻間町（芹沢 54351, 山田果与乃 472*）、50 守山区上志段味（芹沢 54349）、同小幡緑地（芹沢 54347）、51 天白区植田（渡辺幸子 2041）。*はシロバナハルリンドウ、**は花が淡紅紫色のものである。

【国内の分布】

本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。東三河北部には分布していない。豊橋市南部から渥美半島にかけてもあまり多くない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	△	○		
水域				

【観察上の留意点】

湧水湿地には本種以外にも多くの貴重な植物が生育している。本種は湧水湿地以外の場所にも生育しているから、湧水湿地での観察はできる限り避けるべきである。湧水湿地以外の場所でも、周囲には多くの場合他の植物がたくさん生育しているから、不必要に踏み荒らさないよう注意が必要である。

【特記事項】

花は晴れた日の日中だけ開き、曇りの日や夕方には閉じてしまう。

【関連文献】

保草 I p.220, 平 4 p.296.

ヤマドリソウ *Nihon japonicum* (Thunb.) A.Otero et al.

【概要】

山地の沢沿いに生育する多年生草本。4～5月に青色の花を咲かせる。林内に生育する草本植物の中では、よく目を引くものの一つである。

【形態】

多年生草本。根茎は斜上する。根出葉はロゼット状に広がり、翼のある柄があり、葉身は長楕円形～卵状倒披針形、長さ5～20cm、幅1.5～5cm、先端は鈍頭～鋭頭、両面に毛がある。茎は斜上し、長さ8～30cm、茎葉は無柄で基部が多少茎を抱くこともある。花期は4月中旬～5月、茎の先端や上部の葉腋から花序を出し、5～10個の花を総状につける。花序の軸ははじめ短い、次第に伸びる。花冠は5裂し、直径8～11mm、通常青紫色だが白いものもあり、シロバナヤマドリソウ *form. albiflorum* (S.Okamoto ex H.Hara) と呼ばれる。花冠が淡紅色のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 瀬戸（芹沢 51335）、2 奥山川（芹沢 51342）、3 大入溪谷（芹沢 48118）、6 川向（小林 41887, 41888*）、7 和市（芹沢 69010）、8 亀淵林道（瀧崎 22787, T）、長篠（小林 36168*）、10 布里（加藤等次 1275）。西：5 大野瀬（小林 41870**）、夏焼温泉（福岡義洋 3243）、19 小渡（塚本威彦 567）、20 下国谷（鈴木万里亜 80）、新盛（山崎玲子 1835*）、21 平瀬（芹沢 60998）、22 涼堂（塚本威彦 877）、23 御作（日比野修 2768*）、24 国附町（畑佐 3070）、25 猿投山（畑佐 1592, 3105*）、28 闇苧溪谷（千賀敏之, 2011年）。尾：37a 北白坂町（塚本威彦 493, 2773*）、45 八曾（村瀬正成 A87）。*はシロバナヤマドリソウ、**は花が淡紅色のものである。

【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

山地には広く分布しており、個体数も少ないものではない。丘陵地にはほとんど生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種は林内のやや閉鎖的な環境に生育する種で、どんどん繁殖するような植物ではない。観察に際しては個体群の維持に影響を与えないよう心がけるべきである。道沿いの斜面に生育していることが多いので、観察時に斜面を崩さないよう注意が必要である。また、

【特記事項】

ハイルリソウ *N. proliferum* (Ohwi) A.Otero et al. (県 EX) は故井波一雄氏によって瀬戸市定光寺付近で発見された種で、本種に比べ葉に長毛だけがあり、花茎の下方から新しい枝を出す点で異なるという。自生地が豪雨によって崩壊し絶滅したと言われるが、井波氏以外に自生地を見た人がなく、本種と明確に区別できるかどうかを含めて実体のはっきりしない種である。それらしいものがないか、特に注意が必要である。

【関連文献】

保草 I p.198, 平 5 p.56-57.

ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) R.Br.

【概要】

代表的な海浜植物。初夏の砂浜に、淡紅色の花をたくさん咲かせる。通常は自然度の高い砂浜に生育するが、コウボウムギなどと異なり、護岸の間などにも生育することがある。

【形態】

多年生草本。地下に長い匍匐茎がある。地上茎は細く、地表に出たところで分枝するが後はあまり枝を分けず、地表を這って長いものは1m以上になる。葉は互生し、長さ1.5~6cmの柄があり、葉身は長さ1.5~3cm、幅2~5cm、先端は円形かやや凹形で微凸端、基部は心形、表面は無毛で光沢がある。花期は4月下旬から7月、花は長さ4~10cmの柄があり、苞は2枚で卵形~卵状三角形、長さ10~15mm、花冠は淡紅色で長さ4~5cm、日中平開する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 西浦町（鈴木美恵子 52）、16 寺沢町（金子律子 4-11）、17 久美原海岸（瀧崎 13072）、18 堀切町（瀧崎 29283, T）。西：34a 芳川町（瀧崎 33104, T）、34b 川口町（中村さとこ 229）、35 西奥田町（中村さとこ 270）、36 吉良町宮崎（堀田喜久 237）、東幡豆中之浜海岸（壁谷重美子 406）。尾：40b 藤江（中村裕治 590）、42b 中億田町（岡本久美子 315）、43 新田町（梅田零奈 374）、44b 内海（大西博 465）、51 南区加福町（渡辺幸子 4032）、52 港区空見町（一井尚子 131）、57b 立田村福原背割堤（山田茂貴 591）、58b 栄南（芹沢 74633）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。自然度の高い砂浜ならば普通に見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

砂の移動が激しい場所に適応した植物であるため、踏みつけなどにも耐性があり、比較的気遣いしなくてよい植物である。多少ならば、地下部を掘ってみてもよい。海浜の植物がいかに苦労して厳しい環境に対応しているか、よく理解できる。

【特記事項】

グンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet は暖地の海浜に生育する植物で、愛知県でも伊良湖岬などに漂着して生育する可能性があるが、確実な記録はない。

【関連文献】

保草 I p.204, 平 5 p.24.

ヤマハッカ *Isodon inflexus* (Thunb.) Kudo

【概要】

日当たりのよい草地や林縁に生育する多年生草本。代表的な草地性の植物の一つである。花は青紫色で秋に咲き、大きくはないが多数つくので、それなりに目立つ。ワレモコウやオミナエシと共に、安定した草地環境の指標となる。名古屋市 EN。

【形態】

多年生草本。地下茎は塊状で木質化する。地上茎は斜上し、長さ 60~100cm になる。葉は対生し、有翼の柄があり、葉身は広卵形~3 角状広卵形、長さ 3~6cm、先端は鋭頭~やや鈍頭、辺縁にはあらい鋸歯がある。花期は 9~10 月、上部の葉腋に短い集散花序がついて全体としてまばらで細い穂状になり、がくは 5 中裂し、花時に長さ 2.5~3mm、花冠は長さ 7~10mm、青紫色で、上唇に紫色の斑点がある。花の白いものをシロバナヤマハッカ form. *leucanthus* (Nakai) H.Hara という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 東納庫（芹沢 57091）、7 鹿島山（芹沢 63535）、8 長篠（加藤等次 2145）、12 中宇利（芹沢 79526、小林 65414*）、14 坂本町（井上美保子 573）、15 石巻萩平町（芹沢 68575）、16 西赤沢町（小林 40317）、17 東浜田（小林 40421）、18 亀山（芹沢 57935）。西：5 押山（小林 48262*）、19 笹戸（芹沢 63789）、20 上国谷（芹沢 68650）、21 東大沼（長谷川朋美 934）、22 大洞（伊藤泰輔 71）、23 上川口（塚本威彦 439）、24 西広瀬町（芹沢 68197）、25 猿投山（磯谷彰宏 1791）、28 下衣文（福岡義洋 1343）、夏山（福岡 1743*）、29 茅原沢町（芹沢 68075）、30 鉢地町（本多さおり 1032）、31 深溝（金子律子 1386）、36 東幡豆谷村（芹沢 68942）。尾：37a 吉野町（芹沢 75134）、37b 新居（村松 21030）、39b 栄町（浅野守彦 1474）、41a 大田町（吉鶴正則 921）、44a 上野間（芹沢 77746）、44b 篠島（芹沢 90851）、45 栗栖（芹沢 53772）、48 細野町（竹原芳子 338）、49c 師勝町合瀬川（鈴木幸子 291）、50 守山区下志段味（鳥居ちゑ子 546）。*はシロバナヤマハッカである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

山地や丘陵地では普通に見られるが、平野部での生育地は河川堤防などに限られ、それもかなり稀である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

標本の多くは 1990 年代に採集されたもので、ごく最近の状態は十分確認されていない。このあたりでもう一度正確な分布状態を記録しておきたい。

【似た種類】

愛知県に生育する同属の植物としては、後述するセキヤノアキチョウジ、アキチョウジのほか、ヒキオコシ *I. japonicus* (Burm.f.) H.Hara、イヌヤマハッカ *I. umbrosus* (Maxim.) H.Hara、タカクマヒキオコシ *I. shikokianus* (Makino) H.Hara var. *intermedius* (Kudo) Murata などがあるが、いずれも本種とは形態がはっきり異なる。それぞれ生育環境に特徴があるので、本種と共に観察するとよい。

【関連文献】

保草 II p.164, 平 5 p.142, RDB なごや 2015 p.204.

セキヤノアキチョウジ *Isodon effusus* (Maxim.) H.Hara

【概要】

山地の沢沿い林内に生育する多年生草本。秋に青紫色の長い筒状の花をつける。東日本系の植物で、よく似た西日本系のアキチョウジと、愛知県で東西に分布域を分けている。どこが境界線か、接触地点はないか、アキチョウジと共に詳細な分布を確認しておきたい植物である。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 70~120cm になり、断面は四角形である。葉は対生し、下部のものは長さ 1.5~3cm の柄があるが上部のものは無柄、葉身は長楕円形~卵状長楕円形、長さ 6~20cm、幅 3~6.5cm、先端は鋭尖頭、辺縁には基部近くを除いて鋸歯がある。花期は 9~10 月、花序は茎の先端や中上部の葉腋から出て開出し、多数の花を集散状につける。花序の枝は長さ 2cm 以上になり、苞はほとんどつけない。花は筒形、長さ 1.5~2cm、通常青紫色だが、時に白いもの (シロバナセキヤノアキチョウジ form. *leucanthus* (Honda) H.Hara) もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 佐久間ダム鰻樽沢 (村松 14342)、3 御園 (芹沢 21466)、4 水梨川 (芹沢 83545)、6 川向 (芹沢 38737)、7 和市 (芹沢 64076)、8 海老 (芹沢 64279)、10 塩瀬 (小林 48592)、11 高松 (芹沢 67915, 67916*)、12 中宇利 (小林 48908)、13 一宮町長山~本宮山 (小林 39596)、15 石巻中山町~中山峠 (瀧崎 15367)。西：5 中当 (芹沢 53713)、21 野原 (芹沢 63769)、28 本宮山 (小林 40179)。*はシロバナセキヤノアキチョウジである。

【国内の分布】

本州 (関東地方、中部地方)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境/現在の生育状況】

分布域内では点在しており、それほど少ないわけではない。丘陵地には生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

長い花筒はマルハナバチ媒花の特徴である。野外でもしばしば訪花しているマルハナバチ類を見ることがある。

【似た種類】

アキチョウジとの区別についてはその項参照。

【関連文献】

保草 I p.164, 平 5 p.142.

アキチョウジ *Isodon longitubus* (Miq.) Kudo

【概要】

山地の沢沿い林内に生育する多年生草本。秋に青紫色の長い筒状の花をつける。西日本系の植物で、よく似た東日本系のセキヤノアキチョウジと、愛知県で東西に分布域を分けている。どこが境界線か、接触地点はないか、セキヤノアキチョウジと共に詳細な分布を確認しておきたい植物である。

【形態】

多年生草本。前頁に掲載したセキヤノアキチョウジによく似ているが、花序の枝はあまり開出せず、花序の枝や花柄は長さ 1cm 以下、そのため花序は全体に細く見え、苞葉が目立ち、がくは切れ込みが浅い。花は通常青紫色であるが、時に白いもの（シロバナアキチョウジ form. *albiflorus* (Makino) H.Hara もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 音羽町宮路山（小林 48210）、14 御堂山（芹沢 36078）、15 岩崎町（小林 60226）、17 仁崎（小林 73766）。西：5 夏焼町（芹沢 83539）、押山（塚本威彦 2549*）、19 坪崎（芹沢 63187）、20 追分（芹沢 71065）、22 北大野（伊藤泰輔 114）、23 木瀬（日比野修 816）、24 国附町（芹沢 68128）、25 猿投山（芹沢 86575）、28 夏山（福岡義洋 1750）、30 上衣文町（小林 60203）、鉢地町（本多さおり 1019*）、31 遠望峰山（芹沢 78224）、35 下羽角町（堀田喜久 4734）、36 幡豆町東幡豆大沢（壁谷重美子 1162）。尾：37a 上品野町（日比野修 743）、広久手町（芹沢 75153）、45 八曾（松田ちか子 1004）、48 外之原町（芹沢 68551）。*はシロバナアキチョウジである。

【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

分布域内では点在しており、それほど少ないわけではない。丘陵地には生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

長い花筒は、セキヤノアキチョウジと同様にマルハナバチ媒花の特徴である。野外でもしばしば訪花しているマルハナバチ類を見ることがある。

【似た種類】

セキヤノアキチョウジとの区別については形態の項参照。

【関連文献】

保草 I p.164, 平 5 p.142.

ハナイカダ *Helwingia japonica* (Thunb.) F.G.Dietr.

【概要】

山地の沢沿いに生育する落葉性の低木。葉の中央に花がつくという変わった形態をしているため注意をひきやすく、観察の対象として面白い植物である。ニホンジカの食害を受けやすく、そのモニタリングという点でも好適な植物である。標本資料の蓄積はやや不十分である。

【形態】

落葉性で雌雄異株の低木。高さ 3m くらいになる。葉は互生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は楕円形~倒卵形、長さ 4~13cm、幅 1.5~7cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形~円形、表面は緑色で光沢があり、辺縁には低い先が尖る鋸歯がある。花期は 5~6 月、花は緑色で小さく、葉表の中肋上に雄花は数個が束生し、雌花は通常 1 個つく。果実は球形、直径 7~11mm、液果で黒色に熟す。葉が小さいものをコバノハナイカダ var. *parvifolia* Makino という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 大入溪谷（加藤等次 3245）、4 白鳥山（石田雄吉 275）、8 長篠（加藤等次 2774）、9 下吉田（瀧崎 29645, T）、13 三上町（瀧崎 16299, T）、15 嵩山町（芳山朋子 483）。西：19 伊熊（芹沢 64933）、20 大河原（新井文子 459）、21 平瀬（芹沢 61347）、22 大ケ蔵連（日比野修 2040）、23 北曾木（日比野修 380）、24 国附町（芹沢 81221）、25 猿投山（土場トシ子 524）。尾：37a 広久手町（芹沢 75459）、44b 内海（芹沢 61434）。このほかコバノハナイカダと思われるものが、東：11 保永（芹沢 65065）、12 富岡（芹沢 61528）、13 三上町（加藤等次 4353）にある。

【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州。本州中西部、四国、九州に変種のコバノハナイカダ、琉球に亜種のリュウキュウハナイカダ subsp. *liukuensis* (Hatus.) H.Hara et S.Kuros.がある。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、台湾、中国大陸に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

山地ではどこにもあるというほど多くはないが、特に稀少ということはない。丘陵地ではほとんど見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

ハナイカダとコバノハナイカダは倍数性が異なることが知られているので、本来ならば両者を識別して観察する必要がある。ただし愛知県のものについては、倍数性の確認を含めて、詳細な検討は行われていない。

【特記事項】

若芽はママッコと呼ばれ、食用になる。ニホンジカが好むのも当然である。

【関連文献】

保木 I p.194-195, 平 5 p.178-179.

サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.

【概要】

秋の湿地を飾る植物の一つで、茎は高く伸び、紫色の花をつける。一昔前まではあちこちに見られる種類であったが、近年次第に減少しており、正確な現状把握が望まれる。名古屋市 VU。

【形態】

多年生草本。茎は中空で分枝せず、高さ 70~120cm、無毛である。葉は多数が互生し、無柄、葉身は披針形で長さ 4~7cm、先端は漸尖し、基部は円形、辺縁には低い鋭鋸歯がある。花期は 8~9 月、上部の葉がしだいに小型となって長い総状花序に移行する。花には 5~12mm の柄があり、花冠は唇形で濃紫色、長さ 2.5~3cm、上唇は 2 深裂、下唇は 3 浅裂し、裂片の縁に長毛がある。さく果は球形で、長さ 8~10mm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:6 川向 (芹沢 56846)、11 菅沼 (芹沢 68016)、13 一宮町大木 (芹沢 53585)、15 岩崎町 (芹沢 53539)、16 小松原町 (小林 70382)、17 野田 (芹沢 53625)。西:19 坪崎 (芹沢 63160)、20 大河原 (芹沢 71075)、21 下山田代町 (芹沢 90683)、22 田代 (伊藤泰輔 72)、23 北一色 (芹沢 78328)、24 西広瀬町 (芹沢 68221)、25 大池町 (芹沢 53792)、27 筋生 (芹沢 63922)、28 鹿勝川 (福岡義洋 1355)、29 大柳町 (芹沢 87965)、30 龍泉寺町 (芹沢 60834)。尾:37a 門前町 (芹沢 76393)、38a 愛知青少年公園 (芹沢 76316)、45 今井 (芹沢 78121)、48 廻間町 (山田果与乃 634)、50 守山区吉根 (芹沢 77660)、千種区平和公園 (鳥居ちゑ子 2030)、51 天白区八事裏山 (芹沢 56190)、緑区鳴海町水広下 (芹沢 59842)。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

カムチャッカから中国大陸、シベリア東部にかけて分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

湿地に生育し、通常群生する。愛知県では、溜池の周辺や湧水湿地下部の泥質の場所に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【観察上の留意点】

本種が生育するような典型的な湧水湿地でもなければ典型的な低湿地でもない場所は、開発圧力が高く、保全の対象になりにくい。そのため本種も、見る機会が次第に減少してきている。注意して現状を記録しておく必要がある。一方で本種は花が美しいため、本来生育していなかった場所に植え込まれることがある。このような行為はその場所の本来の自然を攪乱するだけでなく、生物の分布情報を混乱させ、どれが保全すべき自然か、わからなくしてしまう。「ない」というのも生物多様性の一つであり、余計なものを付け加えるのはその「ない」状態を失わせる自然破壊行為である。このことを忘れてはならない。

【似た種類】

特徴的な形態の植物で、在来種の中では識別に迷うようなものはない。

【特記事項】

秋の湿地では、最も目につく花の一つである。多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【関連文献】

保草 I p.91, 平 5 p.192-193, RDB なごや 2015 p.276.

ノアザミ *Cirsium japonicum* (Thunb.) Fisch. ex DC.

【概要】

草地に生育する多年生草本。山地から人里周辺まで生育しており、初夏に紅紫色の花をつける。特に人里周辺に生育しているものは、良好な里草地の指標植物として重要である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、中上部で枝を分けて高さ 50~100cm になり、白綿毛が多い。基部の根出葉は花時にも残る。茎葉は互生し、長さ 10~20cm、幅 3.5~8cm、羽状に中~深裂し、裂片は更に中裂することが多く、先端は鋭頭、基部は茎を抱き、表裏とも毛がある。葉縁の刺は鋭い。花期は 5~6 月だが残花は夏まで見られ、時に秋にも咲くことがある。頭花は茎や枝の先端に 1 個ずつつき、上向きで直径 4~5cm、総苞は幅 1~1.5cm で、片は粘る。頭花は通常紅紫色であるが、時に白いもの（シロバナノアザミ form. *leucanthum* Nakai）や淡紅色のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 本郷（小林 44301*）、4 面ノ木峠天狗棚（鈴木学 1235）、7 平山（榊原利修 480）、8 鳳来寺山（加藤等次 1419）、9 下吉田（瀧崎 32529, T）、10 布里枳沢（加藤 1368）、12 吉川（芹沢 54955）、13 一宮町東上（芹沢 61751*）、御油町（瀧崎 13182）、14 清田町（井上美保子 253）、15 多米町（瀧崎 11419）、16 野依町（瀧崎 12038）、17 百々（瀧崎 9485）、18 伊良湖（松井紀枝 175）。西：5 押山（横井邦子 315）、19 伊熊（芹沢 61685）、20 下国谷（鈴木万里亜 430）、大蔵（山崎玲子 2977*）、21 東大沼（長谷川朋美 267）、梶（芹沢 61950*）、22 大平（鳥居ちゑ子 83）、23 木瀬（日比野修 386）、24 東広瀬町（佐藤久美子 833）、25 白浜町（土場トシ子 82）、太平町（芹沢 61911*）、27 福谷（白井里華 396）、28 鳥川（福岡義洋 318）、29 奥殿町（杉田一記 607）、日名本町（杉田 1289*）、30 羽栗町（本多さおり 197）、31 菱池（金子律子 342）、32a 小堤西池（芹沢 46195）、33 木戸町（堀田喜久 839）、34b 三角町（中村さとこ 1110）、35 西浅井町（中村 407）、36 東幡豆大沢（壁谷重美子 384）。尾：37a 北丘町（日比野修 1417*）、広久手町（芹沢 75756）、37b 新居町（村松 21314*）、38a 長湫（半田多美子 2841*）、38b 米野木町（岡本沙矢香 252）、39b 阿野町（浅野守彦 1303）、40b 石浜（渡邊麻子 329）、41b 佐布里（加藤雅憲 321）、42a 草木（渡邊麻子 692）、42b 行人町（岡本久美子 329）、43 運内（梅田零奈 406）、44a 奥田（岡本沙矢香 294*, 370）、44b 篠島（芹沢 90850）、45 八曾（松田ちか子 347）、46a 山那（上山秀郎 83）、47 大山（村瀬正成 930341）、48 細野町（竹原芳子 64）、49c 師勝町熊之庄（鈴木幸子 183）、49d 新川町土器野新田（芹沢 78532）、50 守山区上志段味（鳥居ちゑ子 1825*）、同大森北（芹沢 92719）、千種区月ヶ丘（鳥居 2315）、51 天白区道明町（渡辺幸子 327）、52 中川区富田町（高木順夫 234）、53 浅井町（遠藤浩三、2002 年）、54 尾西市富田（渡辺幸子 942）、55 船橋町（水野峰子 329）、56b 八ツ屋（芹沢 92188）、57b 立田村森川（伊藤静江 878）、長良川（芹沢 74587*, 74588**）。*はシロバナノアザミ、**は花が淡紅色のものである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。平野部ではそれほど少くはないが、どこにもあるというわけでもない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○	○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種は江戸時代に多くの園芸系統が作出され、栽培された。そのため時に園芸系統らしいものが逸出していることがあるので、観察する場合は注意が必要である。

【似た種類】

アザミ属は多くの種類があるが、初夏に咲くのは本種だけである。

【関連文献】

保草 I p.37, 平 5 p.227.

スイラン *Hololeion kramerii* (Franch. et Sav.) Kitam.

【概要】

日当たりのよい湿地に生育する多年生草本。似た種類はなく、識別は容易である。貧栄養の湧水湿地から休耕田のような泥質の湿地まで生育している。丘陵地から低山地にかけての湿地では比較的多く見られるが、知多半島や渥美半島では稀である。

【形態】

多年生草本。茎は、湧水湿地中央部の礫質の場所に生育するものでは高さ 20-30cm にすぎないが、泥質の部分や休耕田、溜池の周辺などに生育するものでは高さ 150cm 近くになる。根出葉は線形、葉柄を含めて長さ 50cm に達し、全縁または辺縁に少数の突起がある。花期は 9 月中旬から 10 月、頭花は黄色、稀に黄白色で、直径 3-3.5cm、総苞は細い筒状で長さ 10-12mm、その下には披針形の小さい苞葉がならぶ。小花はすべて舌状花で、17~30 個つく。そう果は長さ 7-9mm で、淡褐色の冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 能本（小林 39307）、6 川向（芹沢 53719）、11 岩波（芹沢 57415）、12 有海（小林 40005）、13 一宮町大木（芹沢 53586）、御津町豊沢（小林 40254）、15 岩崎町（芹沢 53524）、16 細谷町（芹沢 53566）、17 田原町クルミ池（小林 48407）、18 亀山（小林 49253）。西：19 八幡牧場（芹沢 57561）、20 追分（芹沢 53915）23 深見（塚本威彦 352）、24 扶桑町（芹沢 50575）、25 浄水町（芹沢 50717）、27 黒笹（芹沢 50793, 50794*）、28 夏山（福岡義洋 1725）、29 大柳町（芹沢 86355）、30 池金町（芹沢 50893）、31 須美（芹沢 50781）、32a 井ヶ谷町（芹沢 42193）。尾：37a 上半田川町（芹沢 50860）、37b 森林公園（芹沢 53810）、38a 愛知青少年公園（芹沢 76606）、38b 岩藤新田（半田多美子 1387）、39b 杵掛町（芹沢 57195）、42a 板山（芹沢 72331）、42b 三ツ池町（岡本久美子 893）、42c ニツ峰（林彰一 858）、43 大谷（渡辺幸子 720）、44b 大井（芹沢 64388）、45 善師野（芹沢 60747）、47 大草（芹沢 57803）、48 東山町（芹沢 75109）、50 守山区上志段味（福岡義洋 2056）、同小幡緑地（芹沢 54031）、名東区猪高緑地（芹沢 57794）、千種区田代町（広部栄 85）、51 天白区土原（中島ひろみ 254）。*は花が黄白色のものである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	△	○		
水域				

【観察上の留意点】

本種については、1990 年代前半にかなり詳しい分布調査が行われているが、最近の状況は十分把握されていない。上記自生地についても、できるだけ現況を確認する必要がある。

【特記事項】

和名は、水湿地に生え、葉がランのように細いからである。

【関連文献】

保草本 1 p.10, 平 5 p.277.

コオニタピラコ *Lapsanastrum apogonoides* (Maxim.) J.H.Pak et K.Bremer

【概要】

通常耕起前の水田に生育する越年生草本。春早く黄色の花を咲かせる。セトガヤ (244 頁)、サナエタデ (274 頁) などと共に、昔ながらの水田環境を指標する植物である。

【形態】

冬型 1 年生草本。根出葉はロゼット状に広がり、長さ 2~10cm の柄があり、葉身は長さ 2-8cm、羽状に中~深裂する。茎は束生してはじめ横に広がり、先は立ち上がって長さ 10~40cm になる。花期は 3 月下旬~5 月中旬、頭花序は茎の先端や上部の葉脇から出て、上部で分枝し、数個の頭花をつける。頭花は黄色で小花は 6~9 個、花弁は長さ 5~6mm、そう果花笠 3~4mm で、先端に微小な鉤がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 荒尾(榊原利修 363)、9 下吉田 (瀧崎 32497, T)、10 塩瀬 (瀧崎 32457, T)、12 豊栄 (中西普佐子 383)、15 嵩山町(芳山朋子 336)、16 伊古部町 (瀧崎 14983, T)、17 白谷 (小林 50181)、18 亀山町 (村松 26775)。西：20 下国谷 (鈴木万里亜 422)、21 東大沼(長谷川朋美 266)、22 ニツ田 (塚本威彦 896)、23 飯野 (日比野修 2784)、24 御船町 (佐藤久美子 173)、25 越戸町 (山崎玲子 1830)、26 堤本町 (土場トシ子 13)、27 黒笹 (臼井里華 83)、28 夏山 (福岡義洋 76)、29 蓬生町 (伊奈知子 11)、30 舞木町 (瀧崎 14951, T)、31 深溝 (金子律子 74)、32a 井ヶ谷町 (芹沢 45501)、33 別郷町 (堀田喜久 1306)、36 東幡豆大沢 (壁谷重美子 257)。尾：37a 三沢町 (日比野修 151)、38b 岩崎 (半田多美子 35)、39a 和合 (岡本沙矢香 150)、39b 沓掛町 (浅野守彦 867)、40a 吉田町 (森智美 4-12)、40b 森岡 (渡辺麻子 114)、41a 荒尾町 (斉藤雅喜 473)、41b 佐布里 (岡本沙矢香 88)、42a 板山 (渡邊麻子 35)、42b 古浜町 (岡本久美子 258)、43 金山(鳥居ちゑ子 1285)、44a 豊丘 (大西博 240)、45 善師野 (平嶋敏 103)、46a 高雄 (福岡義洋 3150)、47 大山 (日比野修 4715)、48 西尾町 (山田果与乃 26)、49c 師勝町鹿田 (鈴木幸子 416)、49d 西須ヶ口 (芹沢 79193)、50 守山区四軒家 (鳥居ちゑ子 2282)、名東区高針 (鳥居ちゑ子 2269)、北区北久手町 (鳥居ちゑ子 2279)、西区中小田井 (鳥居ちゑ子 2277)、51 緑区鳴海町藤塚 (渡辺幸子 1494)、52 中川区水里 (高木順夫 23177)、53 丹陽町(芹沢 71481)、54 尾西市小信中島 (渡辺幸子 1445)、55 奥田町 (水野峰子 141)、56a 七宝町伊福 (芹沢 91895)、56b 北間島 (芹沢 91066)、57b 立田村村役場付近 (山田茂貴 14)。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、濟州島、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。県内の人里に広く分布するが、量的にはそれほど多い植物ではない。耕起前の水田に生育する植物なので、湿地にマークしてある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【観察上の留意点】

本種も 1990 年代初めに集中的に県内全域の分布が調査されているが、その後の状況は十分把握されていない。上記自生地についても、できるだけ現況を確認する必要がある。

【似た種類】

同属のヤブタピラコ *L. humile* (Thunb.) J.H.Pak et K.Bremer は果時の総苞が球形になり、そう果は長さ約 2.5mm である。名前の通り藪かげなどに多く、水田の畔にも見られるが、通常水田の面には生育しない。

【特記事項】

春の七草のホトケノザは本種である。地表に展開するロゼット葉が仏の座のようだからである。タピラコは田平子で、これもロゼット葉の形態に基づく。しかしキュウリグサも田平子と呼ばれるので、それと区別するため「コ」と「オニ」という相反するような形容詞を二重につけた和名が、現在一般に通用している。

【関連文献】

保草本 I p.14, 平 5 p.283.

タムラソウ *Serratula coronata* L. subsp. *insularis* (Iljin) Kitam.

【概要】

日当りのよい草地に生育する多年生草本。夏～秋にアザミに似た紅紫色の花を咲かせる。山間部の草地には比較的多いが、丘陵地では稀である。良好な草地環境の指標となる。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 80～170cm になる。葉は互生し、下方の葉には長さ 4～17cm の柄があり、葉身は長さ 10～30cm、通常羽状に 7～15 裂する。裂片は長楕円形のことが多く、先端は鋭頭、辺縁に鋸歯があるが、刺はない。上方の葉は次第に小さく、柄も短くなる。花期は 9～10 月、頭花は茎や枝の先端に 1 個ずつつき、紅紫色で直径 3～4cm、総苞は鐘形、長さ 1.5～2cm、総苞片は 6～7 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 御園 (芹沢 21469)、6 西納庫 (芹沢 50259)、7 田口 (小林 67166)、9 黄柳野 (芹沢 53004)、11 中河内 (小林 53548, 53549*)、12 中宇利 (芹沢 57376**), 15 石巻萩平町 (芹沢 64184)、17 浦 (芹沢 54073)、18 亀山 (小林 48294)。西：5 中当 (芹沢 56824)、19 坪崎 (芹沢 63220)、20 中立 (芹沢 68147)、21 蘭 (芹沢 56485)、22 宮前 (伊藤泰輔 88)、23 上川口 (日比野修 859)、24 山中町 (芹沢 60513)、25 猿投町 (山崎玲子 950)、29 小美町 (村松正雄 147)、30 桑谷町 (本多さおり 1093)、36 西幡豆小野ヶ谷 (壁谷重美子 1282)。尾：37a 上品野町 (日比野修 815)。*は葉が切れ込まない型、**は葉が 2 回羽状に切れ込む型である。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。基準亜種 *subsp. coronata* はユーラシア大陸北部に分布する。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。以前はそれほど少ない植物ではなかったが、草地の減少に伴い、見る機会が次第に少なくなっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

本種についても 1990 年代初めに集中的に県内全域の分布が調査されているが、その後の状況は十分把握されていない。谷戸田周辺の草地は放棄されて次第に減少しているため、上記自生地についてもできるだけ現況を確認する必要がある。

【似た種類】

アザミに近縁な植物だが、葉に刺がない。日本では 1 属 1 種で、識別は容易である。

【関連文献】

保草本 1 p.22, 平 5 p.272.

キビシロタンポポ *Taraxacum denudatum* H.Koidz.

【概要】

淡黄色の花をつけるタンポポ。ニホンタンポポと共に、代表的な人里植物である。愛知県での分布は、知多半島先端部の内海を中心とした地域に限られているが、そこでは個体数は少ないものではない。ただし将来的には、ニホンタンポポの夏期休眠性遺伝子を取り込んだ雑種性帰化タンポポの増加により、深刻な影響を受ける可能性がある。

【形態】

多年生草本、根は深く地中に伸びる。葉は束生し、線状楕円形～倒披針形、長さ 12～30cm、幅 2.5～5cm、先端は鋭頭、基部は細まって柄状になり、通常羽状に浅～深裂、裂片は斜上することが多い。花期は 4 月、頭花は束生する花茎の先端に 1 個つき、花茎は花時には長さ 10～25cm で通常葉と同長かそれより短い、花後伸長して長さ 20～40cm となる。総苞は狭卵形～卵形、内片の 1/2～1/3、辺縁部は多少紅色を帯び、先端の突起はほとんどないものから 3mm に達するものまでである。花弁は淡黄色である。そう果は灰褐色～黒褐色、本体の長さは 5mm 程度、長い柄の先に冠毛がある。花がレモン色に近い黄色のものをヤマザトタンポポ var. *arakii* (Kitam.) Seriz. (国 NT、県 NT) という。愛知県ではキビシロタンポポと同じ範囲に生育しているが、やや稀である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：44b 内海北脇（芹沢 32482）。

【国内の分布】

本州（東北地方中部から中国地方までのところどころに分布）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。海岸からやや離れた、谷戸状の場所に多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

路傍に生えるため、観察時に負荷を与えるおそれが少ない植物である。ヤマザトタンポポと共に、ニホンタンポポと比較しながら観察するとよい。

【特記事項】

ニホンタンポポと異なり、4 倍体種で無融合生殖を行う。愛知県におけるキビシロタンポポの詳細な分布図は、芹沢（1986）に示されている。ニホンタンポポは、キビシロタンポポ分布域ではあまり多くない。

ヤマザトタンポポは、愛知県で観察する限りキビシロタンポポと花色が違うだけで、品種程度のもに見える。しかし、全国的に見るとヤマザトタンポポだけの場所、キビシロタンポポだけの場所があるので、変種の階級で区別されている。

【似た種類】

シロバナタンポポ *T. albidum* Dahlst. は花が白色（ただし頭花の中央部は、葯のためやや黄色に見える）で、花時に花茎が高く伸び、総苞外片の突起が大きい。愛知県の平野部全域に点在している。

【引用文献】

芹沢俊介, 1986. 愛知県知多半島に生育する淡黄色花タンポポについて. 植物地理・分類研究 34:55-59.

【関連文献】

平 5 p.288-289, 芹沢俊介, 2006. 淡黄色花タンポポの分類. 植物地理・分類研究 54:21-26.

ニホンタンポポ *Taraxacum platycarpum* Dahlst.

【概要】

最も代表的な春の野の花。代表的な人里植物であるが、自家不和合性の有性生殖を行うので著しく攪乱される場所には生育できない。植物と環境との関連を知る上で最も好適な植物の一つである。

【形態】

多年生草本。葉は束生し、線状楕円形～倒披針形、長さ10～35cm、幅1.5～6.5cm、先端は鋭頭、基部は細まって柄状になり、通常羽状に浅～深裂する。花期は4月、頭花は束生する花茎の先端に1個つき、花茎は長さ15～30cmで通常葉より高く伸びる。総苞外片は卵状披針形～卵形、内片の1/2～2/3、先端の突起はごく小さいものから4mmに達するものまでである。花弁は黄色である。そう果は淡黄褐色、本体の長さは4mm程度、長い柄の先に冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 三ツ瀬（瀧崎 6108, T）、4 天狗棚（鈴木学 816）、7 小松（芹沢 81488）、8 鳳来寺山（加藤等次 1143）、9 下吉田（瀧崎 32489, T）、10 塩瀬（瀧崎 32461, T）、12 一鍬田（加藤等次 1190）、13 杣坂峠（芹沢 51218）、14 豊丘町（瀧崎 29238, T）、15 賀茂町（芹沢 88265）、16 大岩町大穴（丸山由加里 25-30）、17 浦（芹沢 73488）、18 中山（小林 41476）。西：19 島崎（塚本威彦 844）、20 下国谷（新井文子 243）、21 東大沼（長谷川朋美 41）、22 喜佐平（鳥居ちゆ子 587*）、24 東広瀬町（佐藤久美子 40）、25 猿投山（磯貝彰宏 830）、26 水源町（落合鈴枝 744）、27 明知（臼井里華 254）、28 鹿勝川（福岡義洋 169）、29 筒針町（中西普佐子 277）、30 竜泉寺町（本多さおり 232）、31 大草（金子律子 355）、32a 井ヶ谷町（丸山由加里 19-12）、33 西別所町（堀田喜久 190）、34b 前浜町（中村さとこ 3）、35 西奥田町（中村 24）、36 幡豆町東幡豆中柴（壁谷重美子 127）。尾：37a 三沢町（日比野修 1201）、38b 岩藤新田（伊藤恭子 23）、39a 諸輪（鬼頭弘 9）、39b 杓掛町（浅野守彦 1170）、40a 北崎町（中村裕治 360）、40b 緒川（芹沢 71432*）、41b こうの巣（岡本沙矢香 72）、42a 阿久比（渡邊麻子 18）、42b 東大矢知町（岡本久美子 246）、43 矢田（梅田零奈 148）、44a 豊丘（大西博 236）、44b 山海（瀧崎 30172, T）、45 善師野（平嶋敏 125）、46a 山那（上山秀郎 228）、47 小牧市大山（村瀬正成 930029）、48 細野町（竹原芳子 5）、49a 曾野町（水谷善彌 10423）、49d 新川町下河原（芹沢 78514）、50 千種区春岡（丸山由加里 30-27）、西区山田町（鈴木秀樹 1525）、51 天白区平針（丸山由加里 29-4）、御前場町（中島ひろみ 629*）、昭和区五軒家町（花岡昭 6）、南区大同町（渡辺幸子 4129）、52 港区南陽町（鈴木秀樹 1836）、54 尾西市三条（渡辺幸子 8）、55 祖父江町木曾川（鈴木秀樹 1564）、木全町（家田晴俊 17）、56a 甚目寺町下萱津（鈴木秀樹 1667）、57b 立田村森川（石樽弓恵 140）、58a 蟹江町今（永田晴美 442）、58b 前ヶ須新田（芹沢 64814）、58c 木場（芹沢 91933）。*は淡黄色花品である。

【国内の分布】

本州（東北地方南部～中国地方東部）および四国東部。中国地方西部や九州北部にも移入された集団がある。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	○
湿地				
水域				

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。平野部では多いが、山地では見られなくなる。

【観察上の留意点】

帰化タンポポ（セイヨウタンポポ+アカミタンポポ）との関係に注意しながら観察するとよい。本種と帰化タンポポの分布比を示した地図は「タンポポ地図」と呼ばれる。愛知県では1983～85年と1995～99年にかなり広域の調査が行われ、豊明市周辺の状況は1995年から継続して調べられている（渡邊・芹沢 2012）。

【特記事項】

一般的な図鑑類では、愛知県のものはセイタカタンポポまたはトウカイトンポポとされていることが多い。

【引用文献】

渡邊幹男・芹沢俊介. 2012. 見てわかる生物多様性② 愛知県のタンポポ地図. 29頁. 愛知教育大学自然科学系生物領域, 刈谷.

【関連文献】

平 5 p.288 (トウカイトンポポ、セイタカタンポポとして), 芹沢俊介, 1995. エコロジーガイド 人里の自然. 196頁. 保育社, 大阪.

オカオグルマ *Tephrosia integrifolia* (L.) Holub subsp. *kirilowii* (Turcz. ex DC.) B.Nord.

【概要】

日当りのよい草地に生育する多年生草本。春に黄色の花を咲かせる。山里の春を飾る花の一つであるが、標本資料の蓄積はやや不十分である。詳細な県内分布を把握しておきたい植物の一つである。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 15～60cm になり、基部に綿毛がある。根出葉はロゼット状になり、翼のついた短柄があるか無柄、葉身は長楕円形～長卵形、長さ 4.5～12cm、幅 1.2～3.5cm、先端は鈍頭～鋭頭、辺縁に不揃いな歯状の鋸歯がある。茎葉は 3～7 個で、上方に行くほど小さく、細くなる。花期は 4 月～5 月中旬、頭花は茎の先端に 4～10 個が集まってつき、黄色で直径 2.5～3.5cm、柄ははじめ短いが、後に長くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 田峰（石川静雄 81）、8 長篠（加藤等次 2789）、12 豊栄（中西普佐子 442）、14 相楽町（小林 71409）。西：5 大野瀬（塚本威彦 2210）、19 沢尻（塚本 556）、20 御蔵町（芹沢 85485）、21 梶（芹沢 61014）、22 大平（鳥居ちゑ子 3）、23 大岩（日比野修 204）、24 幸海町（山田初代 413）。尾：37a 片草町（日比野修 1195）。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。山間部の人里周辺に見られるが、それほど多いものではない。平野部にはなく、人里から離れた山の草地にも生育していない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

土手に生えるため観察しやすく、観察時にあまり負荷を与えなくてすむ植物である。しかしそれほど多い植物ではないから、それなりの配慮は必要である。

【似た種類】

サワオグルマ *T. pierotii* (Miq.) Holub は湿地に生育し、より大形で、茎葉が多い。愛知県では三河山地の山麓部や渥美半島に分布しており、東：6 川向（芹沢 54686）、15 岩崎町（芹沢 58541）、17 衣笠山（芹沢 51269）、18 伊川津（芹沢 51281）、西：21 田代（長谷川朋美 61）、24 松平町（山崎玲子 381）、28 保久町（芹沢 84085）、29 才栗町（芹沢 65328）、31 深溝（金子律子 251）、尾：45 池野（芹沢 69252）などで確認されている。

【関連文献】

保草本 1 p.45, 平 5 p.312.

オオカメノキ *Viburnum furcatum* Blume ex Maxim.

【概要】

山地の落葉広葉樹林内に生育する落葉亜高木。全国的に見ればブナ帯の植物であるが、愛知県では低山地にも生育していて、その意味で地域を特徴づける植物の一つである。名古屋市 VU。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 5~6m になる。若枝は褐色で、細かい星状毛を密生する。葉は対生し、長さ 1.5~4cm の柄があり、葉身は円心形~卵状楕円形、長さ 10~18cm、先端は鋭頭~短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面には細かい星状毛があるが、のちに無毛となる。花期は 4~5 月、枝先に直径 6~13cm の散房花序をつけ、装飾花の花冠は白色で直径 2~3.5cm、5 深裂する。果実は長楕円形、長さ 7~12mm、はじめ赤色、のちに黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 新野峠（加藤等次 3145）、4 白鳥山（石田雄吉 358）、6 段戸山（芹沢 86746）、（7 宇連（小林 53609）、11 鴨ヶ谷（芹沢 54498）。西：5 野入川上流（芹沢 43681）、19 牛地駒山（芹沢 65723）、20 井ノ口町（芹沢 92806）、22 新田（芹沢 48099）、23 北一色（塚本威彦 473）、24 西広瀬町（芹沢 64596）、25 猿投山（磯貝彰宏 988）、28 切山（芹沢 71462）。尾：37a 白岩町（芹沢 48153）、海上町（芹沢 75330）、48 外之原町（日比野修 3118）、50 守山区東谷山（日比野 4408）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

概要の項参照。それほど多くはないが点在している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

点在しているが、花や果実のあるものでなければ通常採集しないから、標本資料の蓄積はやや不十分である。詳細な県内分布を把握しておきたい植物の一つである。

【似た種類】

ヤブデマリ *V. plicatum* Thunb. var. *tomentosum* Miq. は高木になり、葉は小さく、その基部はくさび形~円形である。愛知県では、東：2 坂宇場（加藤等次 3146）、3 下栗代（榊原利修 533）、4 中山沢（瀧崎 28610, T）、6 川向（芹沢 51778）、9 下吉田（瀧崎 28362, T）、11 中河内（芹沢 55050）、12 富岡（瀧崎 28724, T）、13 国坂峠（中西普佐子 3603）、14 五井山（井上美保子 233）、15 嵩山町（芳山朋子 538）、17 衣笠山（芹沢 51268）、西：5 黒田（塚本威彦 2632）、19 牛地駒山（芹沢 65713）、20 大多賀（山田果与乃 1244）、21 梶（長谷川朋美 285）、22 西丹波（塚本威彦 1013）、23 西市野々（日比野修 334）、24 国附町（佐藤久美子 456）、28 鳥川（福岡義洋 368）、29 蓬生町（伊奈知子 211）、30 鉢地町（本多さおり 174）、尾：37 広久手町（芹沢 75457）、45 八曾（松田ちか子 252）、48 外之原町（日比野修 2027）、53 光明寺木曾川（芹沢 58320）などで採集されているが、これも標本資料の蓄積はやや不十分である。ヤブデマリの学名上の基準変種となるオオデマリ var. *plicatum* は全部の花が装飾花になるもので、観賞用に栽培される。

【特記事項】

ムシカリともいう。

【関連文献】

保木 I p.31, 平 5 p.407-408, RDB なごや 2015 p.285.

オミナエシ *Patrinia scabiosifolia* Fisch.

【概要】

日当りのよい草地に生育する多年生草本。秋に黄色の花を咲かせる。秋の七草の一つで、里草地の代表的な植物でもある。名古屋市 CR。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 70~120cm で、下部にまばらにあら毛がある。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は羽状に深~全裂し、頂羽片が最も大きく、長楕円状ひし形~線状楕円形、長さ 2~6cm、鋭頭~鋭尖頭、側羽片は 1~3 対である。花期は 8~10 月、茎の先端に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、黄色、花冠は 5 裂し、直径 3~4mm、雄ずいは 4 本である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 坂宇場大牧（芹沢 63285）、4 前井口（芹沢 78733）、6 段戸高原井戸沢（芹沢 70550）、8 鳳来寺山（加藤等次 1859）、9 乗本（芹沢 60127）、12 富岡（芹沢 67036）、13 一宮町上長山（芹沢 60097）、14 相楽町（鈴木美恵子 189）、15 嵩山町（芳山朋子 778）、16 前芝町（小林 46480）、17 赤羽根東山（芹沢 53618）、18 石神（小林 47703）。西：5 三国山（芹沢 87753）、19 駒山（芹沢 56546）、20 追分（芹沢 70264）、21 東大沼（芹沢 62810）、22 三ツ久保（伊藤泰輔 83）、23 西市野々（塚本威彦 267）、24 西広瀬町（芹沢 67169）、25 猿投町（畑佐 4993）、27 打越（芹沢 63939）、28 夏山（福岡義洋 997）、29 桑原町（杉田一記 2042）、30 桑谷町（芹沢 70933）、32a 井ヶ谷町（芹沢 35737）、36 東幡豆三ヶ根山（芹沢 71122）。尾：37a 海上町（芹沢 75069）、39a 諸輪（芹沢 53069）、39b 杵掛町（浅野守彦 1098）、41b 佐布里（加藤雅憲 1404）、42a 草木（渡邊麻子 936）、42b 三ツ池町（岡本久美子 805）、43 常滑夏敷（芹沢 76251）、44a 古布（芹沢 62711）、44b 大井赤田（大西博 1162）、45 八曾（松田ちか子 778）、50 守山区下志段味（鳥居ちゑ子 1870）、51 緑区みどりが丘公園（渡辺幸子 6463）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア北部。

【生育地の環境／現在の生育状況】

全国的には減少傾向の著しい植物で、時折レッドデータブックに掲載するかどうか話題になるほどであるが、愛知県では広い範囲に生育しており、個体数もまだかなり多い。ただし、丘陵地までは点在しているが、平野部ではほとんど見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

代表的な草地性の植物であり、ある程度まとまって生育している場所では継続的なモニタリングを行うことが望ましい。一方分布の周辺域では、詳細な分布を確認しておきたい植物である。ただし時に栽培されることがあるので、逸出でないか確認が必要である。分布の中心域でも、1990 年代前半に広範囲に調査されたあと近況が把握されていない場所が多い。上記自生地についても、できるだけ現況を確認しておきたい。

【特記事項】

女郎花と書く。優しい姿の植物であるが、やや悪臭がある。

【関連文献】

保草 I p.102, 平 5 p.423, RDB なごや 2015 p.157.

オトコエシ *Patrinia villosa* (Thunb.) Juss.

【概要】

山地の林縁などに生ずる多年生草本。オミナエシと比較しながら観察するとよい。名古屋市 EX。

【形態】

多年生草本。長い走出枝を出し、その先に新株をつくる。茎は高さ 60~100cm で、全体に毛が多い。葉は対生し、下部のものには柄があり、葉身は頂小葉が著しく大きい羽状に深裂するか、裂けずに鈍鋸歯縁となる。花期は 8~10 月、茎の先端に上部がほぼ平らの集散花序を散房状につける。花は多数つき、白色、花冠は 5 裂し、直径約 4mm、距はない。果実は倒卵形で長さ 2~3mm、小苞が発達した円心形の翼がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 大沼上（芹沢 67348）、2 坂宇場（芹沢 63272）、3 本郷（芹沢 62452）、4 箱淵（芹沢 67387）、6 東納庫（芹沢 77556）、8 鳳来寺山（加藤等次 1789）。9 七郷一色（芹沢 59956）、11 菅沼（芹沢 67995）、12 上平井（小林 53521）、13 財賀寺（瀧崎 15331, T）、14 相楽町（鈴木美恵子 227）、15 嵩山町（芹沢 42021）。西：5 林道稲橋滝ヶ洞線（鈴木学 1611）、19 日下部（芹沢 62535）、20 下国谷（鈴木万里亜 990）、21 梶（長谷川朋美 758）、22 築平（伊藤泰輔 110）、23 折平（塚本威彦 284）、24 西広瀬町（佐藤久美子 1194）、25 猿投山（土場トシ子 194）、28 細光（福岡義洋 1158）、29 小丸町（杉田一記 2293）、30 山綱町（本多さおり 704）、36 東幡豆大沢（壁谷重美子 1026）。尾：37a 広久手町（芹沢 76192）、44b 豊浜（大西博 955）、45 栗栖（平嶋敏 926）、48 外之原町（秋山葉子 116）、51 天白区御幸山（渡辺幸子、1980 年）。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球（奄美大島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／現在の生育状況】

オミナエシと異なり明るい草地に生育することはなく、林縁などやや攪乱のある、またやや湿った場所に生育している。山地ではオミナエシより多いが、丘陵地ではほとんど見られなくなる。名古屋市内では土地造成のため生育していた場所が破壊され、現存が確認できなくなっている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

分布の周辺域では、点在しているため分布状況が十分把握されていない。詳細な分布を確認しておきたい植物である。本種はオミナエシと異なり、通常栽培されない。

【特記事項】

オミナエシに比べて全体強壯であるので、オトコエシという。オミナエシと同様やや悪臭があり、中国では敗醬と呼ばれる。オトコオミナエシ *S. monandra* C.B. Clarke はオトコエシとオミナエシの雑種と言われているが実際には中国大陸原産の帰化植物で、本種によく似ているが花が淡黄色である。愛知県では 20 安美京（日比野修 3760）と 37a 下半田川町（日比野 5268）で記録されている。

【関連文献】

保草本 I p.102, 平 5 p.423, RDB なごや 2015 p.108.

タニウツギ *Weigera hortensis* (Sieb. et Zucc.) K.Koch

【概要】

路傍などのやや攪乱された場所に生育する陽性の低木。初夏に淡紅色の花を多数つける。日本海側に多い植物で、愛知県ではそれほど多くない。県内に自生する日本海系の植物として最も目につく種類である。名古屋市 EN。

【形態】

落葉性の低木。高さ 5m に達する。葉は対生し、長さ 3~10mm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 4~10cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形~円形、辺縁には小さい鋸歯があり、裏面に白色の軟毛を密生する。花期は 5~6 月、花は枝の先端や葉腋から出る短枝に 2~3 個ずつつき、花冠は長さ 2.5~3.5cm、淡紅色だがつぼみの時は色が濃く、筒部は上部が鐘状にふくらみ、先端は 5 裂して直径約 2cm になる。花の白いものをシロバナウツギ form. *albiflora* (Sieb. et Zucc.) Rehder という。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 本宮山 (小林 53960)、13 本宮山 (小林 43282)。西：20 四ツ松 (芹沢 71495*, 71501)、21 花沢 (長谷川朋美 399)、22 万作 (塚本威彦 1459*)、23 西市野々 (日比野修 326, 332*)、24 西広瀬町 (芹沢 65347)、六所山 (落合鈴枝 230)、25 猿投山 (土場トシ子 520)、猿投町 (山崎玲子 765*)、28 細光 (福岡義洋 506)、30 山綱町 (小林 59536)、32a 井ヶ谷町 (芹沢 45666, 移入の可能性がある)。尾：37a 下半田川町 (塚本威彦 304)、片草町 (大谷敏和 51*)、45 栗栖 (平嶋敏 538)、48 細野町 (山田果与乃 51)、50 守山区上志段味 (鳥居ちゑ子 3345)。*はシロバナウツギである。

【国内の分布】

北海道 (西部)、本州 (日本海側)。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【生育地の環境/現在の生育状況】

犬山から三河本宮山にかけて点在しているが、西三河北部以外では少ない。

【観察上の留意点】

花色が美しいためしばしば観賞用に栽培される。学名の *hortensis* は栽培種という意味である。思わぬ場所に出現した場合は、栽培品の逸出の可能性があるので、周囲をよく観察する必要がある。

【似た種類】

ヤブウツギ *W. floribunda* (Sieb. et Zucc.) K.Koch は花冠が暗紅紫色で、外側に毛が多い。愛知県では三河山地に広く分布しており、東：1 大沼上 (小林 59622*)、佐久間湖西岸 (芹沢 51328)、2 奥山 (小林 43544*)、大入溪谷 (加藤等次 2919)、3 振草 (小林 42806**, 42807)、4 折元峠付近 (芹沢 81444)、溜淵 (小林 63774*)、6 東納庫 (芹沢 51752)、八橋 (小林 37039*)、7 平山 (榊原利修 482)、8 長篠 (加藤等次 2784)、9 上吉田 (小林 49327)、10 布里枳沢 (加藤等次 1366)、11 下菅沼 (芹沢 61440)、杉平 (小林 51496*)、12 市川 (芹沢 58150)、13 一宮町上長山~本宮山 (小林 39557)、西：5 夏焼温泉 (福岡義洋 3237)、19 駒山 (芹沢 65708)、有間 (塚本威彦 948*)、杉本 (日比野修 1172**)、20 下国谷 (鈴木万里亜 397)、21 平瀬 (長谷川朋美 301)、22 涼堂 (塚本威彦 953)、23 下川口 (塚本 540)、24 国附町 (芹沢 65383, 65384**), 28 本宮山 (芹沢 75524) などの標本がある (*はシロバナヤブウツギ、**は淡色花品) が、尾張では極めて少なく、37a 岩屋町 (塚本威彦, 2006 年) で採集されているだけである。ニシキウツギ *W. decora* (Nakai) Nakai はタニウツギと対照的に太平洋側に多い種で、花ははじめ白色に近くのち紅紫色になり、葉裏は脈状に毛があるが緑色である。愛知県では三河山地に生育しているが、分布域は東：1 大沼上 (小林 44754)、2 茶臼山 (加藤等次 4538)、4 折元峠付近 (芹沢 81442)、8 鳳来寺山 (加藤等次 1397)、西：5 野入 (塚本威彦 2659) などに限られている。ハコネウツギ *W. coraeensis* Thunb. は花はニシキウツギに似て葉がほとんど無毛、愛知県には本来自生していないが、栽培品が逸出したものがところどころに生育している。これら 3 種も、タニウツギと併せて観察するとよい。

【関連文献】

保木 1 p.18-19, 平 5 p.427, RDB なごや 2015 p.215.

マツカゼソウ *Boenninghausenia japonica* Nakai

【概要】

代表的なニホンジカの不嗜好植物。食害がある場所では、必ず本種が目立つようになる。被害状態をモニタリングする上で、食害で消失してしまうコアカソ、アオキ、ハナイカダなどと組み合わせ、是非とも注目したい植物である。

【形態】

多年生草本。茎は直立して上方で分枝し、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、3 回 3 出複葉、無毛でやわらかく、小葉は倒卵形～楕円形、長さ 10～25mm、先端は円頭、基部はくさび形、全縁で裏面は白色を帯びる。花期は 8～10 月、茎の上部に円錐状の集散花序となつてつき、花弁は白色、長楕円形で長さ 3～4mm である。果実は 4 分果に分かれ、分果は卵形で長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 上黒川 (芹沢 63333)、3 御園 (小林 39339)、本郷 (芹沢 62455)、4 水梨川 (小林 47811)、6 八橋 (瀧崎 24417, T)、7 岩古谷山 (芹沢 63039)、8 榎原 (堀田喜久 2479)、9 乗本 (小林 49291)、10 玖老勢 (芹沢 67834)、11 高松 (芹沢 67062)、12 富岡 (瀧崎 32283, T)、15 石巻町 (瀧崎 15216)、17 大久保 (小林 49428)。西：5 中当 (芹沢 56830)、19 坪崎 (芹沢 63212)、20 寧比曾岳 (水野岸子 527)、四ツ松 (鈴木万里亜 1110)、21 東大沼 (長谷川朋美 941)、22 大ケ蔵連 (塚本威彦 1271)、23 白川 (塚本 314)、24 六所山 (山崎玲子 639)、25 猿投山 (磯貝彰宏 1597)、28 鹿勝川 (福岡義洋 1401)。尾：37a 広久手町 (芹沢 75147)、45 栗栖 (芹沢 40819)、48 外之原町 (山田果与乃 93)。

【国内の分布】

本州 (東北地方南部以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／現在の生育状況】

ニホンジカの食害がある場所では、林縁や林内の明るい場所などに群生する。食害のない場所でも同じようなところに生育しているが、それほど多いものではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【観察上の留意点】

今回取り上げた他の種とは異なり、「増えては困る植物」である。しかし、本種が増えるのは他の植物が消えて競合相手がなくなるためであるから、除去活動などは全く無意味である。

【特記事項】

和名は松風草で、風になびく姿に趣があるからというが、今となってはとんでもない話である。コアカソの項で付記したナガバヤブマオ、シダ植物のイワヒメワラビ、コバノイシカグマ、オニヒカゲワラビ、それに帰化植物のベニバナボロギクなどもニホンジカの不嗜好植物で、食害がある場所では目立つようになる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.83, 平 3 p.300-301.